長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選

(三)

２０１３

公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

序　　文

『長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選』は、当センターが昭和５７年に設立されて以来、30 年間の歩みのなかで蓄積された膨大な資料から、これまで充分に成果報告がなされていなかった重要資料を掲載し、広くご活用頂くために刊行しているものです。３冊目となる本書には、４地点の発掘調査で得られた奈良時代と平安時代の資料を掲載しています。

乙訓地域の歴史を考える上で重要な出来事は、いうまでもなく長岡京遷都ですが、都が置かれる前の状況、また都が平安京に遷った後の状況を示す資料は決して多くはありません。しかし、遷都前後の時代の解明は、乙訓地域の変遷を考える上で非常に重要な作業といえるでしょう。

右京第 162 次調査成果は奈良時代・伊賀寺遺跡の資料であり、右京第 244 次調査成果は飛鳥時代に建立された鞆岡廃寺に関係する資料です。また、右京第 272 次調査成果は平安京遷都後に移された第３次山城国府に関係すると考えられる資料、右京第 407 次調査成果は平安時代・乙訓寺の周辺を考える際の資料と、いずれも地域史の解明には欠かせない資料です。本書が乙訓の地域研究等に広くご活用頂けることを祈念しています。

最後になりましたが、当センターの各種事業にご指導・ご協力頂きました皆さまに厚くお礼申し上げます。当センターでは今後とも埋蔵文化財の資料化、普及啓発活動事業などに積極的に取り組んで参ります。より一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成 25 年 12 月

公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

理事長　　井　上　満　郎

例　　言

1．本書は、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターがこれまでに実施した発掘調査、立会調査から、充分な成果報告がなされていなかった重要資料をまとめたものである。

2．本書収録の調査には、長岡京跡とその他の遺跡の調査がある。各遺跡の推定範囲は、『長岡京市遺跡地図』第５版（2006 年）によった。調査次数は各遺跡の調査回数を示し、長岡京跡では右京域と左京域に分けて通算したものである。また、調査地区名は、前半が奈良文化財研究所の遺跡分類表示、後半が京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』（1977 年）収録の旧大字小字名による地区割りと同地区内における調査回数を示す。また、立会調査は、最初の２桁が調査年度の西暦表記、後半が年度内の通算立会調査次数を示す。

3．長岡京跡の条坊名称は、山中章「古代条坊制論」『考古学研究』第 38 巻第４号（1992 年）の復原案に従った。

4．本書で使用する地形区分は、特に断らない限り「長岡京市域地形分類図」『長岡京市史』資料編一（1991 年）によった。

5．本文の参考文献、（注）に示した報告書のうち、使用頻度の高いものについては、『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第２集（1985 年）に従って以下のように略記した。

・京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』○　→　『京都府概報』○

・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査概報』第○冊
　→　『京都府センター概報』第○冊

・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査報告集』第○冊
　→　『京都府センター報告集』第○冊

・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査報告書』第○冊
　→　『京都府センター報告書』第○冊

・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府埋蔵文化財情報』第○号
　→　『京都府センター情報』第○号

・長岡京市『長岡京市史』○○編○　→　『長岡京市史』○○編○

・長岡京市教育委員会『長岡京市文化財調査報告書』第○冊　→　『長岡京市報告書』第○冊

・公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成○年度
　→　『長岡京市センター年報』平成○年度

・公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第○集
　→　『長岡京市センター報告書』第○集

・公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター『長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選』（○）
　→　『長岡京市センター資料選』（○）

・公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都市埋蔵文化財研究所調査概要』平成○年度
　→『京都市研究所概要』平成○年度
・公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第○冊
　→『京都市研究所報告』第○冊
・向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財調査報告書』第○集　→『向日市報告書』第○集
・公益財団法人向日市埋蔵文化財センター『向日市埋蔵文化財調査報告書』第○集
　→『向日市報告書』第○集
・公益財団法人向日市埋蔵文化財センター『年報　都城』○　→『向日市センター年報』○
・大山崎町教育委員会『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第○集
　→『大山崎町報告書』第○集
・大山崎町教育委員会『大山崎町文化財年報』平成○年度　→『大山崎町年報』平成○年度
・長岡京跡発掘調査研究所『長岡京跡発掘調査研究所調査報告書』第○集
　→『長岡京跡研究所報告書』第○集
・長岡京跡発掘調査研究所『長岡京跡発掘調査研究所ニュース　長岡京』第○号
　→『長岡京ニュース』第○号

6．本書において使用している遺構番号は、長岡京跡に関する調査の場合、調査次数＋番号であるが、報告によっては煩雑さを避けるため調査次数を略している。「SD01」などの場合は、調査次数を冠した「SD ○○○ 01」が正式な番号である。

7．本書の挿図写真番号・付表番号は、各資料項目ごとに番号を付した。番号の重複を避けるために、まず、資料項目の順番を付し、次いで資料項目内での番号を記した。「1．長岡京跡右京第 162 次調査」に掲載した第 1 図の場合は、「第 1 － 1 図」と表記する。

8．本書で使用している方位と国土座標値は、旧座標系の第Ⅵ系によっている。

9．現地調査は、小田桐　淳、中島皆夫が担当した。

10．遺物写真は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所に撮影を依頼した。

11．本書の執筆は、基本的に調査担当者が分担し、文末に氏名を記した。

12．本書の編集は、技術補佐員・整理員の協力のもとに中島皆夫が行った。

目　　次

序　　文 …… i
例　　言 …… iii

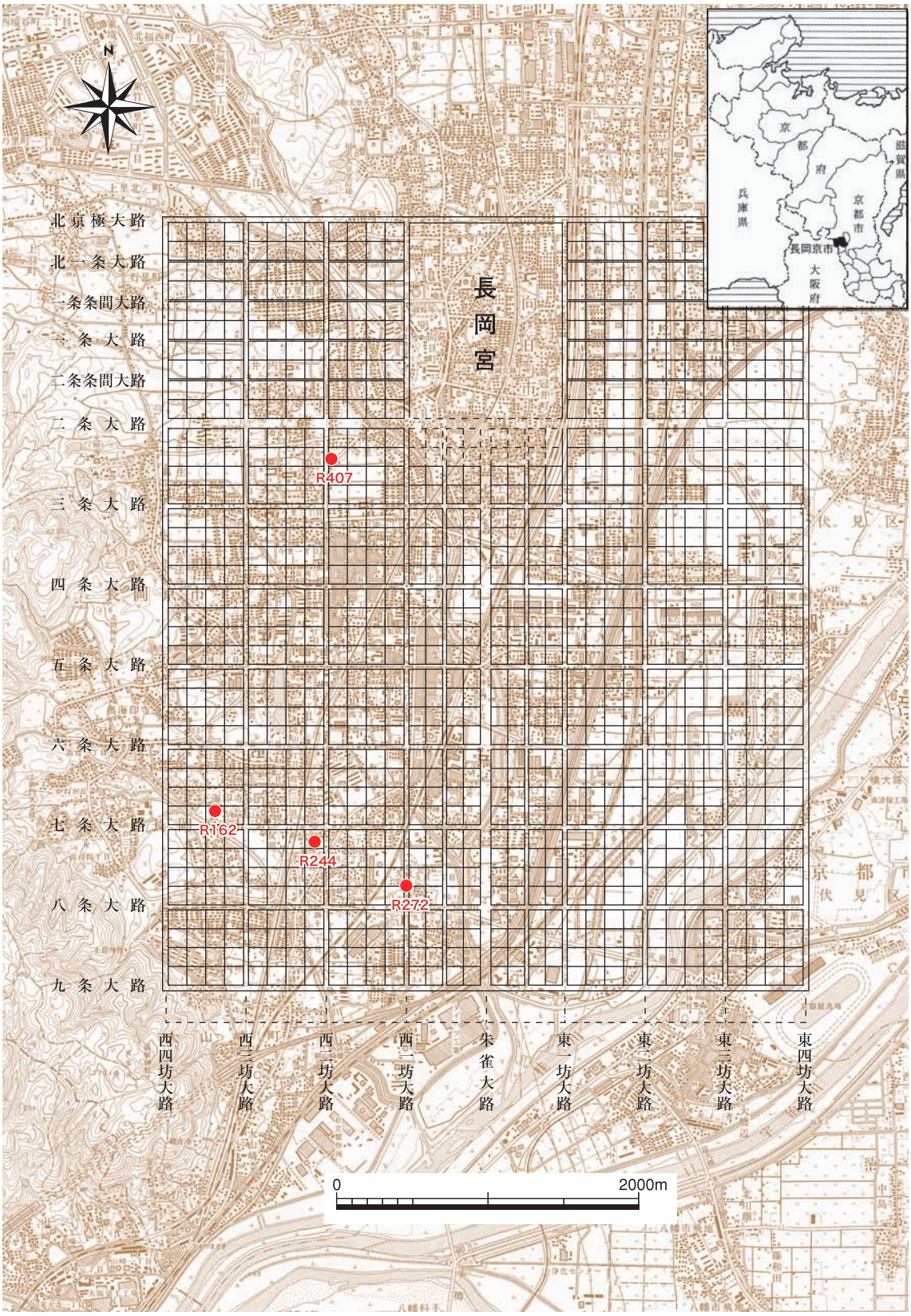
1．長岡京跡右京第 162 次調査 …… 1
　～ 奈良時代　伊賀寺遺跡、土坑等出土資料 ～

2．長岡京跡右京第 244 次調査 …… 17
　～ 奈良時代　友岡遺跡・鞆岡廃寺、溝等出土資料 ～

3．長岡京跡右京第 272 次調査 …… 37
　～ 平安時代　南栗ヶ塚遺跡、土坑等出土資料 ～

4．長岡京跡右京第 407 次調査 …… 57
　～ 平安時代　今里遺跡、掘立柱建物等出土資料 ～

＊ 表紙カット　右京第 272 次調査　土坑 SK12 出土の海老錠鍵



長岡京と調査地の位置（1/40000）

1．長岡京跡右京第 162 次調査

～ 奈良時代　伊賀寺遺跡、土坑等出土資料 ～

調 査 地　長岡京市下海印寺上内田 53―16、56―3　　**地 区 名**　7ANOKD － 1 地区

調査期間　1984（昭和 59）年 5 月 22 日～ 6 月 25 日　　**調査面積**　185㎡

時　　期　奈良時代　　**出土遺物**　38 箱

立　　地　氾濫原Ⅱ　　標高約 31.3 m

参考文献　小田桐 淳「右京第 162 次調査略報」『長岡京市センター年報』昭和 59 年度 1985 年

調査の概要

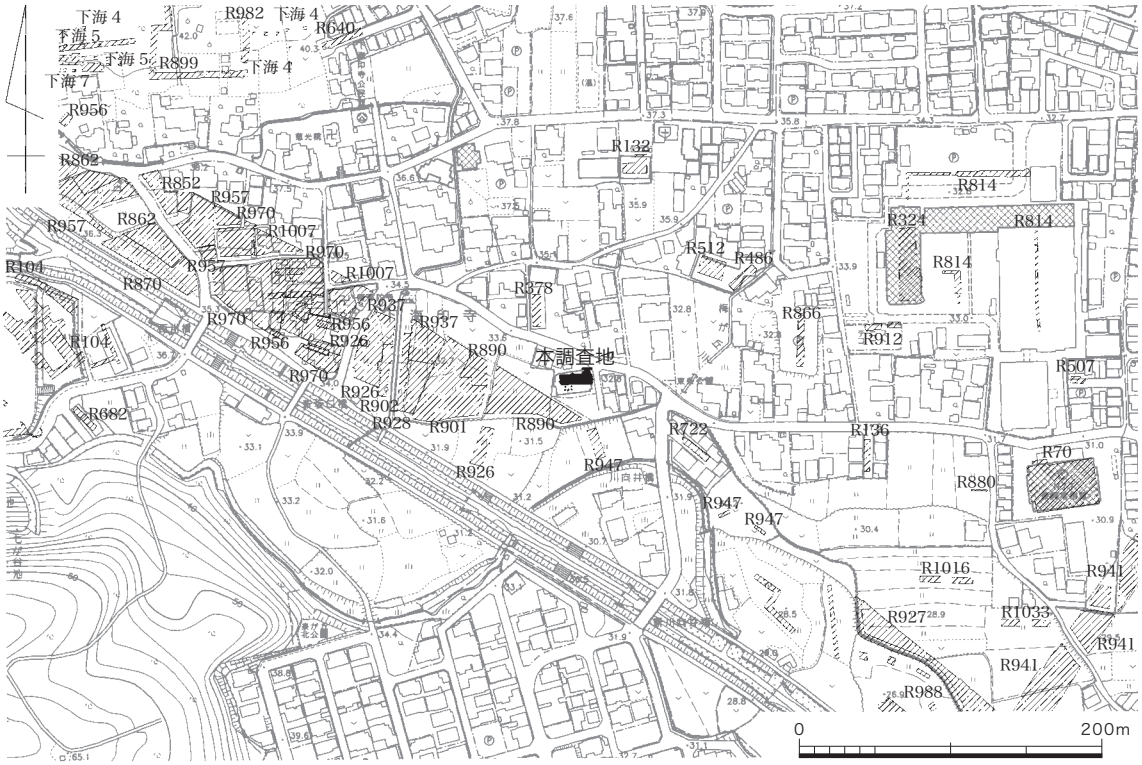
本調査は集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査である。

調査地は小泉川左岸の河岸段丘上に立地しており、縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡である伊賀寺遺跡に含まれるところである。また、調査地の西方に近接して旧石器時代から江戸時代の集落遺跡である下海印寺遺跡や、長岡京跡の祭祀遺跡でもある西山田遺跡が所在している。

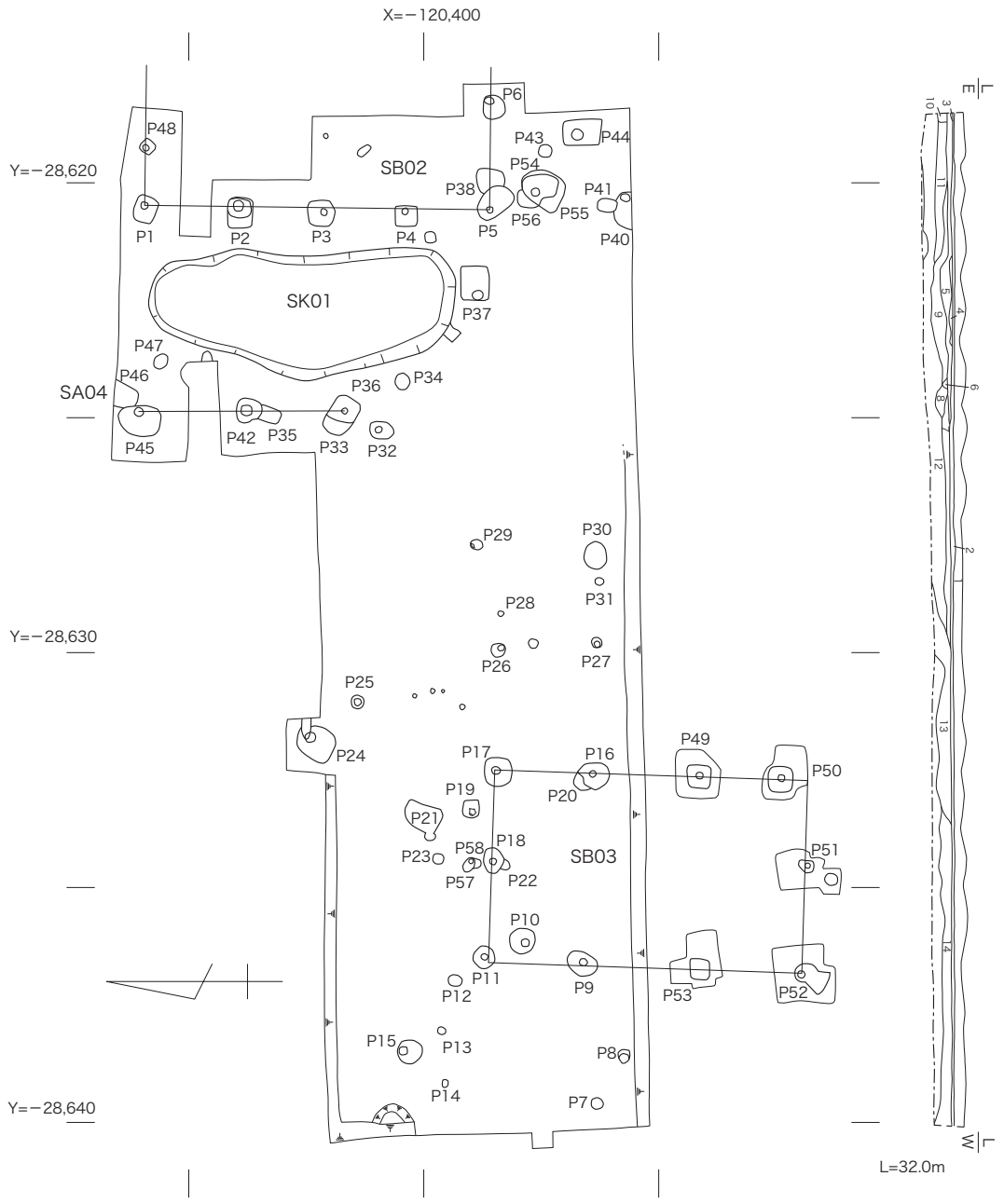
調査地は段丘の一つの面にあたり、トレンチの北側は 1 mほどの高さの段丘崖となっている。

当地は畑地として利用されていたが元は水田で、耕作土・床土層を除去すると地山面となる。床土と地山との間からは長岡京期を含む奈良時代の土器類や製塩土器片が多く出土している。

検出された遺構は掘立柱建物、柵列を含む柱穴群と南北に細長い大型の土坑であり、これらの遺構を解明するため適宜拡張をおこない、調査面積は最終的に 185㎡となった。



第 1 － 1 図　発掘調査地位置図（1/5000）



1　耕作土
2　床土
3　淡灰色粘質土
4　灰褐色土
5　黄褐灰色土
6　淡灰色土・以下地山
7　暗灰色土
8　黄灰褐色土
9　黄灰色土
10　暗茶褐色土
11　地山Ⅱ
12　淡黄灰色粘質土
13　黄灰色粘質土
14　灰褐色砂質土（礫を多く含む）

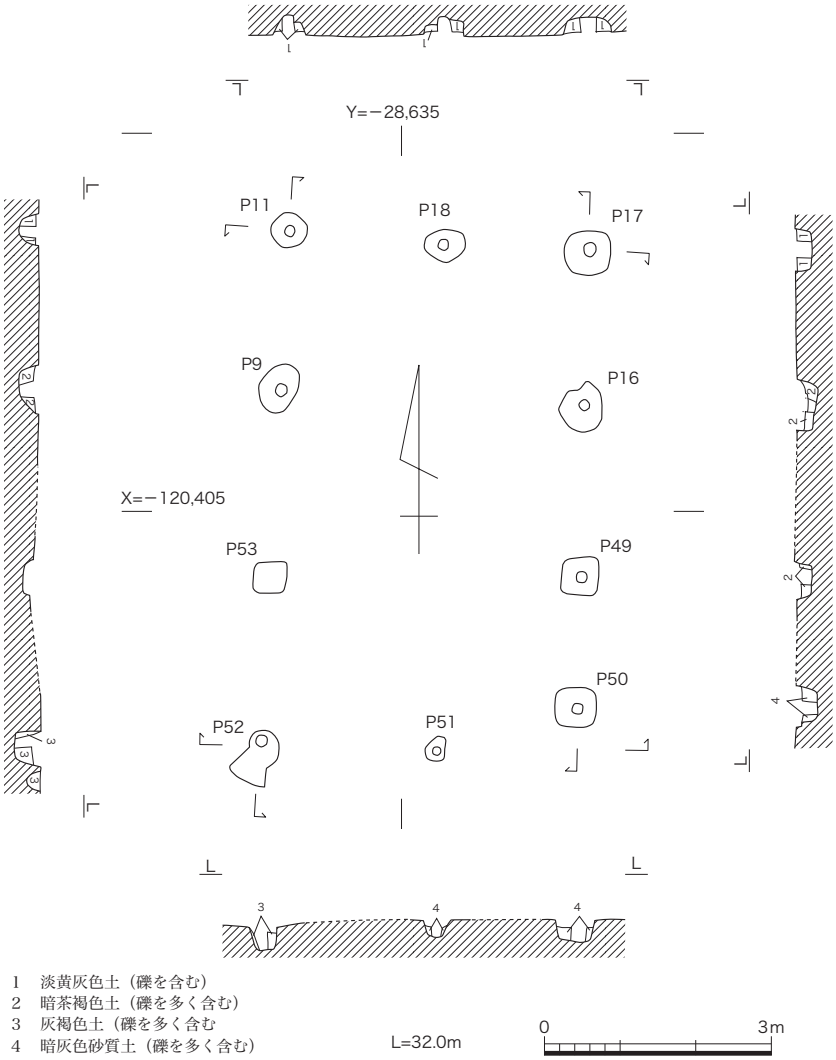
第１－２図　検出遺構図（1/150）

検出遺構

今回確認された遺構は掘立柱建物２棟と柵列、土坑である。土坑からは奈良時代の遺物とともに大量の製塩土器が出土している。

掘立柱建物 SB03 は２間×３間の南北棟で、方位は北で東に２°ほど振れている。柱間は梁間２m、桁行 2.2 mほどを測る。

掘立柱建物 SB02 は４間×１間以上の南北棟と考えられる建物で、方位は正方位を向く。柱間



第１－３図　掘立柱建物 SB03 実測図（1/100）

は桁行 1.8 mほどである。

柵列 SA04 も正方位を向く南北方向の柵列で２間分検出された。柵列の北は段丘崖で１mほど高くなっているため、この柵列は２間で終結する可能性が高いと考えられる。

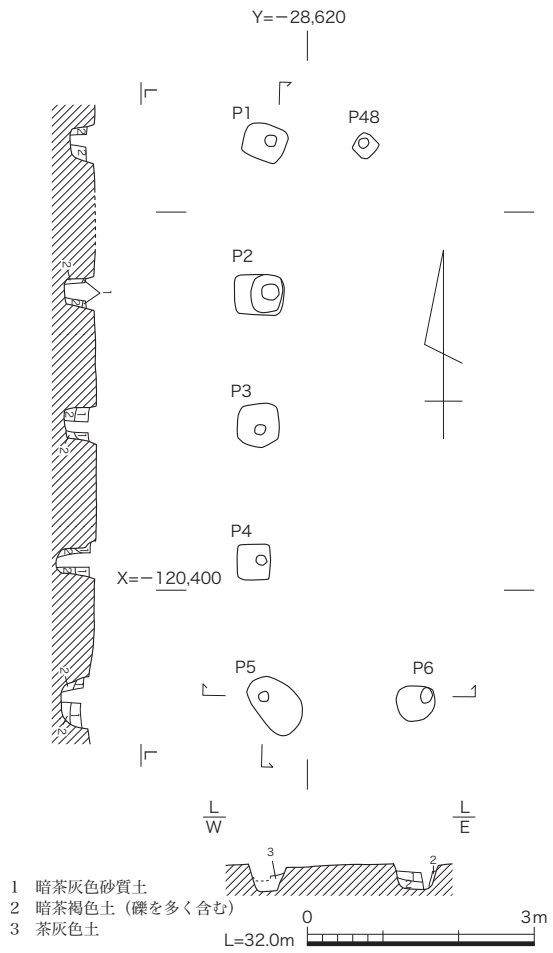
土坑 SK01 は、掘立柱建物 SB02 と柵列 SA04 との間で検出された南北に細長い大型の土坑である。規模は最大幅３mで、長さ８m、深さ 0.25 mを測る。中からは奈良時代の土器類とともに大量の製塩土器が出土した。

出土遺物

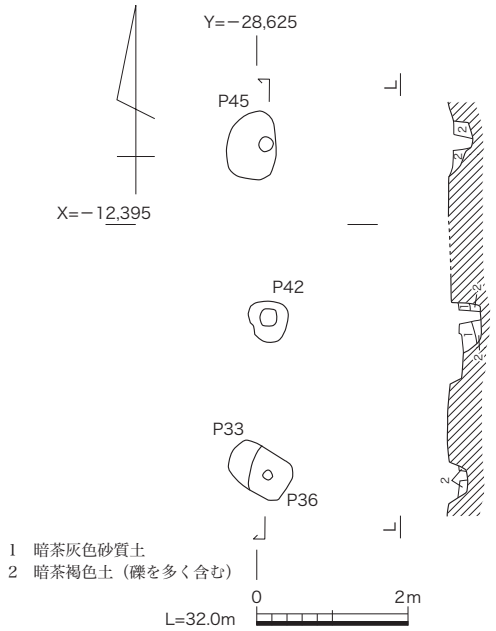
今回図示した遺物は、ほとんどが土坑 SK01 から出土したものである。ほかに、床土層や検出面からも多くの破片が出土している。

土坑 SK01 出土遺物（第１－７～９図）　土師器では椀、杯、皿、甕、鍋などが出土している。７の杯内面には放射状の暗文が一部に施されている。14 の高杯の杯部内面には放射状暗文が密に施されている。

須恵器では杯Ｂ蓋、杯Ｂ、壺類が出土している。36 は口縁部が大きく外反し、高台は底部の



第 1 − 4 図　掘立柱建物 SB02 実測図（1/100）



第 1 − 5 図　柵列 SA04 実測図（1/100）

かなり内側に貼り付けられているものである。金属器写しの椀である可能性が考えられる。

製塩土器は破片を含めると、土坑出土遺物全体の 8 割以上になる。形態は深い椀形になると思われるもので、粘土紐巻き上げ痕が明瞭に残っている。大阪湾岸産のものであると考えられる。

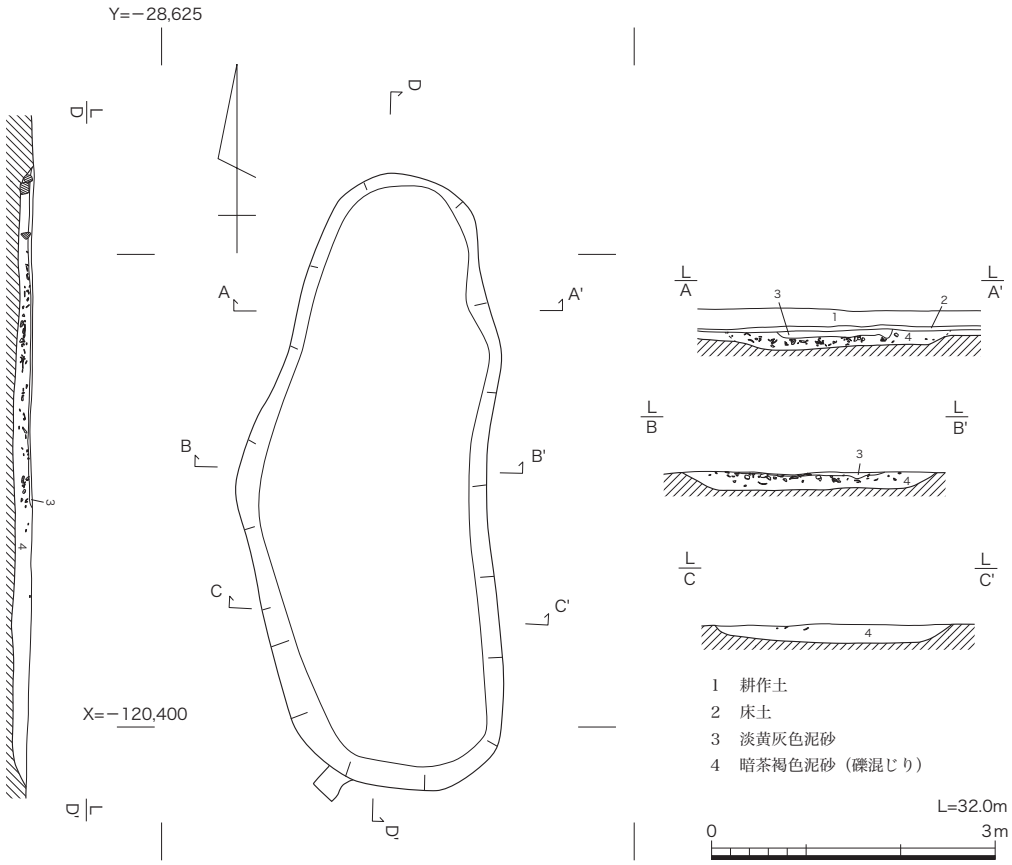
土坑以外の遺構では、P10 から 64 の土師器把手付き甕が出土した。

床土層と地山面との間や部分的に残存している堆積層からも比較的多くの遺物が出土している。

そのほとんどは土師器、須恵器、製塩土器である。器形のわかる須恵器をみると、67 ～ 69 の須恵器杯 B などは長岡京期になる可能性が高い。また、古い時期のものも少数ではあるが認められる。95 は弥生時代中期の壺である。サヌカイト製打製石鏃も 1 点であるが出土している (96)。

小　　結

今回検出された遺構は、掘立柱建物に伴う遺物が少ないため時期を決めるのに難がある。しかし、掘立柱建物 SB02、柵列 SA04、土坑 SK01 は配置的にまとまりがあると考えられる。また掘立柱建物 SB03 も、建物北辺が掘立柱建物 SB02 の南辺と直線上に揃うことから、これらの遺構群は一時期のものとしてとらえることができよう。そして、その時期は土坑 SK01 の遺物から 8 世紀後半頃と考えることができる。



第１－６図　土坑 SK01 実測図（1/80）

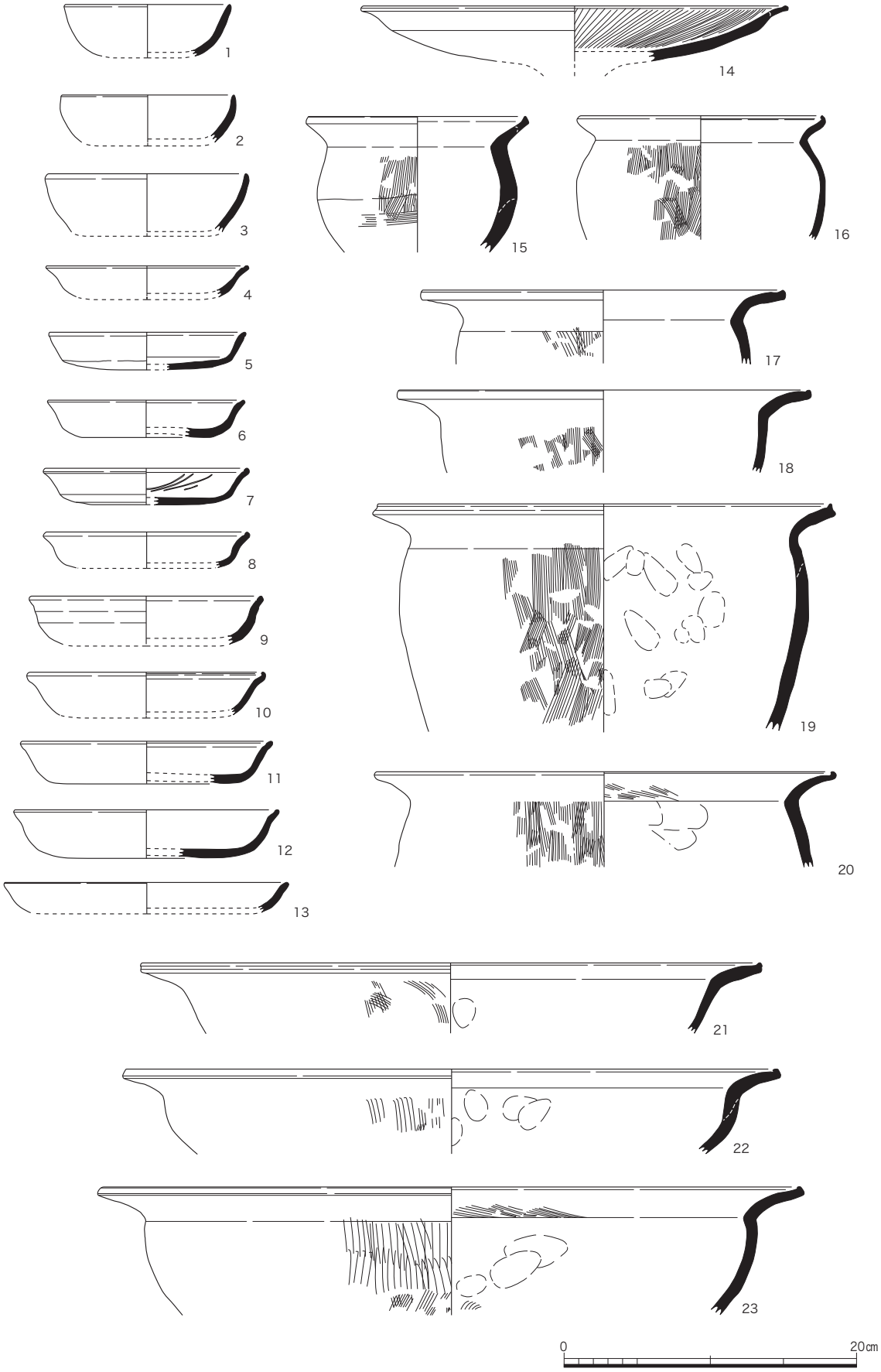
遺構群の性格は、製塩土器の大量出土と規格性の強い建物配置から特殊な施設であった可能性が高い。当地周辺の奈良時代集落は、北西部に展開する下海印寺遺跡の右京第 259 次調査[注1]などで掘立柱建物群が確認されている。当地とは 650 mほど離れているが、同じ小泉川左岸域での遺構であり、関連性が注目されるものである。

調査地は長岡京では右京七条四坊五町にあたるところである。調査地の西約 400 mの右京七条四坊十三、十四町には西山田遺跡[2]が確認されている。西山田遺跡は長岡京期においては祭祀遺物が大量に出土したことから、小泉川の川原を中心に展開する大規模な祭祀遺跡と考えられるところである。西山田遺跡の周辺部ではまだ施設的な遺構は明確になっていないが、今回の調査で出土した長岡京期の遺物から、祭場となる川原の周縁部に祭祀に関連する施設が存在する可能性も浮上するものと考えられよう。

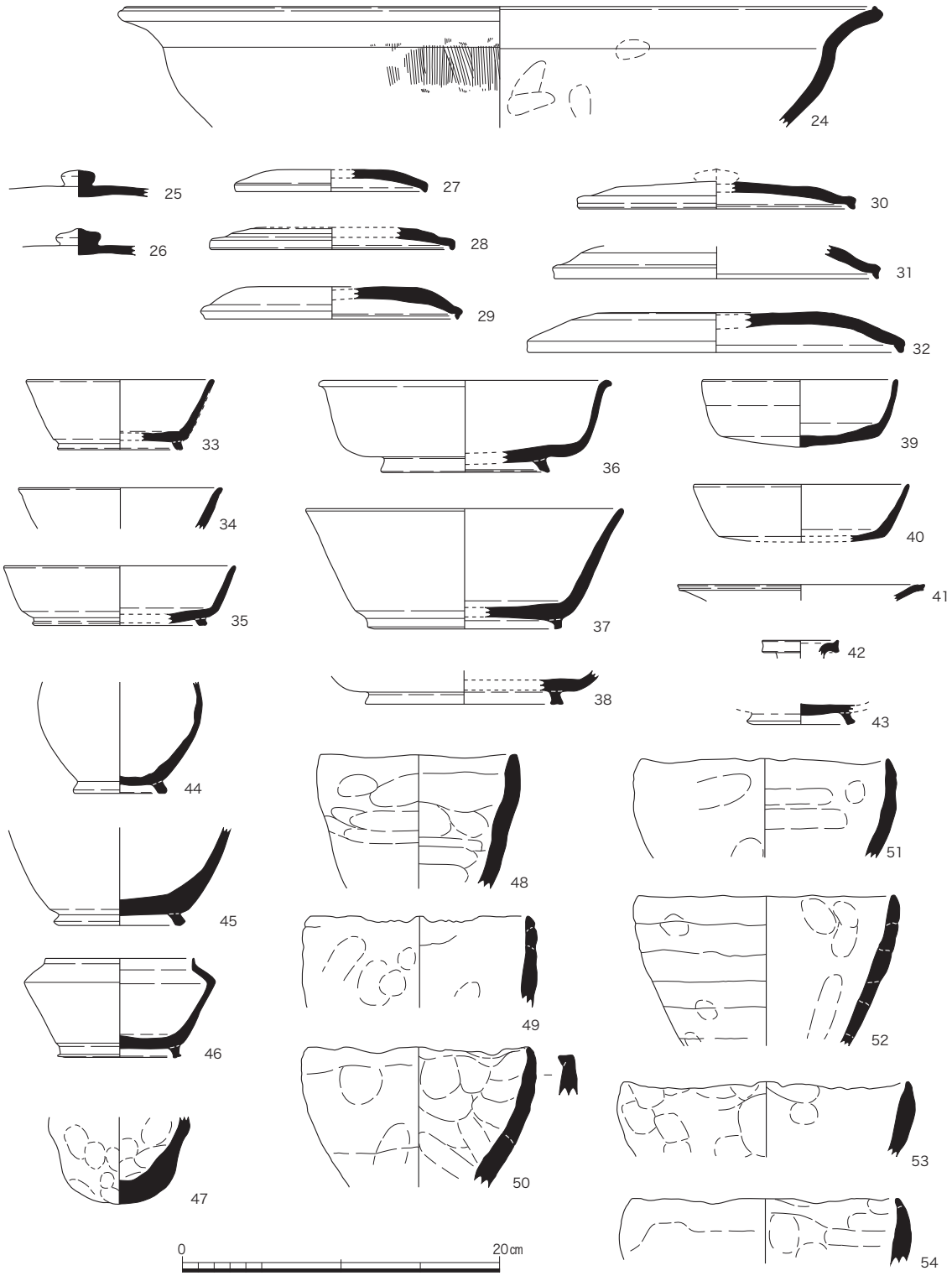
このように、当地周辺は奈良時代の遺構群と、長岡京期の祭祀遺跡が展開する地域であり、今後の解明が待たれるところである。

（小田桐　淳）

注１）　岩﨑　誠「右京第 259 次調査略報」『長岡京市センター年報　昭和 62 年度』1989 年
「飛鳥・奈良時代　下海印寺遺跡」『長岡京市史　資料編一』1991 年
２）　山本輝雄他「長岡京跡右京第 104 次調査概要」『長岡京市センター報告書　第１集』1984 年

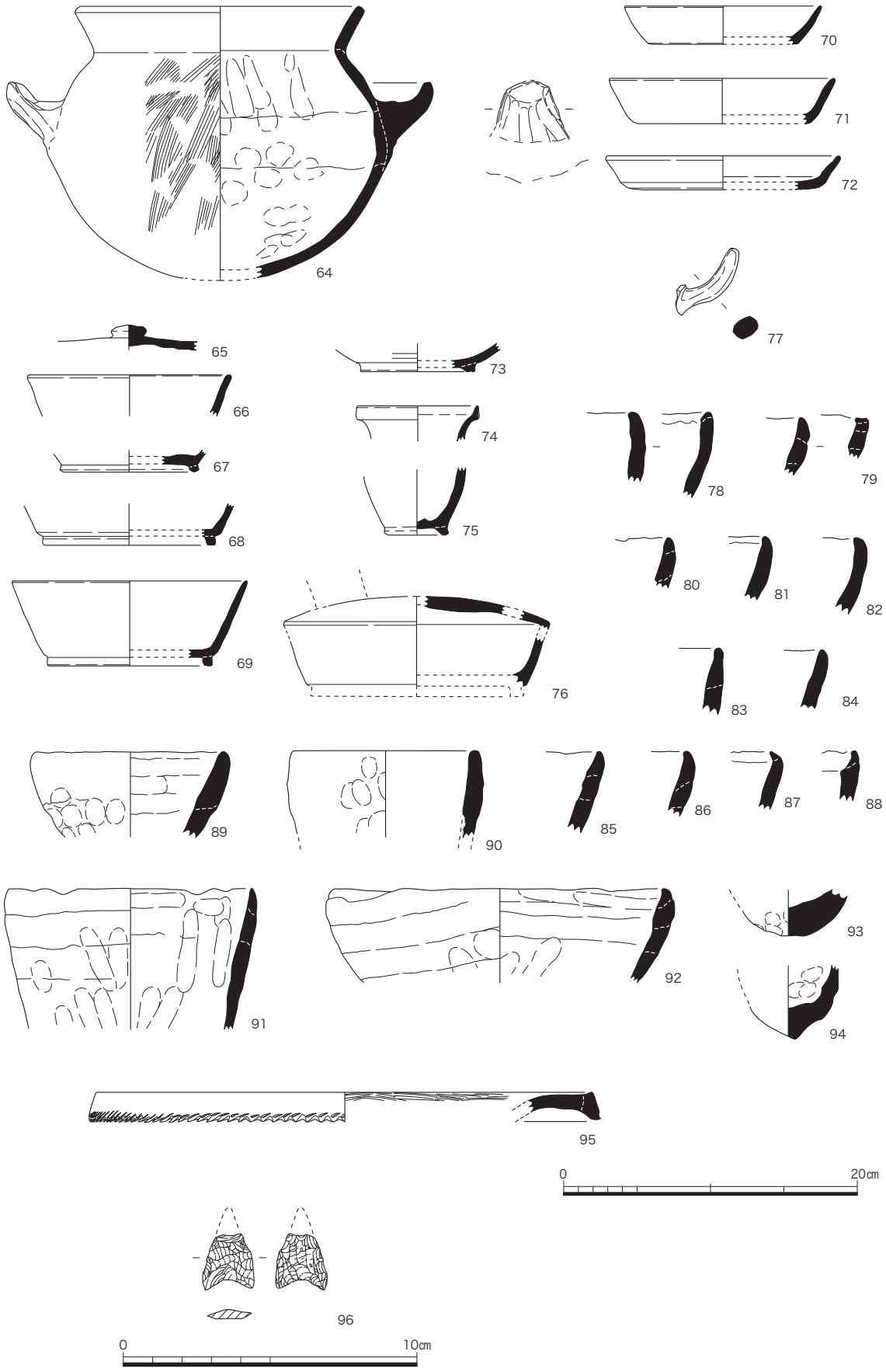


第 1 – 7 図　土坑 SK01 出土遺物実測図 – 1 （1/4）



第１－８図　土坑 SK01 出土遺物実測図－２（1/4）

第 1 － 9 図　土坑 SK01 出土遺物実測図 － 3 （1/4）



第 1 –10 図　その他の遺構・包含層出土遺物実測図（1/4・1/2）

付表１－１　出土遺物観察表

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	椀	1	11.4	(3.5)	-	乳橙色	内外面：ヨコナデ	SK01 1 区	
		2	11.8	(3.2)	-	赤橙色	内外面：ヨコナデ	SK01 1 区	
		3	13.9	(4.0)	-	乳橙色	内外面：ヨコナデ	SK01 1 区	
	杯	4	13.9	(2.1)	-	乳白色	内外面：ヨコナデ	SK01 4 区	
		5	13.4	2.5	-	淡褐灰色	内外面：ヨコナデ（a 手法）	SK01 1 区	
		6	13.5	2.6	-	内面：橙白色 外面：赤褐色	内外面：ヨコナデ（a 手法）	SK01 2 区	
		7	13.8	2.5	-	橙褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SK01 2 区	
		8	13.8	2.5	-	内面：乳橙色 外面：赤灰色	内外面：ヨコナデ	SK01 1 区	
		9	15.8	(3.3)	-	橙白色	内外面：ヨコナデ	SK01 1 区	
		10	16.3	(3.0)	-	橙白色	内外面：ヨコナデ	SK01 4 区	
		11	17.3	2.9	-	乳橙色	内外面：ヨコナデ（a 手法）	SK01 あげ土	
		12	18.1	3.3	-	橙白色	内外面：ヨコナデ（a 手法）	SK01 2 区	
	皿	13	19.4	(2.1)	-	赤褐色	内外面：ヨコナデ	SK01 2 区	
	高杯	14	29.2	(3.8)	-	橙白色	内外面：ヨコナデ、内面：暗文、外面：ヘラケズリ	SK01	
	甕	15	15.0	(9.3)	-	内面：乳黄色 外面：橙褐色	内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ハケ	SK01 1 区 あげ土	
		16	17.0	(8.5)	-	橙白色	内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ハケ	SK01 4 区	外面にス ス付着
		17	25.0	(5.1)	-	乳白色	内外面：ヨコナデ、外部：ハケ	SK01 B 区	
		18	28.1	(5.65)	-	淡黄褐色	内外面：ヨコナデ、外面：ハケ	SK01 5 区	
		19	31.0	(15.6)	-	乳橙色	内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、指頭圧痕、外面：ハケ	SK01 4 区・A 区	外面にス ス付着
		20	31.3	(6.5)	-	赤褐色	内外面：ヨコナデ、内面：ハケ、ヘラケズリ、外面：ハケ	SK01 A 区	
	鍋	21	42.4	(4.8)	-	橙白色	内外面：ヨコナデ、内面：指頭圧痕、外面：ハケ	SK01 4 区・上面	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	鍋	22	44.6	(5.8)	-	内面：黄褐色 外面：淡褐色	内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、指頭圧痕、外面：ハケ	SK01 2 区	外面にス ス付着
		23	47.8	(8.7)	-	淡黄褐色	内外面:ヨコナデ、内面:ハケ、指頭圧痕、外面：ハケ	SK01 1 区	外面にス ス付着
		24	47.4	(7.6)	-	内面：乳橙色 外面：淡褐色	内外面:ヨコナデ、内面:指頭圧痕、外面:ハケ	SK01 上面	外面にス ス付着
須恵器	杯B蓋	25	-	(1.8)	-	白黄灰色	内面：ナデ、外面：ヘラオコシ後ナデ	SK01	
		26	-	(1.7)	-	淡灰色	外面：ヨコナデ	SK01 A 区	
		27	12.0	(1.4)	-	淡灰白色	内外面：ヨコナデ	SK01 1 区	
		28	15.2	(1.4)	-	内面：淡青灰色 外面：青灰色	内外面：ヨコナデ　天井部外面：ヘラケズリ	SK01 3 区	重ね焼き痕
		29	16.0	2.05	-	内面：淡青灰色　外面：淡緑灰色	内外面：ヨコナデ	SK01 A 区	
		30	17.5	(1.7)	-	灰色	内外面：ヨコナデ	SK01 2 区	口縁端部に重ね焼き痕
		31	20.5	(2.1)	-	内面：青灰色 外面：黒灰色	内外面：ヨコナデ　天井部外面：ヘラケズリ	SK01 B 区・2 区	
		32	23.7	2.5	-	淡灰白色	内外面：ヨコナデ　天井部外面：ヘラケズリ	SK01 5 区	
	杯B	33	11.8	4.4	7.9	淡灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01 A 区	自然釉付着
		34	12.8	(2.6)	-	内面：淡青灰色　外面：淡褐灰色	内外面：ヨコナデ	SK01 あげ土	
		35	14.6	3.8	11.0	内面：明灰色 外面：淡茶灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01 A 区上層 2 区	外面に自然釉付着
		36	18.5	5.75	10.65	淡灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01 2 区	内面に火襷痕
		37	20.0	7.6	12.25	灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01 B 区	外面に自然釉付着
		38	-	(2.1)	12.5	青灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01	外面に自然釉付着
	杯A	39	12.3	4.25	-	淡灰色	内外面：ヨコナデ	SK01 4 区	
		40	13.6	(3.6)	-	灰色	内外面：ヨコナデ	SK01 4 区	外面に重ね焼き痕
	皿か	41	15.6	(1.05)	-	青灰色	内外面：ヨコナデ	SK01 1 区、2 区	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
須恵器	壺	42	4.8	(1.15)	-	淡灰色	内外面：ヨコナデ	SK01	自然釉付着
		43	-	(1.3)	5.9	青灰白色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01 3 区	
		44	-	(7.0)	5.7	淡灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01 6 区	外面に自然釉付着
		45	-	-6.2	8.3	暗灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01 2 区	
		46	9.4	6.2	7.8	明灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK01 4 区	
製塩土器	-	47	-	(5.5)	-	内面：橙褐色 外面：赤褐色	内外面：指頭圧痕、ナデ	SK01 4 区、1 区	
		48	12.4	(8.45)	-	淡灰色	内外面：指頭圧痕、ナデ	SK01 A 区、B 区、1 区	
		49	13.8	(5.75)	-	淡青灰色、明褐色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 A 区、B 区	
		50	14.0	(8.8)	-	内面：黒黄褐色 外面:黒褐色、明赤褐色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 4 区、B 区	
		51	15.6	(6.25)	-	黄灰色	内外面：指頭圧痕、ナデ	SK01 4 区	
		52	16.2	(9.5)	-	内面：淡灰色 外面：明褐色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 A 区、B 区	
		53	18.0	(4.7)	-	淡灰黒色	内外面：指頭圧痕、ナデ	SK01 A 区、B 区、B 区上層	
		54	16.9	(4.1)	-	黒黄褐色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 4 区	
		55	18.4	(5.3)	-	黒灰色	内外面：指頭圧痕、ナデ	SK01 A 区、B 区	
		56	18.6	(6.3)	-	白灰色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 4 区、B 区	
		57	17.6	(5.6)	-	暗青灰色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 A 区、B 区、4 区	
		58	17.8	(12.6)	-	黄褐色、灰白色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 1 区、4 区、A 区、B 区	
		59	16.6	(7.7+4.8)	-	灰白色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 4 区	
		60	19.9	(7.5)	-	内面：青灰色 外面:暗灰色、明灰色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 4 区	
		61	21.6	(7.7)	-	内外面：黒褐色の上暗茶色のまだら	内外面：輪積痕、ナデ	SK01 5 区、A 区、B 区	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
製塩土器	-	62	19.4	(8.6)	-	明褐色	内外面：輪積痕、ナデ	SK01 A 区拡張、5 区、4 区、5 層、B 区	
		63	20.6	15.3	-	内面：明橙褐色 外面：淡灰色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	SK01 A 区、A 区上層	
土師器	甕	64	19.8	18.5	-	淡灰乳色	内外面:ヨコナデ、内面:ナデ、指頭圧痕、外面：ハケ	P10	
須恵器	杯B蓋	65	-	(1.75)	-	青灰色	内面：ナデ、外面：ヘラオコシ後ナデ	A 区包含層	
	杯B	66	13.9	(2.8)	-	青灰色	内外面：ヨコナデ	3 区	
		67	-	(1.5)	9.0	青灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	A 区包含層	
		68	-	(2.8)	11.8	白灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	A 区包含層	
		69	16.0	5.8	11.2	内面：青灰色 外面：茶灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	A 区包含層	外面に自然釉付着
	杯A	70	13.3	2.6	10.2	青灰色	内外面：ヨコナデ	A 区包含層	
		71	15.4	3.1	11.3	灰色	内外面：ヨコナデ	A 区包含層	自然釉付着
	皿	72	16.0	2.3	-	淡黄灰色	内外面：ヨコナデ　外面：底部ケズリ	A 区包含層	
	杯B	73	-	(1.9)	7.8	青灰色	内外面：ヨコナデ、外面：ナデ後ヘラケズリ、削り出し高台	A 区包含層	
	壺	74	8.4	(2.4)	-	白灰色	内外面：ヨコナデ	A 区包含層	自然釉付着
		75	-	(4.5)	4.4	灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	ピット内	自然釉付着
緑釉陶器	平瓶	76	最大胴径 18.1	(6.1)	-	釉色：淡緑色 露胎：淡乳白色	内部：ナデ	4 区	
須恵器	把手	77	-	(4.0)	-	淡灰色	実測図に記録なし	包含層	
製塩土器	-	78	-	(4.7/ 5.8)	-	明褐色	内外面：ナデ	1 区、4 区、B 区	同一個体か
		79	-	(3.9/ 2.8)	-	黄灰色	内外面：輪積痕、ナデ	A 区、2 区、1 区、5 区	同一個体か
		80	-	(5.2)	-	赤茶褐色	内外面：指頭圧痕、ナデ	5 区	
		81	-	(3.4)	-	明茶褐色	内外面：輪積痕、ナデ	A 区、B 区	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
製塩土器	-	82	-	(4.3)	-	橙褐色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	4 区	
		83	-	(5.5)	-	淡橙褐色	内外面：輪積痕、ナデ	A 区、1 区、4 区	
		84	-	(4.5)	-	桃白色	内外面：輪積痕、ナデ	B 区、4 区、A 区	
		85	-	(4.0)	-	灰色	内外面：ナデ	B 区、4 区	
		86	-	(4.4)	-	内面：淡橙色 外面：淡灰色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	1 区	
		87	-	(3.9)	-	黄褐色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	1 区	
		88	-	(3.4)	-	淡橙色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	A 区、4 区	
		89	12.8	(5.8)	-	内面：茶褐色 外面：茶灰色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	A 区、B 区	
		90	12.6	(5.9)	-	赤茶褐色	内外面：指頭圧痕、ナデ	1 区	
		91	16.6	(9.6)	-	内面：淡橙色 外面：明灰褐色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	5 区	
		92	22.6	(6.4)	-	明褐色	内外面：指頭圧痕、輪積痕、ナデ	4 区、2 区	
		93	-	(3.1)	-	内面：淡黒灰色 外面：明褐色	内外面：指頭圧痕、ナデ	1 区	
		94	-	(5.0)	-	茶褐色	内外面：指頭圧痕、ナデ	A 区、B 区	
弥生土器	壺	95	33.8	(2.0)	-	乳褐色	内面：ハケ、外面：ナデ、刺突文、キザミ	包含層 A 区	
石器	石鏃	96	1.8	(1.9)	0.3			SK01	サヌカイト

第 1 –11 図　調査地全景（東から）

第 1 –12 図　掘立柱建物 SB03（北から）

第 1 –13 図　出土遺物

2．長岡京跡右京第 244 次調査

～ 奈良時代　友岡遺跡・鞆岡廃寺、溝等出土資料 ～

調 査 地　長岡京市友岡四丁目 224―2 他　　**地 区 名**　7ANNMC － 2 地区

調査期間　1986（昭和 61）年 9 月 24 日～ 10 月 25 日　　**調査面積**　198㎡

時　　期　奈良時代　　**出土遺物**　10 箱

立　　地　低位段丘Ⅰ　　標高 26.3 m

参考文献　小田桐 淳「右京第 244 次調査略報」『長岡京市センター年報』昭和 61 年度 1988 年

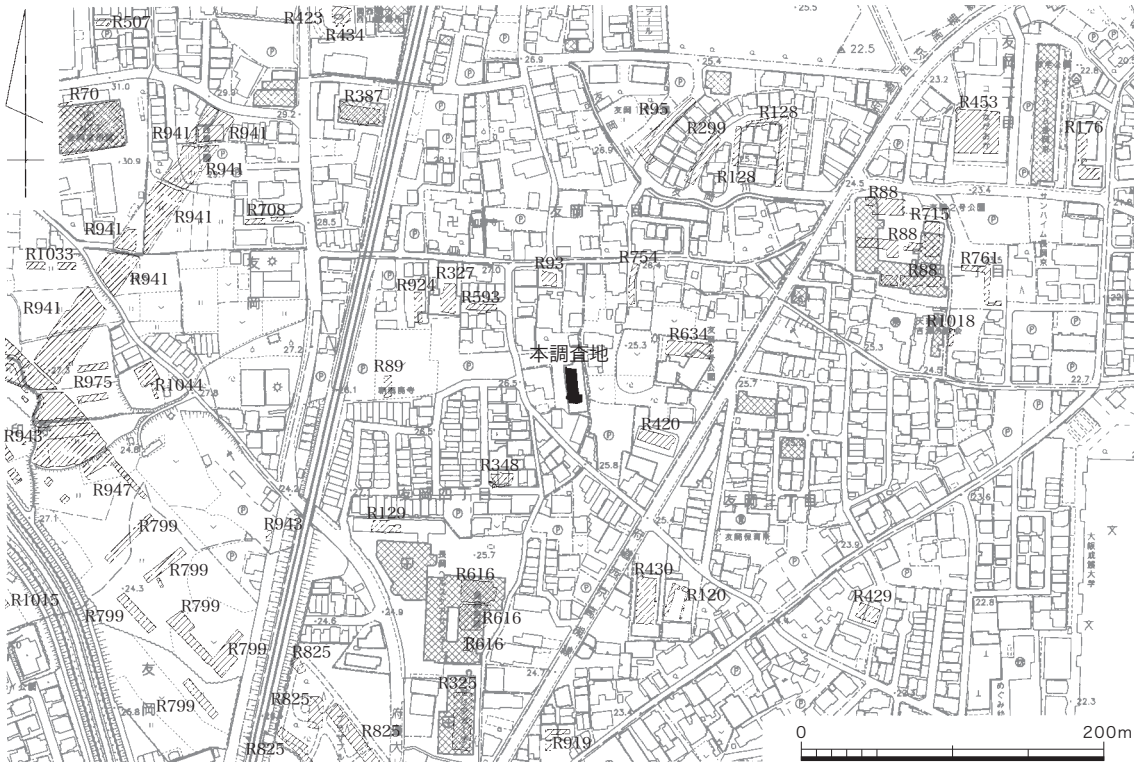
調査の概要

本調査は共同住宅建設に伴って実施した調査である。調査地は縄文時代から江戸時代にかけての複合集落遺跡である友岡遺跡の範囲内であるとともに、飛鳥時代寺院跡である鞆岡廃寺が想定されるところでもある。また、長岡京跡では右京八条三坊二町の北端部にあたり、八条条間北小路の推定地となっている。

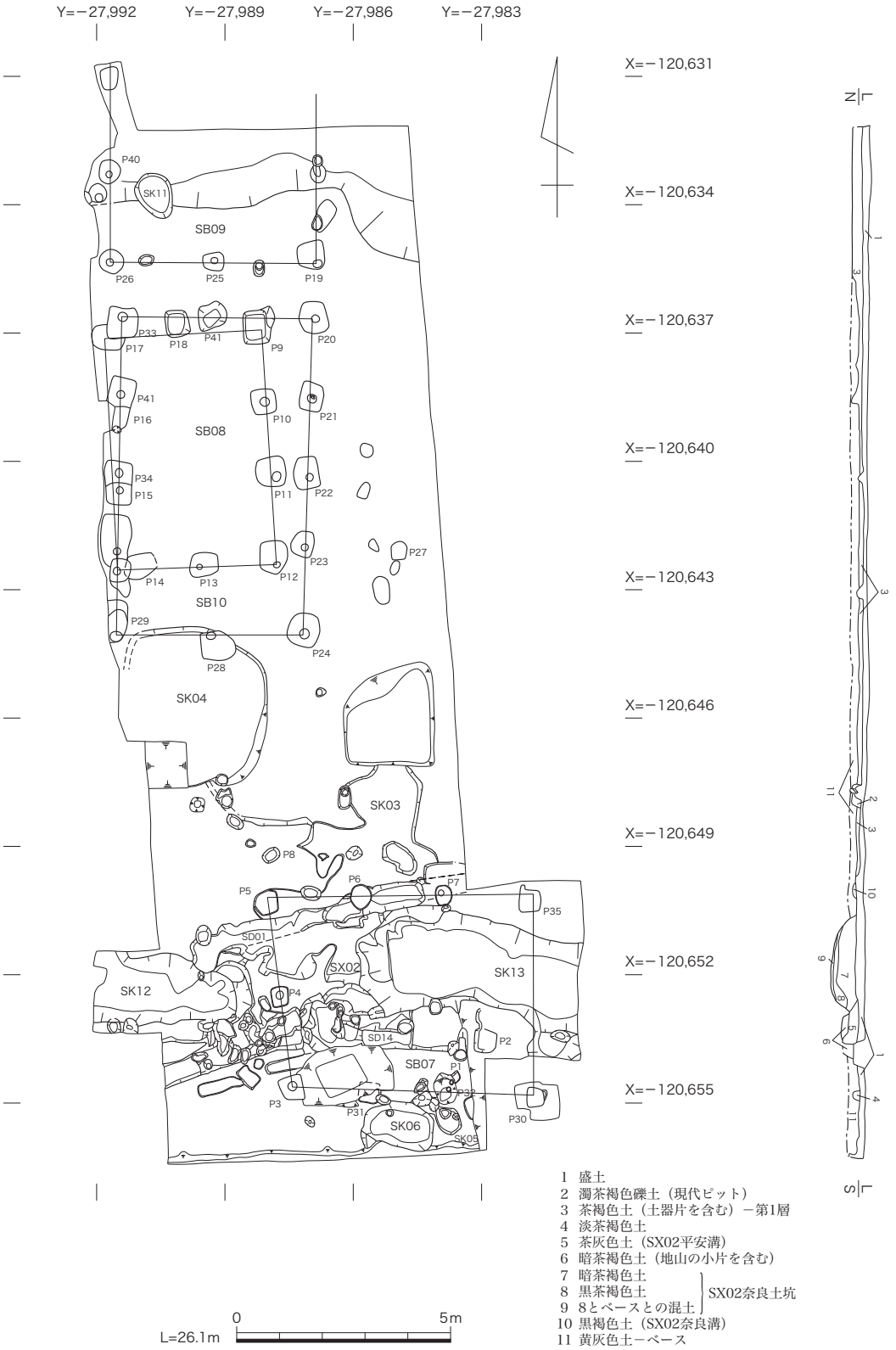
検出遺構

調査地の基本層序は、20cm ほどの盛土を除くと 10 ～ 20cm ほどの厚さで茶褐色土の遺物包含層が堆積し、黄灰色土の地山面となる。遺構は地山面上で検出されている。検出された遺構は奈良時代から長岡京期にかけての掘立柱建物、土坑などである。

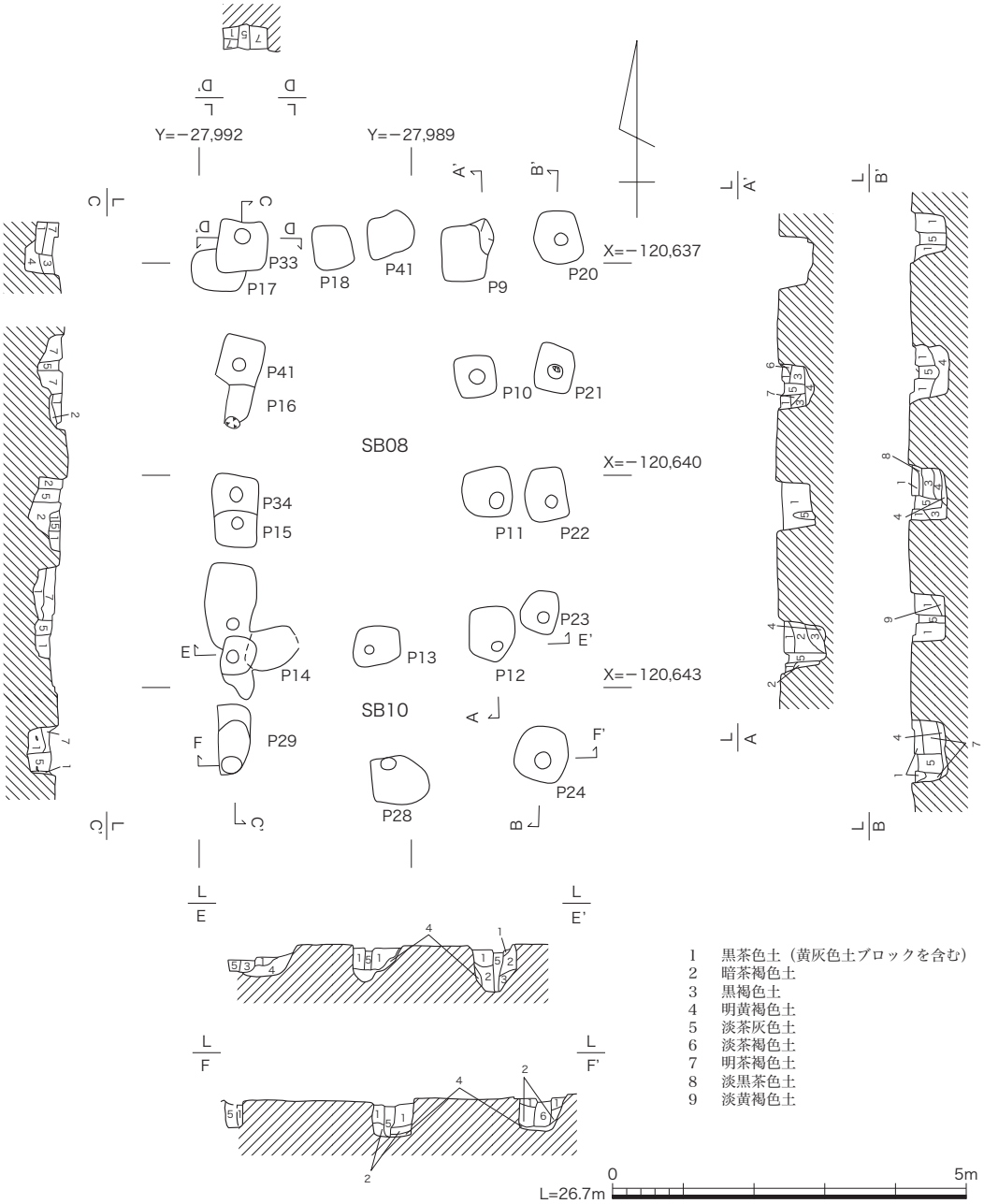
掘立柱建物 SB09・10 は柱筋を揃える建物であるが、掘立柱建物 SB09 が正方位を向くのに対



第 2 – 1 図　発掘調査地位置図（1/5000）



第２－２図　検出遺構図（1/150）

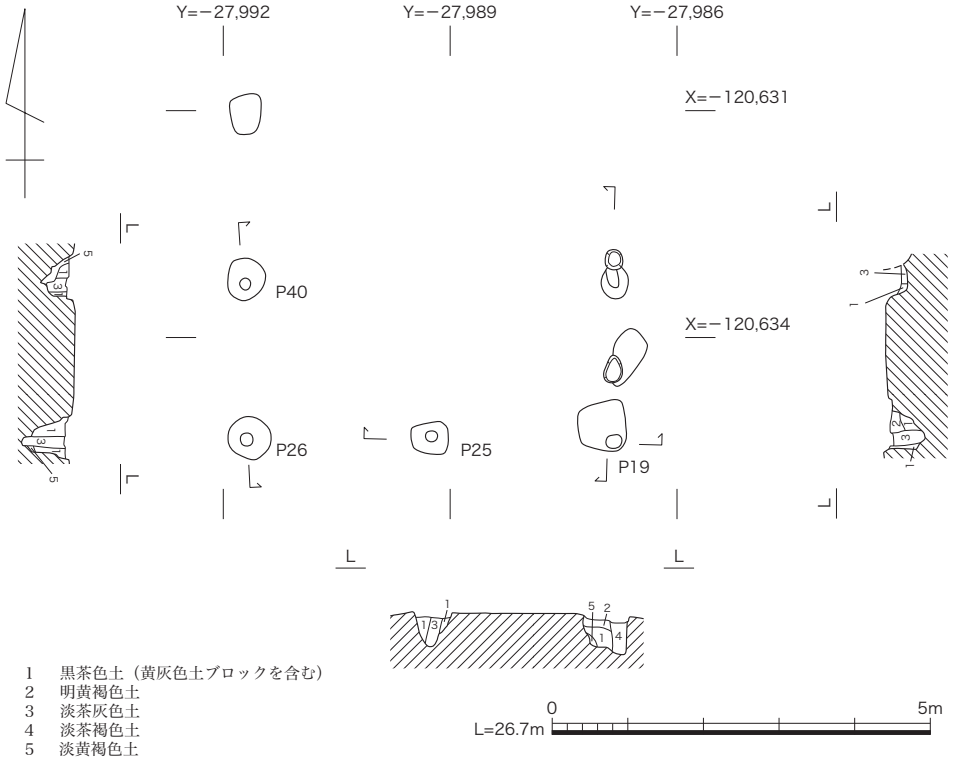


第２－３図　掘立柱建物 SB08・10 実測図（1/100）

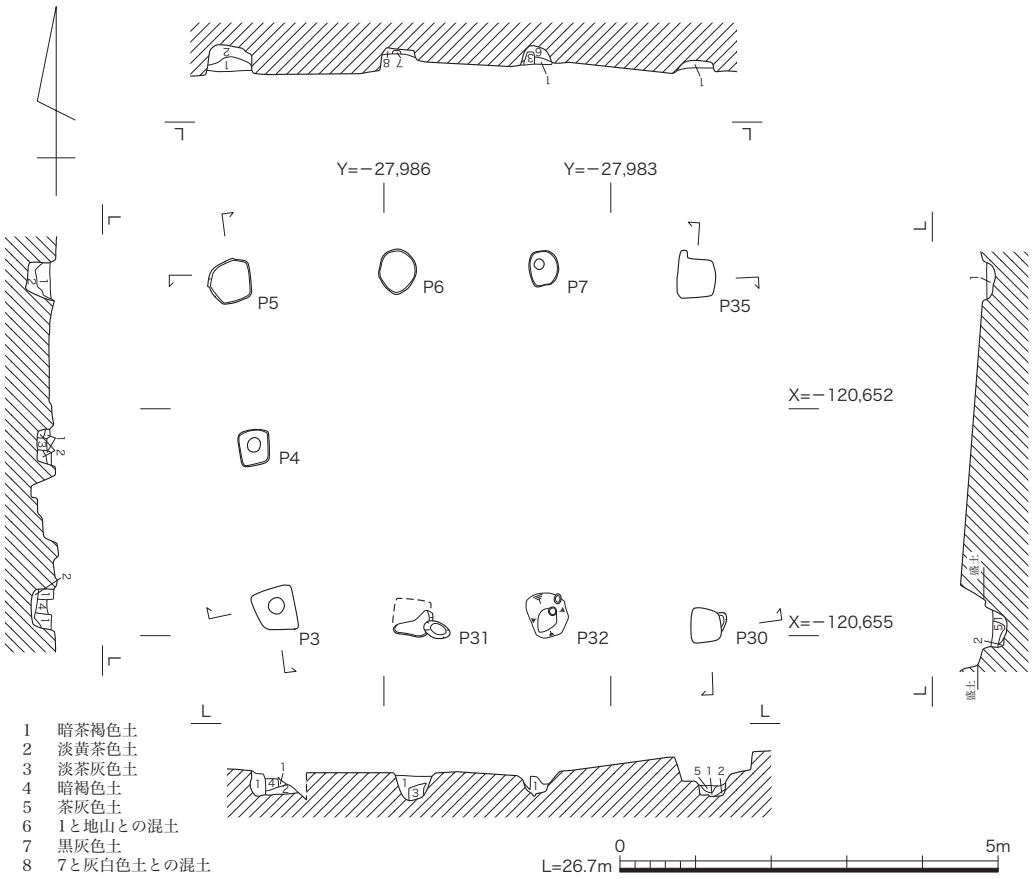
し、掘立柱建物 SB10 は梁間は正方位を向いているが、桁行が北で東に２°振れており、平面形が菱形ぎみになっている。掘立柱建物 SB10 の規模は２間×４間の南北棟である。掘立柱建物 SB09 は南北棟になると考えられる建物で、南部の２間分が確認された。

掘立柱建物 SB08 は掘立柱建物 SB10 と平面が重なる２間×３間の南北棟建物である。新旧関係は本建物の方が先行する。建物の方位は北で西に４°ほど振れている。

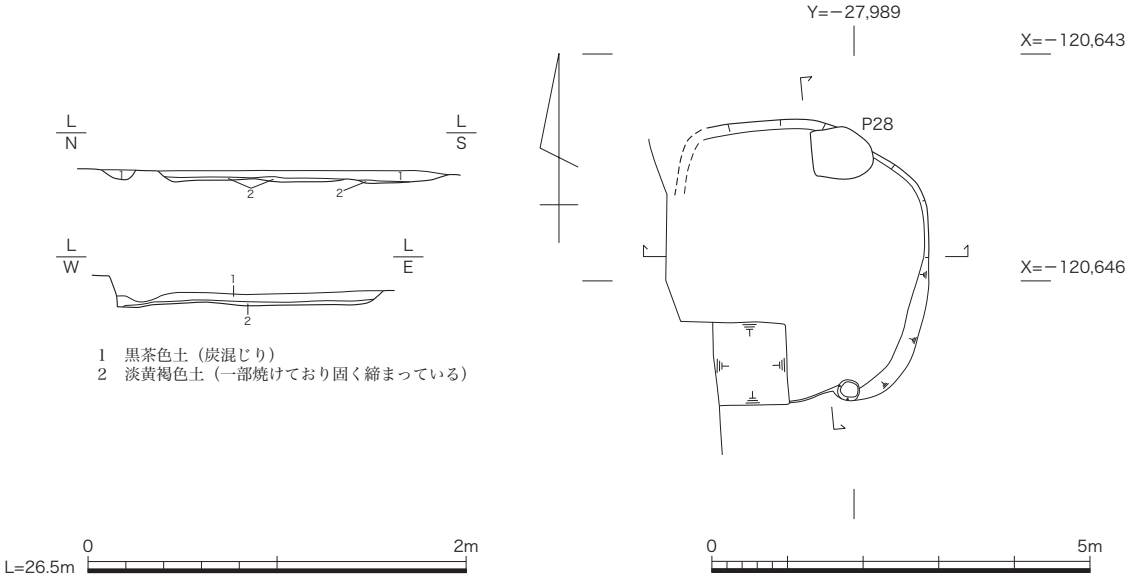
掘立柱建物 SB07 は２間×３間の東西棟と考えられるが、掘立柱建物 SB10 の例があるため、２間×４間になる可能性も否定できない。SX02 と重複しているが、SX02 との新旧関係は埋土が似通っているため不明である。建物方位はほぼ正方位を向くが、西側の梁間が北で８°ほど西に振れており、台形の平面形となっている。



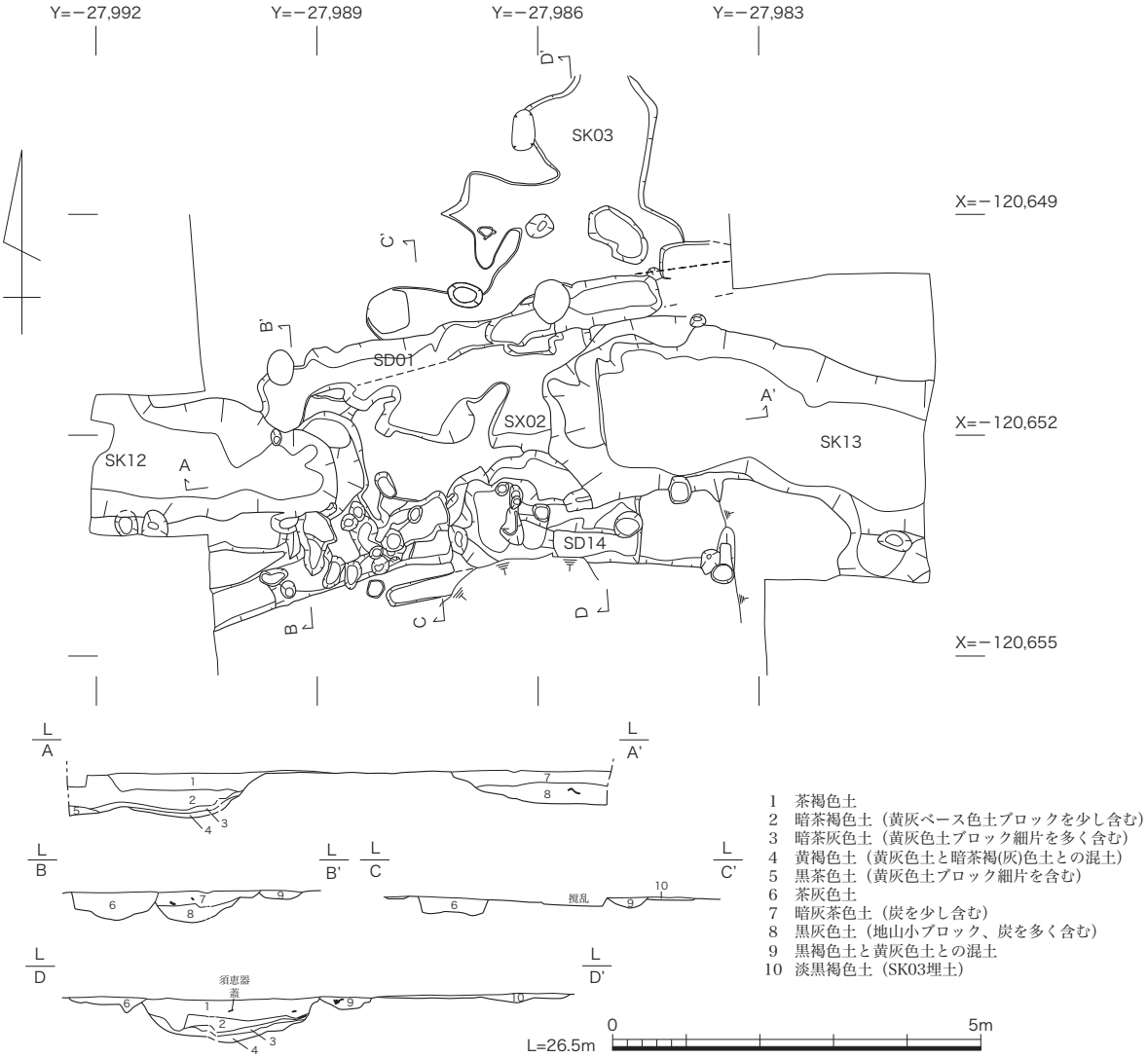
第２－４図　掘立柱建物 SB09 実測図（1/100）



第２－５図　掘立柱建物 SB07 実測図（1/100）



第２－６図　土坑 SK04 実測図（1/40・1/100）



第２－７図　SX02 実測図（1/100）

土坑 SK04 は東西 3.5m、南北 3.8m ほどの方形ぎみを呈し、深さは 10ｃｍに満たない浅い土坑になると考えられる。

SX02 は当初一連の落ち込みとして認識され、全体を掘り下げていく過程で掘立柱建物 SB07、土坑 SK03、溝 SD01、溝状遺構 SD14、土坑 SK12・13 などが確認されてきたものである。なお、SX02 の埋土１層および SD01・14 からは奈良時代の遺物に混じって長岡京期の遺物が出土している。さらに、調査の終盤に東と西に拡張を行い、遺構の性格を追求した結果、土坑 SK12 と土坑 SK13 は奈良時代の遺物を多く包含しており、溝状に延びていくことが確認された。

出土遺物

今回の調査では大量の奈良時代遺物が出土した。そのほとんどは土坑 SK04 と SX02 出土のものである。SX02 は当初東西４分割、南北２分割の８区画に分割して掘り下げた。埋土１層を除去した段階で土坑 SK12・13 の埋土のみとなったが、遺構名、地区名はそのまま継続して遺物を取り上げている。地区名は北東角を「1 区」・・・南西角を「８区」と命名した。また土坑 SK12 の西拡張区を「９区」、土坑 SK13 の東拡張区を「東拡張区」として取り上げている。

SX02 出土遺物（第２－９～ 11 図）では、土師器には皿類が多い。皿類の内面には放射状暗文ないし螺旋状暗文＋放射状暗文を施すものが多い。また、６のようにヘラ記号のものもある。15 は外面をケズリ調整するもので、これは長岡京期のものである。19 の高杯は短い筒部を 15 面に面取りするものである。28 ～ 30 は筒状の土製品で、カマドの支脚として使用例があるものであるが、火を受けた痕跡は認められない。

須恵器には杯Ｂ類と杯Ｂ蓋、杯Ａが多く出土している。73 の杯Ａ底部外面には「二」の墨書が認められる。81・82 の蓋と 83 の椀は金属器模倣形態である。91・92 にも墨痕が認められる。93 の軒丸瓦は摩耗が著しいが、長岡宮式 7149 形式のものである。

土坑 SK04 出土遺物（第 12 図 94 ～ 114）では、奈良時代の範疇で考えられるものが多いが、107 ～ 111 の須恵器杯Ａは口縁の外傾度が高く、長岡京期以降になる可能性が考えられる。113・114 は須恵器鉢Ａであり、寺院との関係を想起させる遺物である。

このように、出土遺物の大半は奈良時代のものであるが、中に長岡京期の遺物も含まれている。遺構の年代はこの遺物の範疇で考える必要がある。

小　　結

今回の調査で検出された遺構は、鞆岡廃寺に付属する居住空間であると考えられる。それは建物が掘立柱建物であり、遺物には供膳形態のものが多いことなどから推測されよう。

調査区南部で検出された土坑 SK12 と土坑 SK13 は東西方向の奈良時代の溝状土坑で、鞆岡廃寺の区画に関係するものと考えられる。そして２つの土坑の間の 2.5 ｍの空間は、入り口としての機能を想定することができよう。この時期に伴う建物としては掘立柱建物 SB08 が想定される。

長岡京期になると土坑は埋められ、掘立柱建物 SB07 が建てられたものと考える。掘立柱建物 SB09・10 も長岡京期のものであると考えられる。

鞆岡廃寺は飛鳥時代に創建された古代寺院で、長岡京期においても『京下七寺』の一つにあげ

られている。

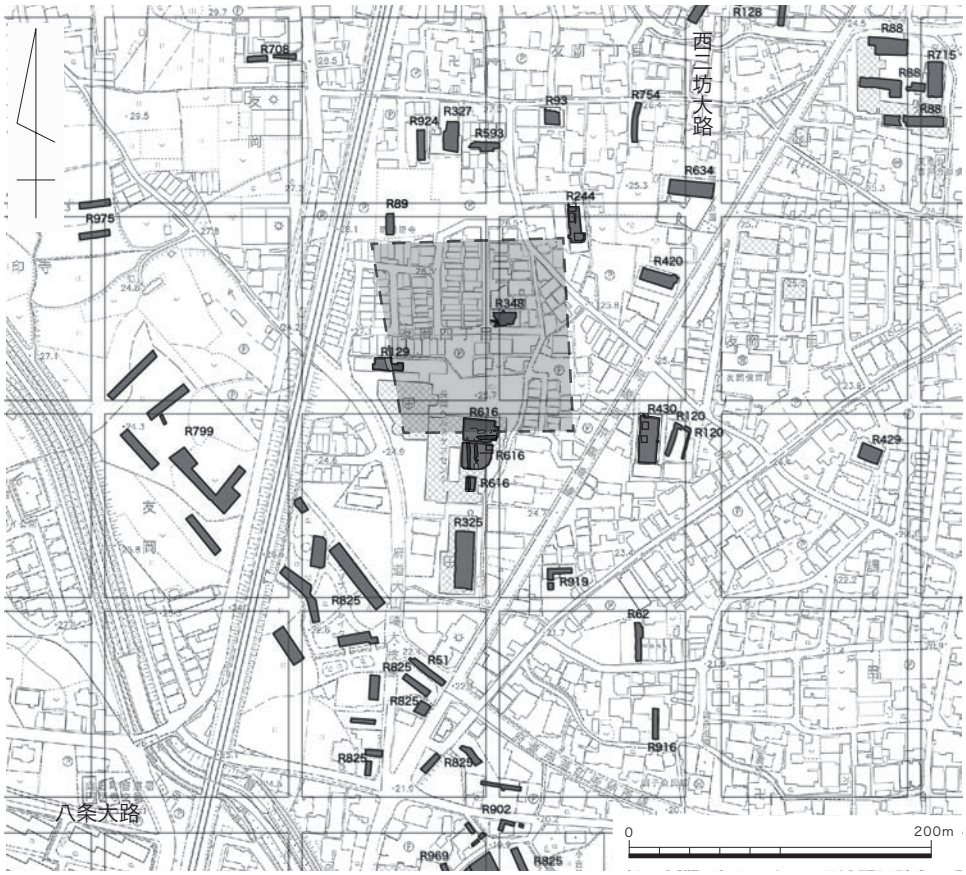
その存在は古瓦の散布によって昭和 30 年代より知られていた。[注1] 発掘調査では右京第 129 次調査[2]で寺域を区画すると考えられる溝が検出されているのを始め、右京第 616 調査[3]では「T」字に連結する通路跡が確認されており、次第に寺院の輪郭が想定できるようになってきた。

今回確認された東西区画を伽藍北辺とし、右京第 616 次調査で検出された東西通路を伽藍南辺と考えると、南北間が約 130 m となる。右京第 129 次調査の溝は北で西に振れているが、これは西隣りが段丘崖になっている影響と考えられ、伽藍西辺は段丘崖に規制されていることがわかり、今回調査地との間に南北間とほぼ同じ空間が確保されることになる。

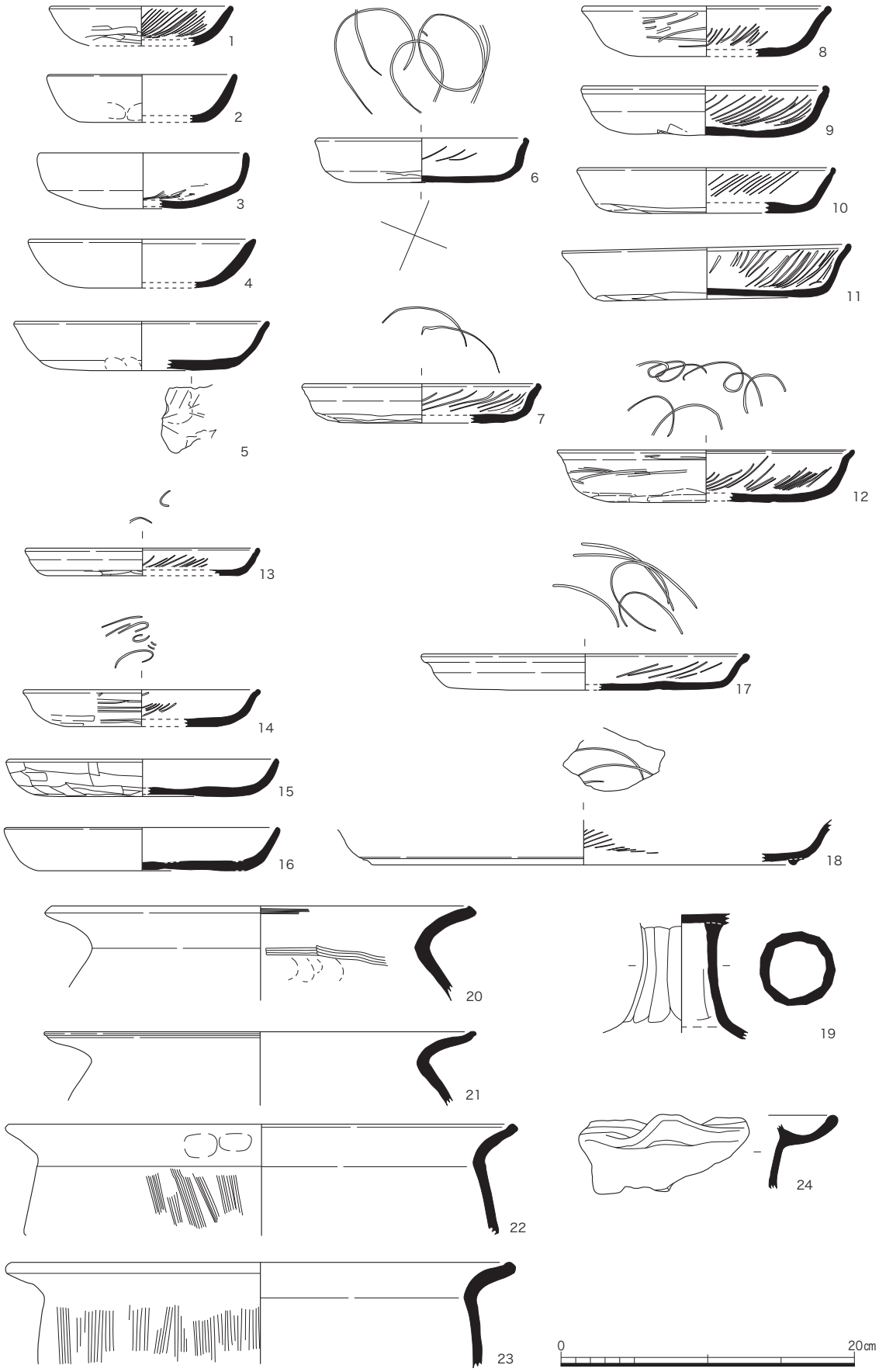
このように想定した鞆岡廃寺の伽藍範囲が第２－８図である。飛鳥・奈良時代では、右京第 616 次調査での南北通路を南に延長すると、丹波街道と接続することも十分考えられる。長岡京条坊との関係は、まだ当地周辺の開発状況が判明していないため、今後の課題といえよう。

（小田桐　淳）

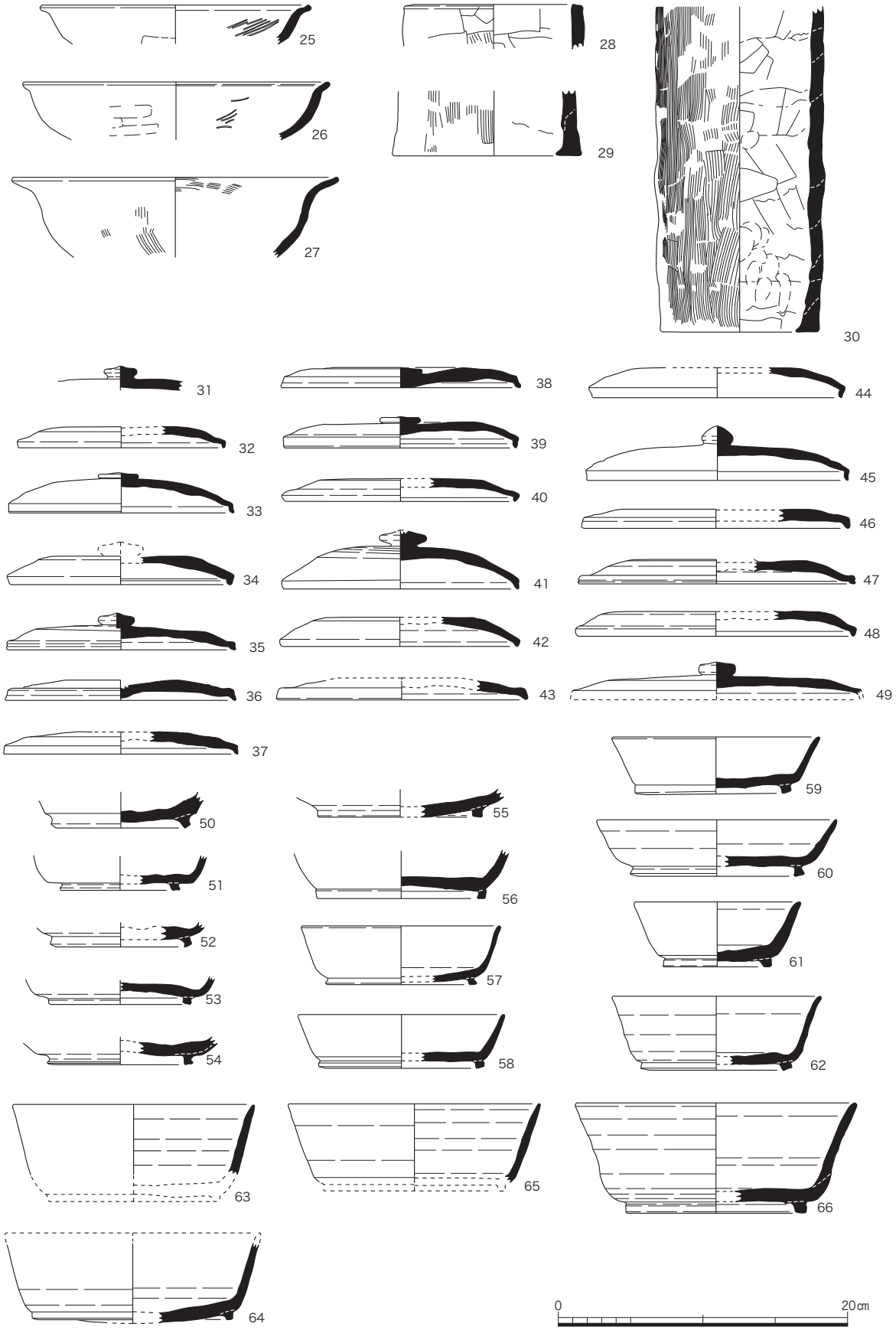
注１）　伏見城研究会『器瓦録想』2004 年
　２）　小田桐　淳「長岡京跡右京第 129 次調査概要」『長岡京市センター報告書　第２集』1985 年
　３）　木村泰彦「右京第 616 次調査概報」『長岡京市センター年報　平成 10 年度』2000 年



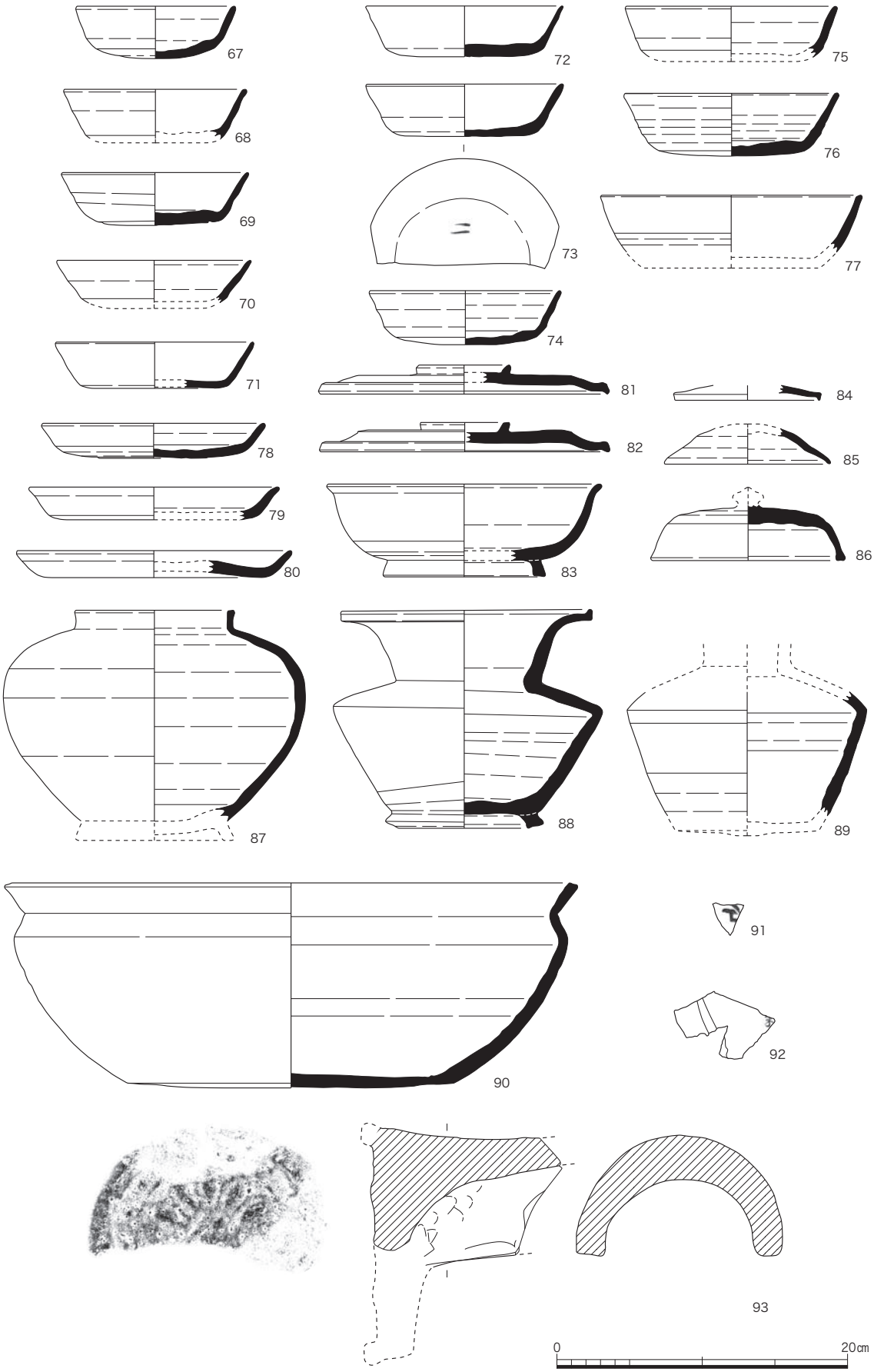
第２－８図　鞆岡廃寺の寺域想定図（1/5000）



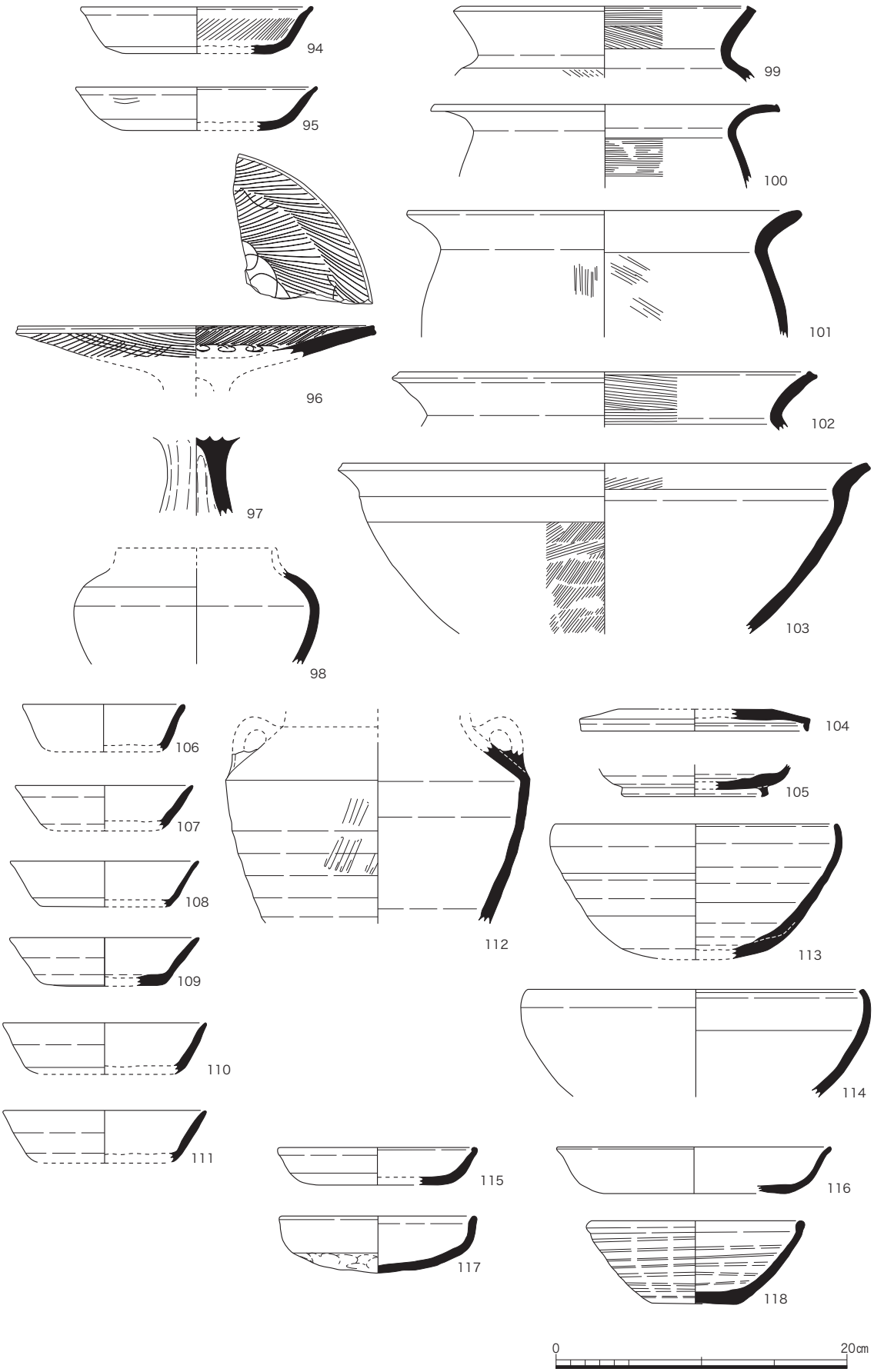
第２－９図　SX02 出土遺物実測図－１（1/4）



第 2 –10 図　SX02 出土遺物実測図－ 2（1/4）



第２–11 図　SX02 出土遺物実測図－３（1/4）



第 2 –12 図　土坑 SK04・その他出土遺物実測図（1/4）

付表２－１　出土遺物観察表

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	杯	1	12.5	(2.7)	-	内面：淡灰色 外面：灰色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SX02 9 区 1 層	
		2	12.9	3.25	-	淡橙色	内外面：ヨコナデ、外面：ナデ（a 手法）	SX02 9 区 2 層	
		3	14.2	(3.8)	-	橙褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ナデ（a 手法）	SX02 9 区	
		4	15.5	3.3	-	淡橙色	内外面：ヨコナデ	SX02 9 区	
		5	17.4	(3.35)	-	白橙褐色	内面：ヨコナデ、ナデ、外面：ヨコナデ、ナデ	SX02 東拡張区	底部外面に線刻
		6	14.6	3.05	-	灰朱褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b' 手法）	SX02 東拡張区 2 層	底部外面に線刻（×）
		7	16.3	2.7	-	灰朱色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SX02 東拡張区	
		8	17.0	3.4	-	明赤褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ミガキ（a 手法）	SX02 9 区 2 層	
		9	16.9	3.5	-	灰朱褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SX02 東拡張区 2 層	
		10	17.6	(3.1)	-	灰朱褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SX02 東拡張区	
		11	19.7	(3.9)	-	薄朱褐色～薄橙褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SX02 9 区	
		12	20.2	3.55	-	明赤褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ミガキ、ケズリ（b 手法）	SX02 9 区 2 層	
	皿 A	13	16.0	1.9	-	明赤褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SX02 9 区	
		14	16.2	2.5	-	明赤褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ミガキ、ケズリ（b 手法）	SX02 9 区	
		15	18.6	2.55	-	灰朱褐色	内面：ナデか（摩滅により調整不明） 外面：ケズリ（c 手法）	SX02 9 区	
		16	18.8	2.95	-	薄赤茶色	内面：摩滅、外面：ヨコナデ、ナデ（a 手法）	SX02 8 区 2 層	
		17	22.4	2.5	-	赤褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ（a 手法）	SX02 6 区	
	皿 B	18	-	(3.1)	29.0	朱褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ、貼り付け高台	SX02 東拡張区	
	高杯	19	-	(8.5)	-	朱褐色	脚柱部外面：15 面のケズリ、脚裾部・杯部内面：ナデ	SX02 東拡張区	
	甕	20	29.4	(6.5)	-	乳朱色、内面体部：黒褐灰色	内面：ハケ、外面：摩滅の為調整不明	SX02 9 区	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	甕	21	29.4	(5.05)	-	乳朱褐色、内面：白橙色	内外面：摩滅の為調整不明	SX02 9 区 2 層	
		22	34.9	(7.55)	-	薄黄土色	内面：ヨコナデ、ナデ、外面：ヨコナデ、ナデ、ハケ	SX02 8 区 2 層	内面にス ス付着
		23	34.7	(7.2)	-	淡橙色	内面：ヨコナデ、ナデ、外面：ヨコナデ、ハケ	SX02 7 区 2 層	
		24	-	(5.0)	-	淡橙色	内面：ユビオサエ、ナデ、外面：把手貼り付け時のナデ、体部ナデ	SX02 8 区 2 層	
	鍋	25	18.7	(2.7)	-	明赤褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SX02 9 区 2 層	
		26	21.2	(4.0)	-	明赤褐色	内面：ヨコナデ、暗文、外面：ヨコナデ、ケズリ（b 手法）	SX02 9 区	
		27	22.6	(5.55)	-	灰桃乳色	内外面：ハケ、ナデ	SX02 9 区	
	支脚	28	12.4	(3.1)	-	淡灰褐色	内面：ヨコナデ、ケズリ、外面：ヨコナデ、ケズリ、ハケ	SX02 9 区	
		29	-	(4.5)	12.1	淡橙色	内面：ナデ、外面：ハケ	SX02 7 区 2 層	
		30	-	(22.5)	11.0	淡灰褐色	内面：ケズリ、ユビオサエ、外面：ハケ、ケズリ	SX02 9 区	
須恵器	杯B蓋	31	-	(1.7)	-	灰白色	内面：ヨコナデ、外面：天井部ヘラケズリ、つまみ部ヨコナデ	SX02 3 区	
		32	14.2	(1.5)	-	灰色	口縁部：ヨコナデ（時計回り）、内面：ナデ、外面：天井部ヘラケズリ	SX02 1 区	
		33	15.5	2.8	-	暗灰色	内外面：ヨコナデ、内面：天井部ナデ	SX02 東拡張区	内面に墨痕、転用硯
		34	15.3	(2.0)	-	灰白色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、天井部外面：ヘラケズリ	SX02 9 区 1 層	
		35	15.8	2.5	-	青灰色	内面：天井部仕上げナデ、外面：天井部ヘラオコシ後ナデ	SX02 1 区 2 層	内面に墨痕
		36	16.0	1.4	-	灰色	内外面：ヨコナデ	SX02 8 区 2 層	
		37	16.2	(1.6)	-	灰色	内外面：ヨコナデ、天井部外面：ヘラケズリ	SX02 5 区 2 層	
		38	16.5	1.9	-	灰色	内外面：ヨコナデ、天井部内面：仕上げナデ、天井部外面：ケズリ後ナデ	SX02 8 区 2 層	
		39	16.1	2.15	-	暗灰色	内外面：ヨコナデ、外面：天井部ヘラオコシ	SX02 8 区 2 層、 9 区 2 層	
		40	15.8	(1.6)	-	灰色	内面：天井部ナデ、外面：天井部ケズリ後ナデ	SX02 東拡張区	
		41	16.3	(4.0)	-	灰白色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、天井部外面：ヘラケズリ	SX02 9 区 2 層	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
須恵器	杯B蓋	42	16.3	(2.0)	-	灰色	内外面：ヨコナデ、内面：天井部ヘラケズリ、外面：天井部ヘラケズリ	SX02 東拡張区	外面に降灰痕跡
		43	17.4	(1.3)	-	灰色	内外面：ヨコナデ、内面：天井部ナデ、外面：天井部ナデ	SX02 東拡張区２層	
		44	17.3	(2.1)	-	灰色	内外面：ヨコナデ	SX02 東拡張区	内面に墨痕
		45	18.1	3.75	-	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、天井部外面：ケズリ	SX02 9 区	外面一部に自然釉
		46	18.5	(1.3)	-	灰色	内外面：ヨコナデ、天井部外面：ケズリ	SX02 4 区	
		47	19.2	(1.6)	-	青灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、内面：天井部仕上げナデ、外面：天井部ヘラケズリ	SX02 1 区 2 層	
		48	19.1	(1.7)	-	灰白色	内面：天井部仕上げナデ、外面：天井部ヘラケズリ	SX02 1 区 2 層	
		49	-	(2.2)	-	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、天井部内面：ナデ、天井部外面：ヘラケズリ	SX02 3 区 1 層	
	壺	50	-	(2.3)	9.6	灰色	内外面：ヨコナデ、内面底部：仕上げナデ、外面：ケズリ、貼り付け高台	SX02 7 区	
	杯B	51	-	(2.4)	8.2	灰白色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SX02 8 区 2 層	
		52	-	(1.7)	9.8	青灰色	内外面:ヨコナデ、外面:貼り付け高台、底部ケズリ	SX02 8 区 2 層	
		53	-	(1.9)	9.8	灰色	内外面:ヨコナデ、外面:貼り付け高台、底部ヘラオコシ	SX02 東拡張区２層	外面に一部降灰
		54	-	(1.5)	10.0	灰色	内外面:ヨコナデ、外面:貼り付け高台、底部ヘラケズリ	SX02 1 区 2 層	
		55	-	(1.9)	11.4	灰色	内外面:ヨコナデ、貼り付け高台、内面:底部仕上げナデ	SX02 1 区 2 層	
		56	-	(3.3)	11.6	青灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、内面：底部ナデ、外面：ケズリ後ナデ	SX02 1 区 2 層	
		57	13.8	4.05	10.4	灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SX02 9 区 1 層	底部外面に墨痕
		58	14.2	3.7	-	灰色	内外面：ヨコナデ、外面：底部ヘラケズリ	SX02 3 区	
		59	14.3	4.0	10.75	青灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SX02	
		60	16.6	3.9	12.0	青灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SX02 7 区	
		61	11.5	4.5	-	灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SX02 2 区 2 層	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
須恵器	杯B	62	14.4	5.1	10.45	青灰色	内外面：ヨコナデ、内面底部：仕上げナデ、外面：貼り付け高台	SX02 7 区	
		63	16.7	(4.9)	-	内面：灰色 外面：暗灰色	内外面：ヨコナデ	SX02 1 区 2 層	
		64	-	(5.3)	13.8	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、外面：貼り付け高台、底部ヘラケズリ	SX02 東拡張区	
		65	17.4	(5.4)	-	暗灰色	内外面：ヨコナデ	SX02 東拡張区	
		66	19.4	7.6	12.4	灰色	内外面：ヨコナデ、内面底部：仕上げナデ、外面：貼り付け高台、底部ケズリ	SX02 5 区	
	杯A	67	11.0	3.6	-	灰白色	内外面:ヨコナデ（反時計回り）、外面:底部ナデか	SX02 東拡張区 2 層	
		68	12.5	(3.4)	-	黄灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）	SX02 1 区	
		69	12.9	3.65	-	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、 底部外面：ヘラオコシ	SX02 9 区	
		70	13.4	(2.9)	-	灰白色	内外面：ヨコナデ	SX02 東拡張区 2 層	
		71	13.7	3.2	-	淡灰色	内外面：ヨコナデ、外面：底部ヘラオコシ	SX02 9 区 2 層	
		72	13.6	3.5	-	灰色	内外面：ヨコナデ、外面：底部ヘラオコシ	SX02	
		73	-	3.6	-	灰色	内外面：ヨコナデ、外面：底部ケズリ後ナデ	SX02 5 区 1 層	底部外面に墨書
		74	13.1	3.7	-	灰白色	内外面：ヨコナデ	SX02 6 区	
		75	14.6	(3.5)	-	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、外面：底部ナデか	SX02 東拡張区	
		76	14.75	4.3	-	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、外面：底部ナデ	SX02 4 区	
	杯E	77	18.0	(3.9)	-	灰色	内外面：ヨコナデ　外面：ヘラケズリ	SX02 8 区 2 層	
	皿A	78	15.3	2.4	-	灰色	内外面：ヨコナデ、外面：底部ケズリ後ナデ	SX02 2 区 (1 区) 2 層	底部内外面とも火襷
		79	17.2	(2.25)	-	灰色	内外面：ヨコナデ	SX02 3 区 あげ土	
		80	19.0	1.8	-	灰色	内外面：ヨコナデ、外面：底部ヘラケズリ後ナデ	SX02 拡張区	
	蓋	81	19.7	2.0	-	灰色	内面：天井部ナデ、外面：天井部ヘラケズリ後ナデ	SX02 1 区 2 層	環状鈕

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
須恵器	蓋	82	20.0	2.0	-	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、内面：ナデ、外面：天井部ケズリ後ナデ	SX02 1 区 2 層	環状鈕
	杯 B	83	18.9	6.35	11.2	外面：黄灰色 内面：灰青色	内外面：ヨコナデ、外面：ケズリ、貼り付け高台	SX02 1 区 2 層	
	蓋	84	10.0	(1.05)	-	淡灰黄色	内外面：ヨコナデ　天井部外面：ケズリ	SX02	外面に自然釉、内面に墨痕
		85	11.4	(2.4)	-	実測図に記載無し	内外面：ヨコナデ	SX02 1 区	外面に降灰
		86	13.4	(3.75)	-	淡青灰色	内外面：ヨコナデ、天井部外面：ケズリ	SX02 8 区 2 層（奈良土坑）	自然釉付着
	壺 A	87	11.0	(14.5)	-	灰色	内外面：ヨコナデ	SX02 1 区 2 層	肩部降灰
	壺 Q	88	17.3	15.0	10.85	灰黄色	内外面：ヨコナデ、外面：ケズリ（反時計回り）、貼り付け高台、底部ヘラオコシ後ナデ	SX02 東拡張区最下層	
	壺 K	89	最大径 16.5	(8.5)	-	暗灰色	内外面：ヨコナデ（反時計回り）、外面：ケズリ	SX02 5 区 1 層	肩部に降灰
	鉢	90	39.4	14.0	22.4	灰色～灰白色	内外面：ヨコナデ、内面：底部あて具痕	SX02 5 区奈良土坑、8 区 2 層（奈良土坑）	
	杯	91	-	-	-	灰色	実測図に観察記録なし	SX02 1 区 2 層	墨書
	杯 A	92	-	-	-	白灰色	実測図に観察記録なし	SX02 B-3 区 1 層	底部外面に墨書
瓦	軒丸瓦	93	13.35	9.6	3.05	淡黄灰色	磨滅のため調整不明瞭	SX02	長岡宮 7149 型式
土師器	杯 A	94	16.0	3.2	-	赤褐色	内外面：ヨコナデ、内面体部：暗文、a 手法	SK04 3 区 1 層	
		95	16.6	3.0	-	赤褐色	内外面：ヨコナデ、外面：ミガキ、底部ケズリ、b 手法	SK04 4 区 1 層	
	高杯	96	24.5	(2.1)	-	赤褐色	内外面：ヨコナデ後ヘラミガキ、内面：螺旋暗文 +2 段放射暗文	SK04 3 区 1 層	
		97	-	(5.3)	-	外面：褐色 内面：赤褐色	磨滅のため調整不明瞭	SK04 3 区 1 層	
	壺 A	98	最大径 16.8	(6.5)	-	褐色	内外面：ヨコナデ、外面：ヘラミガキ	SK04 4 区 1 層	
	甕	99	20.7	(5.1)	-	外面：淡褐色 内面：暗灰色	内面：ハケ後ナデ、外面：ヨコナデ、ハケ	SK04 2 区 1 層	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	甕	100	24.0	(5.7)	-	黄褐色	内外面：ヨコナデ、内面：ハケ	SK04 3 区 1 層	
		101	27.2	(8.6)	-	黄褐色	内面：ヨコナデ、ハケ　外面：タタキ	SK04 2 区 1 層	
		102	29.1	(3.9)	-	褐色	内面：ハケ、ナデ　外面：ヨコナデ	SK04 2 区 1 層	
	鍋	103	36.0	(11.6)	-	外面：黄褐色 内面：橙褐色	内面：ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ、 外面：ヨコナデ、ナデ、ハケ	SK04 3 区 1 層	
須恵器	杯蓋	104	15.6	(1.5)	-	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）	SK04 3 区 1 層	
	杯B	105	-	(2.2)	10.1	灰色	内外面：ヨコナデ、貼り付け高台	SK04 4 区 1 層	
	杯A	106	11.2	(3.2)	-	灰色	内外面：ヨコナデ	SK04 1 区 1 層	
		107	12.2	(2.9)	-	青灰色	内外面：ヨコナデ	SK04 2 区 1 層	
		108	13.0	3.1	-	暗灰色	内外面：ヨコナデ	SK04 2 区 1 層	
		109	13.0	3.3	-	灰色	内外面：ヨコナデ（反時計回り）	SK04 3 区 1 層	
		110	14.0	(3.5)	-	明灰色	内外面：ヨコナデ（反時計回り）	SK04 3 区 1 層	
		111	14.0	(3.5)	-	灰色	内外面：ヨコナデ（反時計回り）	SK04 1 区 1 層	
	壺B	112	最大径 20.9	(12.1)	-	灰色	内外面：ヨコナデ、ヘラケズリ、タタキ	SK04 1 区 1 層	肩部に降灰
	鉢A	113	19.4	(9.2)	-	灰色	内外面：ヨコナデ（時計回り）、外面：底部ヘラケズリ後ナデ	SK04 2 区 1 層	
		114	23.1	(7.2)	-	外面：暗灰色 内面：灰色	内外面：ヨコナデ	SK04 1 区 1 層	
土師器	杯A	115	13.75	2.6	-	白朱黄土色	内外面：ヨコナデ、内面：底部ナデ	拡張区	スス付着
		116	18.9	3.25	-	灰橙色	磨滅のため調整不明瞭	SX02 東拡張区 （検出面）	
		117	13.6	3.95	-	朱褐色	内外面：ヨコナデ、内面：ナデ、外面：ユビオサエ	工事立会	
須恵器	鉢	118	15.0	5.7	5.8	灰白色	内外面：ヨコナデ、底部：回転糸切り	P1 掘形	口縁端部に重ね焼き痕

第２–13 図　調査地全景（北から）

第２–14 図　調査地南部・SX02 周辺（北から）

第 2 –15 図　出土遺物 －1

第 2 –16 図　出土遺物 －2

3．長岡京跡右京第 272 次調査

～ 平安時代　南栗ヶ塚遺跡、土坑等出土資料 ～

調 査 地　長岡京市久貝二丁目 310 他　　**地 区 名**　7ANQNK － 3 地区

調査期間　1987（昭和 62）年 8 月 1 日～ 9 月 4 日　　**調査面積**　363㎡

時　　期　平安時代　　**出土遺物**　9 箱

立　　地　低位段丘Ⅱ　　標高約 17 m

参考文献　小田桐 淳「右京第 272 次調査略報」『長岡京市センター年報』昭和 62 年度 1989 年

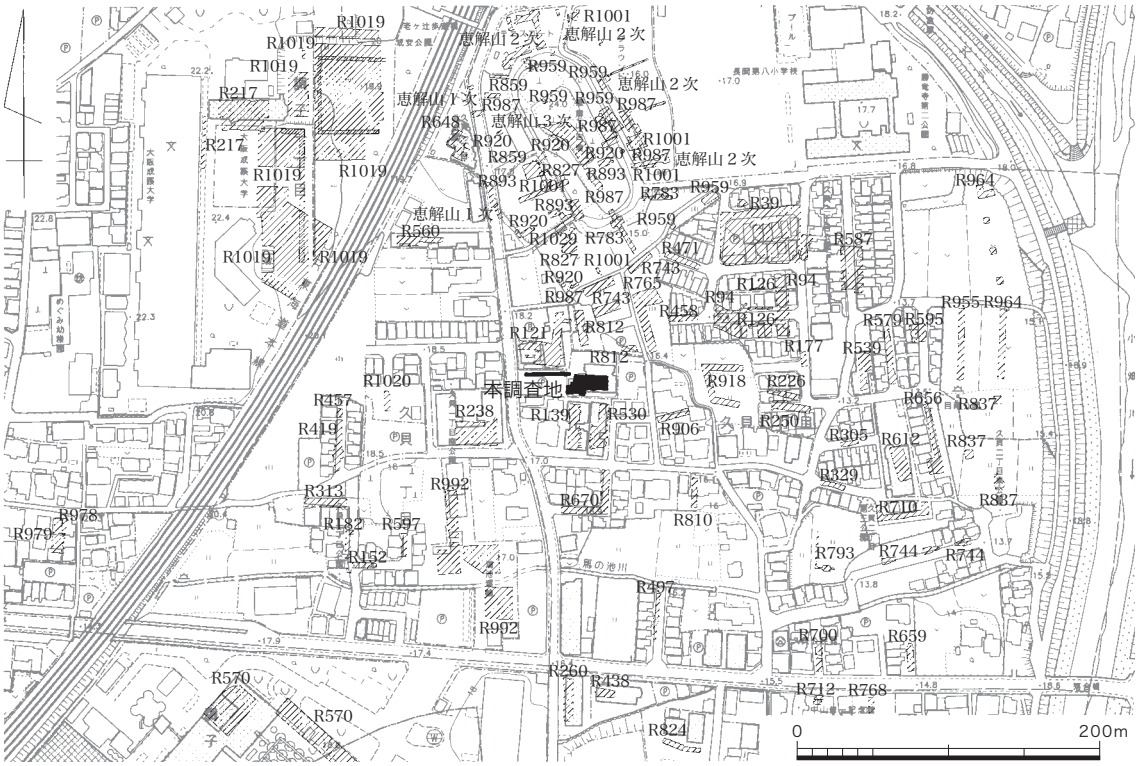
調査の概要

本調査は長岡京市久貝二丁目に所在する畑地で、共同住宅建設に伴う発掘調査として実施したものである。調査トレンチは共同住宅部分（1 トレンチ）と進入路部分（2 トレンチ）の 2 ヶ所に設定した。

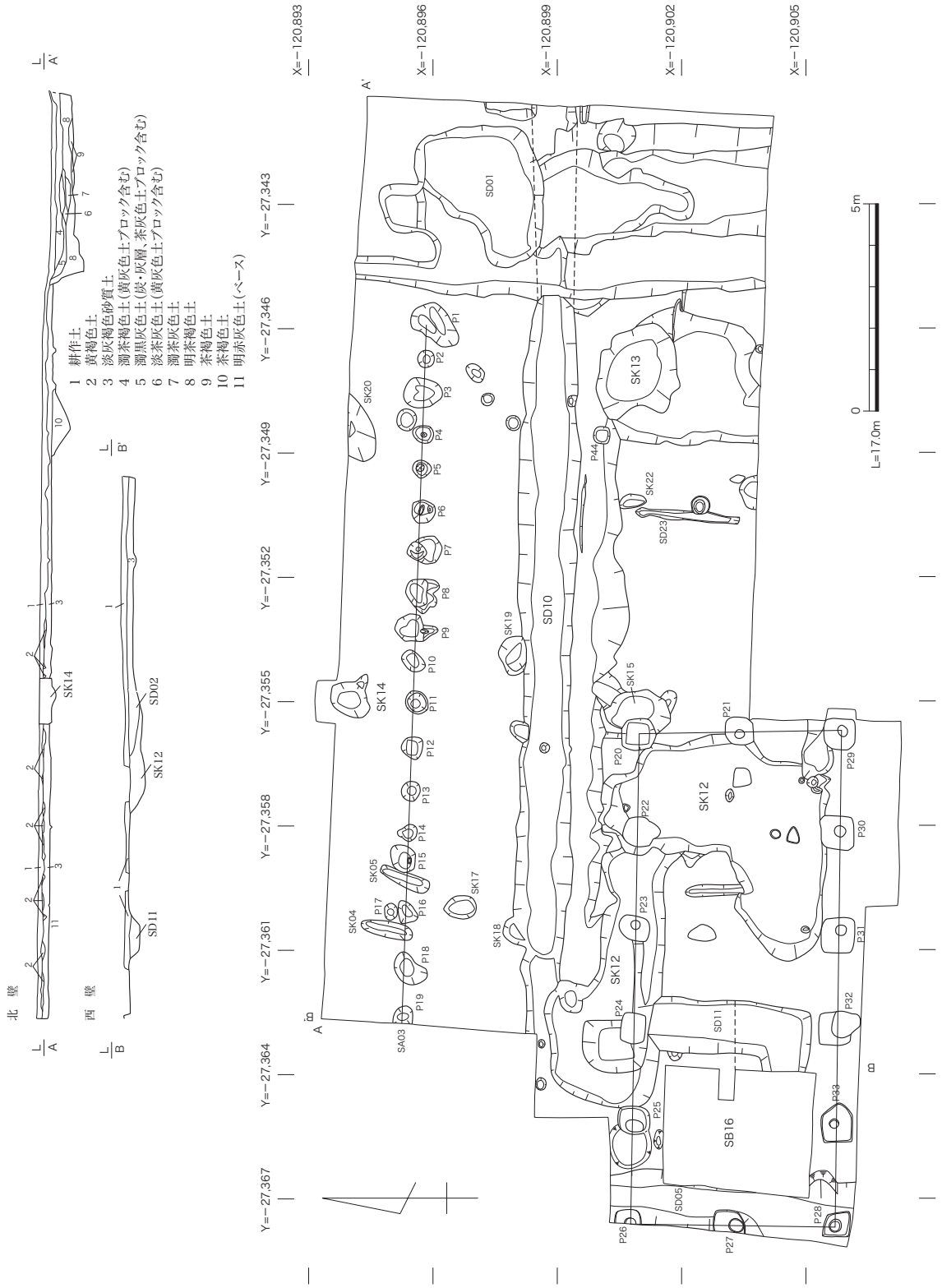
調査地の層序は、耕作土を除くと即地山面が検出された。地山面は 1 トレンチのほぼ中央部で東西方向の段がついており、北側が 30cm ほど低くなっている。地山面からは平安時代～近世頃の遺構が検出された。ここでは平安時代の遺構について主に報告する。

検出遺構

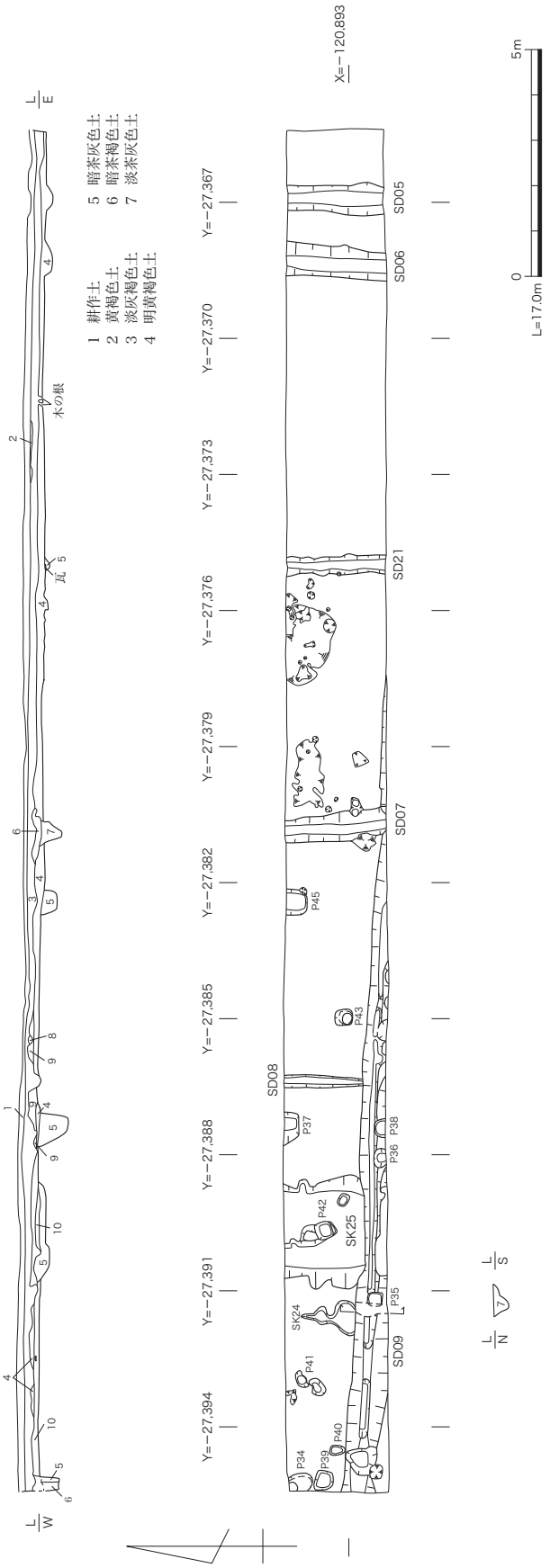
1 トレンチ　検出遺構のうち、溝 SD01・02、柵列 SA03 は近世の遺構である。溝 SD02 は段差の部分で検出された溝で、下から検出された溝 SD10 と重複する溝である。これら近世の遺構



第 3 – 1 図　発掘調査地位置図（1/5000）



第３－２図　１トレンチ実測図（1/150）



第3－3図　2トレンチ実測図（1/150）

埋土は黄褐色系の土で、他の遺構埋土とは明瞭に区別できる。

中世の遺構には溝SD10・11がある。これらの溝は一連の溝で、クランク状に折れ曲がっているものと考えられる。

平安時代の遺構には、掘立柱建物SB16、土坑SK12～14がある。掘立柱建物SB16と土坑SK12との新旧関係は掘立柱建物の方が新しいが、両者の埋土は非常に似通っていることから、さほど時期差はないと考えられる。

2トレンチ　近世の遺構には溝SD05～09がある。これらの遺構埋土も1トレンチの近世遺構埋土と同様である。

平安時代と考えられる遺構は溝SD21のみである。他の遺構は埋土的には同じであるが、遺物が少なく平安時代のものとは断定できない。

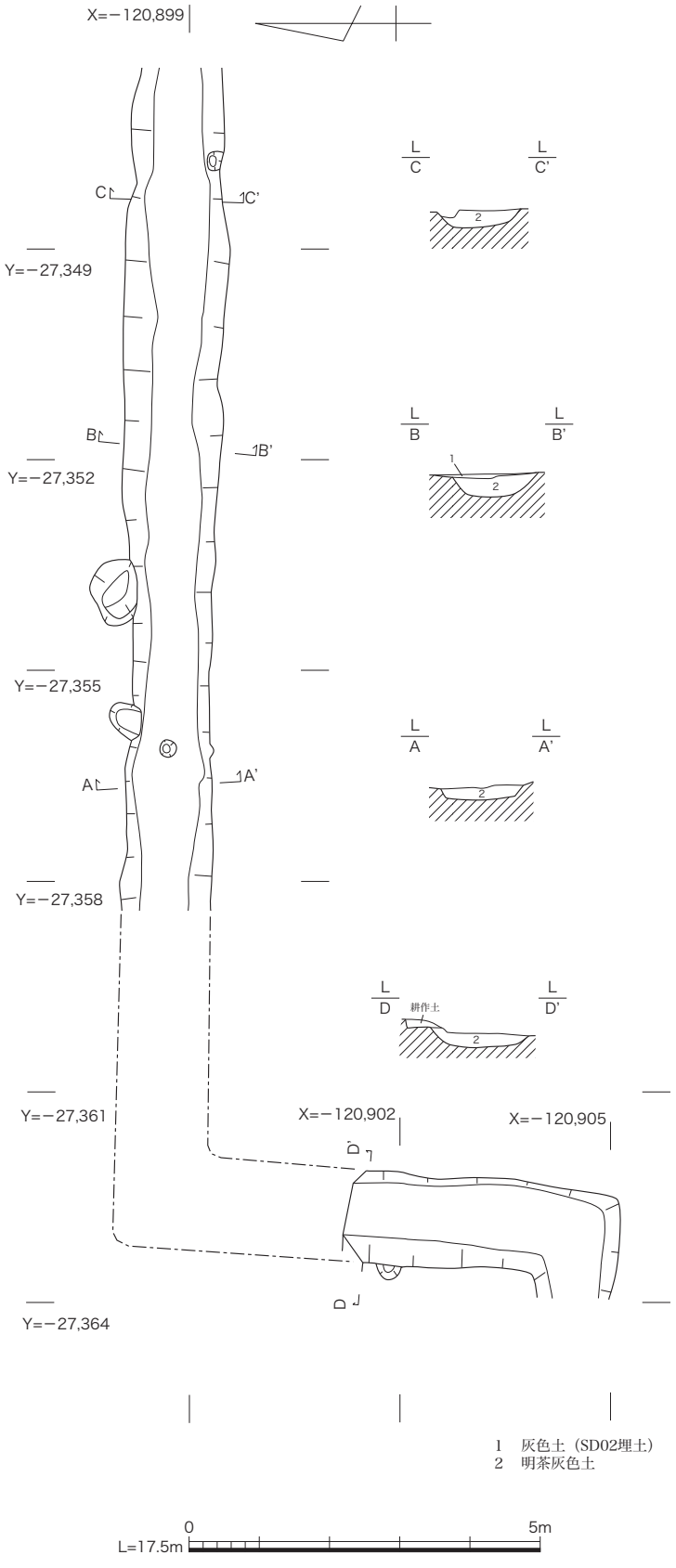
以下、平安時代の遺構について報告する。

掘立柱建物SB16は2間×5間の東西棟である。建物の方位はほぼ正方位といえるが、若干西で北に振れている。柱間は梁間・桁行共2.5m等間の建物である。

土坑SK12は東西9m、南北7mほどの範囲の「コ」字状を呈した土坑で、深さは深いところで20cmほどである。掘立柱建物SB16を建てる際の整地土である可能性も考えられる。

土坑SK13は東西3m、南北4mの土坑で、深さは10cmほどであるが、北部が30cmと一段深くなっている。形状からこの土坑も整地に伴って埋められた可能性が考えられる。

土坑SK14は長径1m、短径0.8mほ



第3－4図　溝SD10・11実測図（1/100）

どの楕円形ぎみを呈した土坑で、深さは0.2 mほどである。

中世の溝SD10・11は幅1.3～1.5 m、深さ0.2～0.3 mの規模で、地形が北に低くなる境目に掘られた溝である。形状がクランク状に屈曲すると考えられることから、中世における何らかの境界溝であろう。遺物は第3－13図、122～129が出土している。

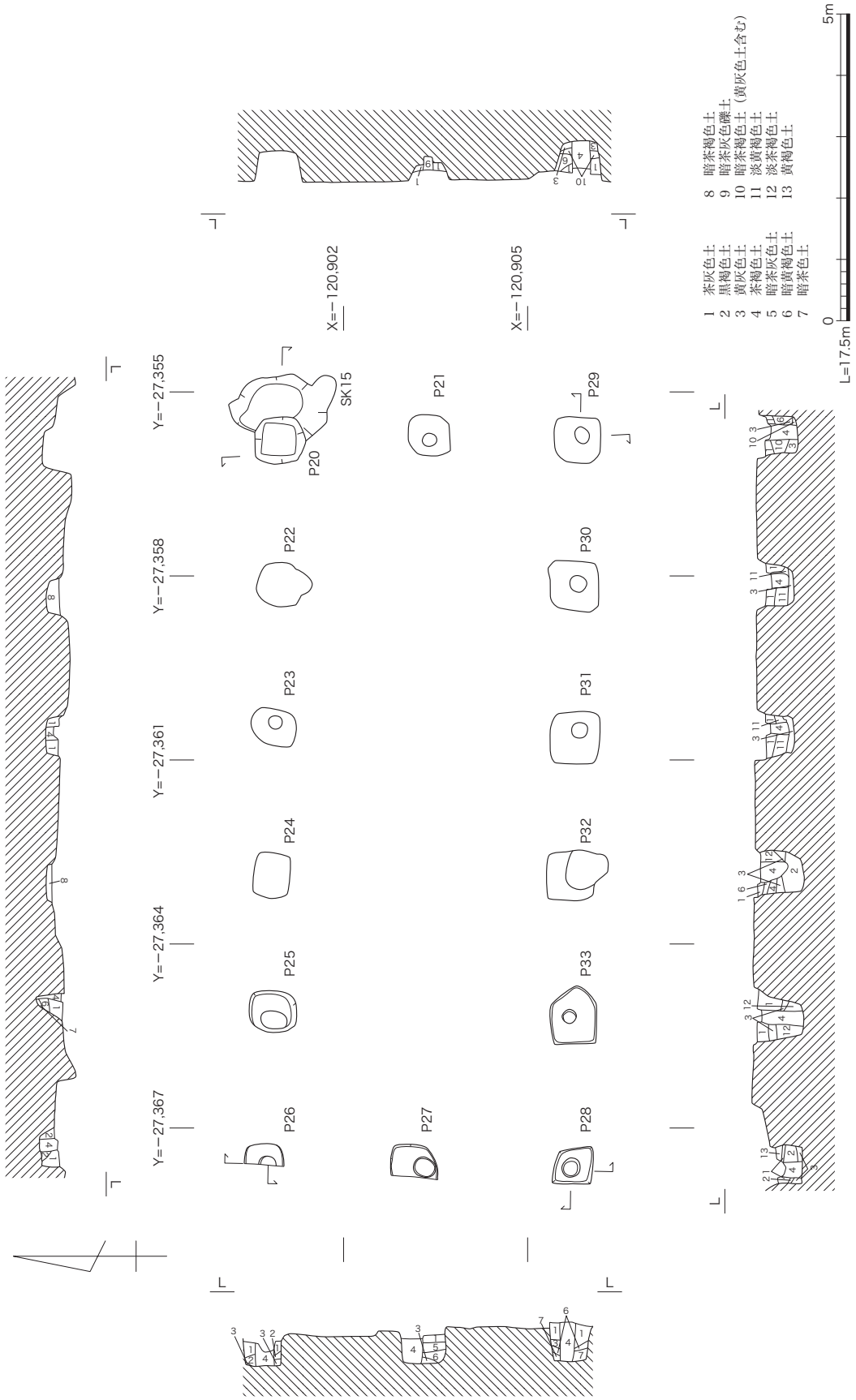
出土遺物

土坑SK12（第3－9図）から出土した遺物は破片がほとんどである。土師器では杯B蓋、杯B、皿A、高杯などが出土している。須恵器では杯B蓋、杯B、杯A、皿A、壺、壺蓋などがある。陶器類では、27が無釉陶器、24が灰釉陶器椀、25・26・28・29が緑釉陶器の椀皿類である。30は黒色土器の甕である。23は須恵器杯Aの底部片であるが、墨書が認められる。

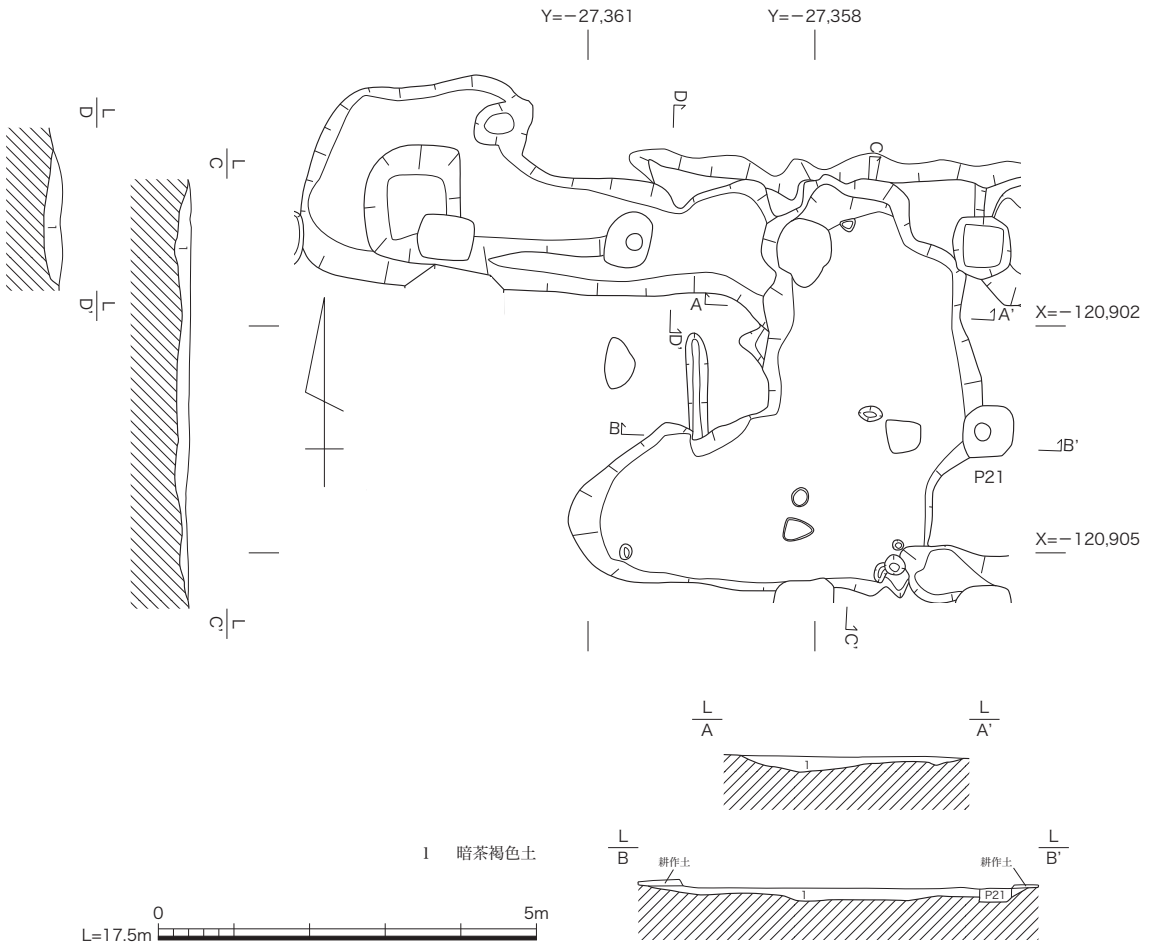
土器類の他に鉄製品が出土している。31・32は釘、33は海老錠の鍵である。

土坑SK13（第3－10・11・18図）からは多くの遺物が出土している。図示していないが瓦片も比較的多く出土している（132）。

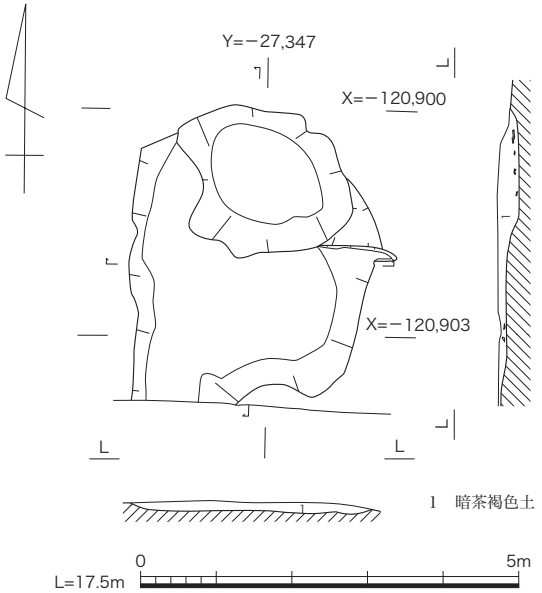
土師器では椀、杯、皿類が多い。これらの器形はc手法によるものが多く含まれる。甕は小型と大型の2種類出土している。78は土師器に墨書されたものである。



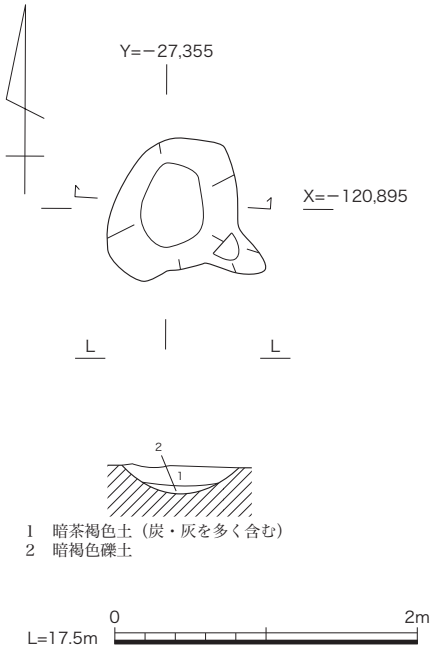
第３－５図　掘立柱建物 SB16 実測図（1/100）



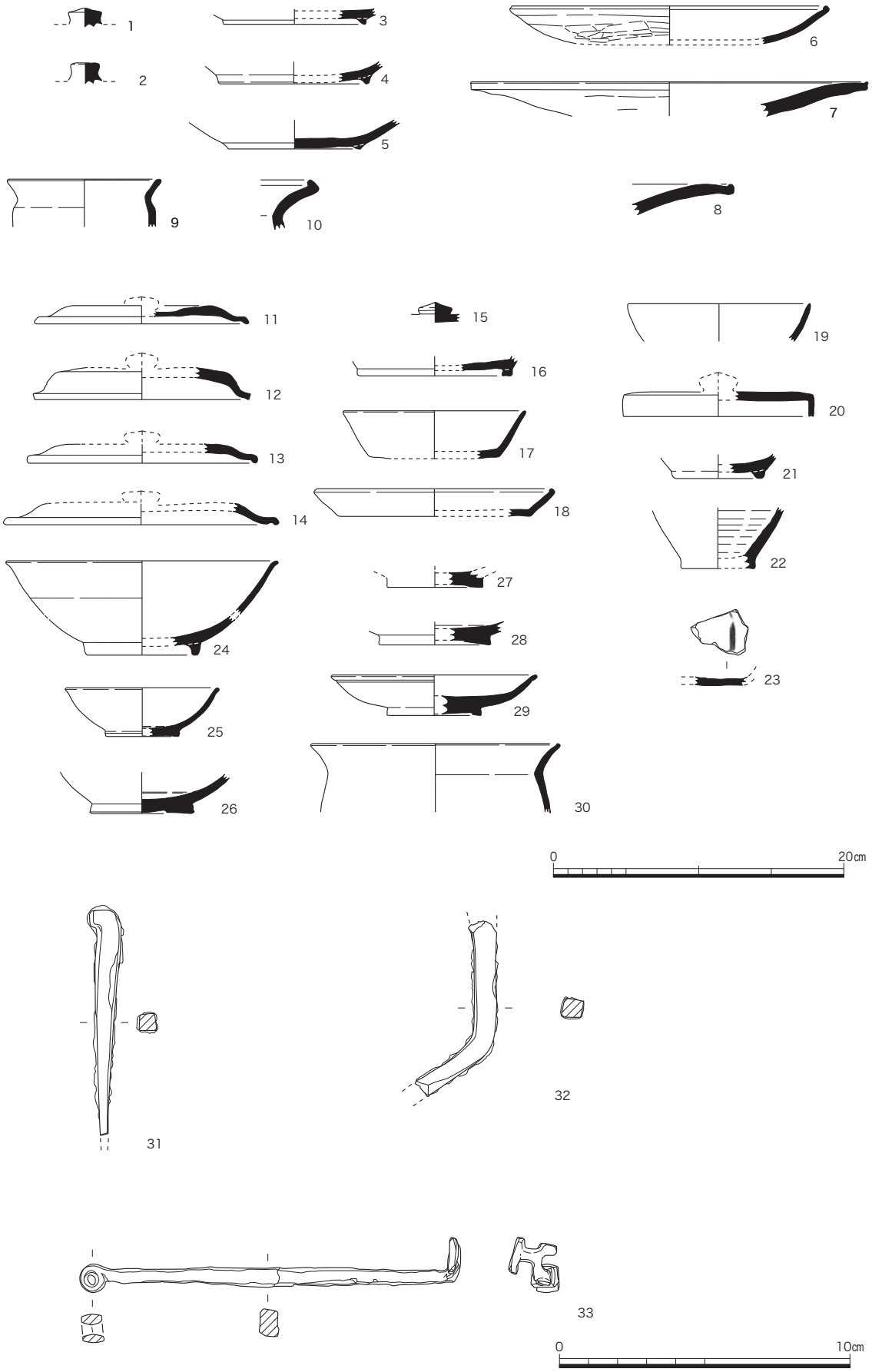
第３－６図　土坑 SK12 実測図（1/100）



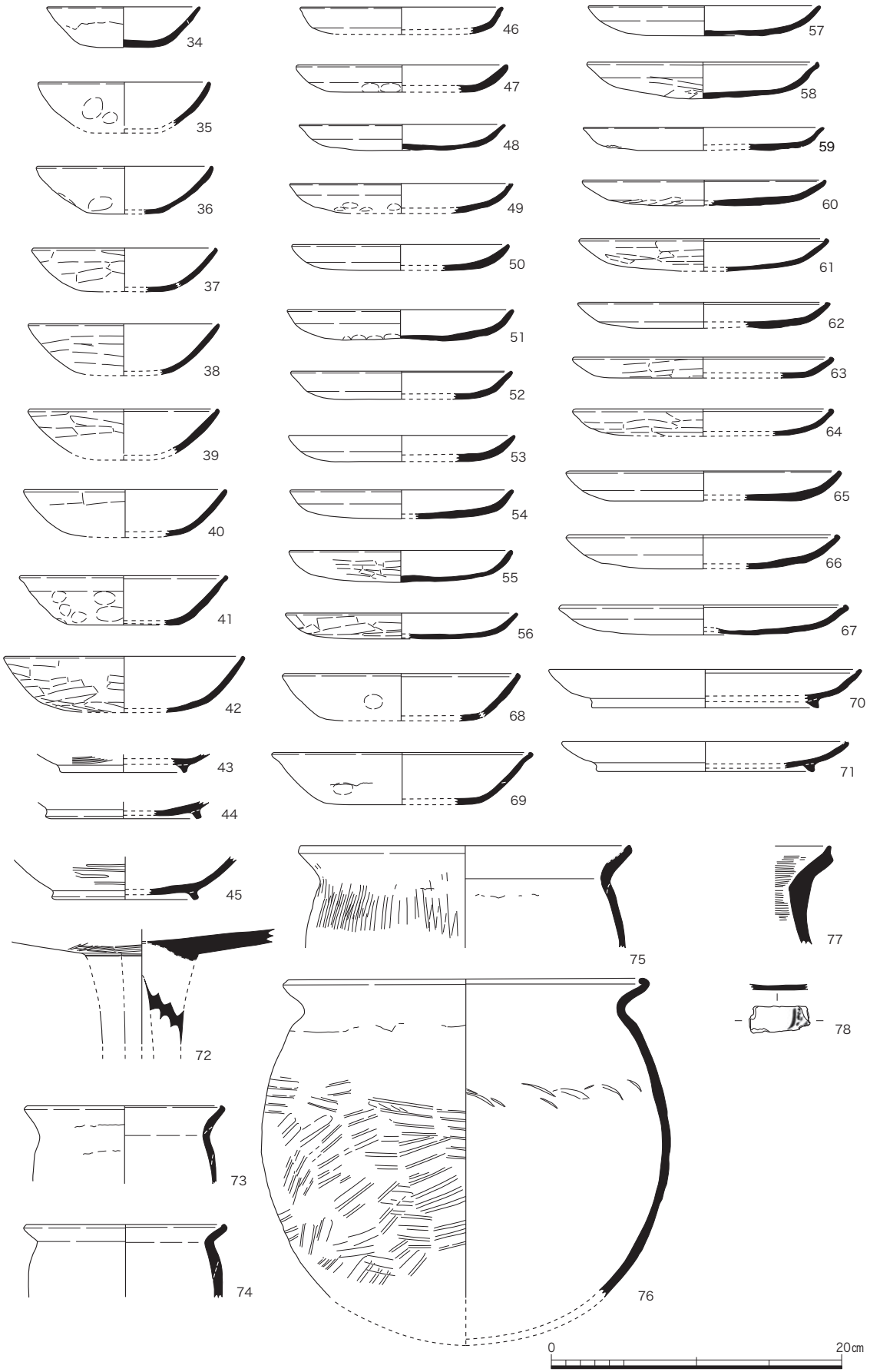
第３－７図　土坑 SK13 実測図（1/100）



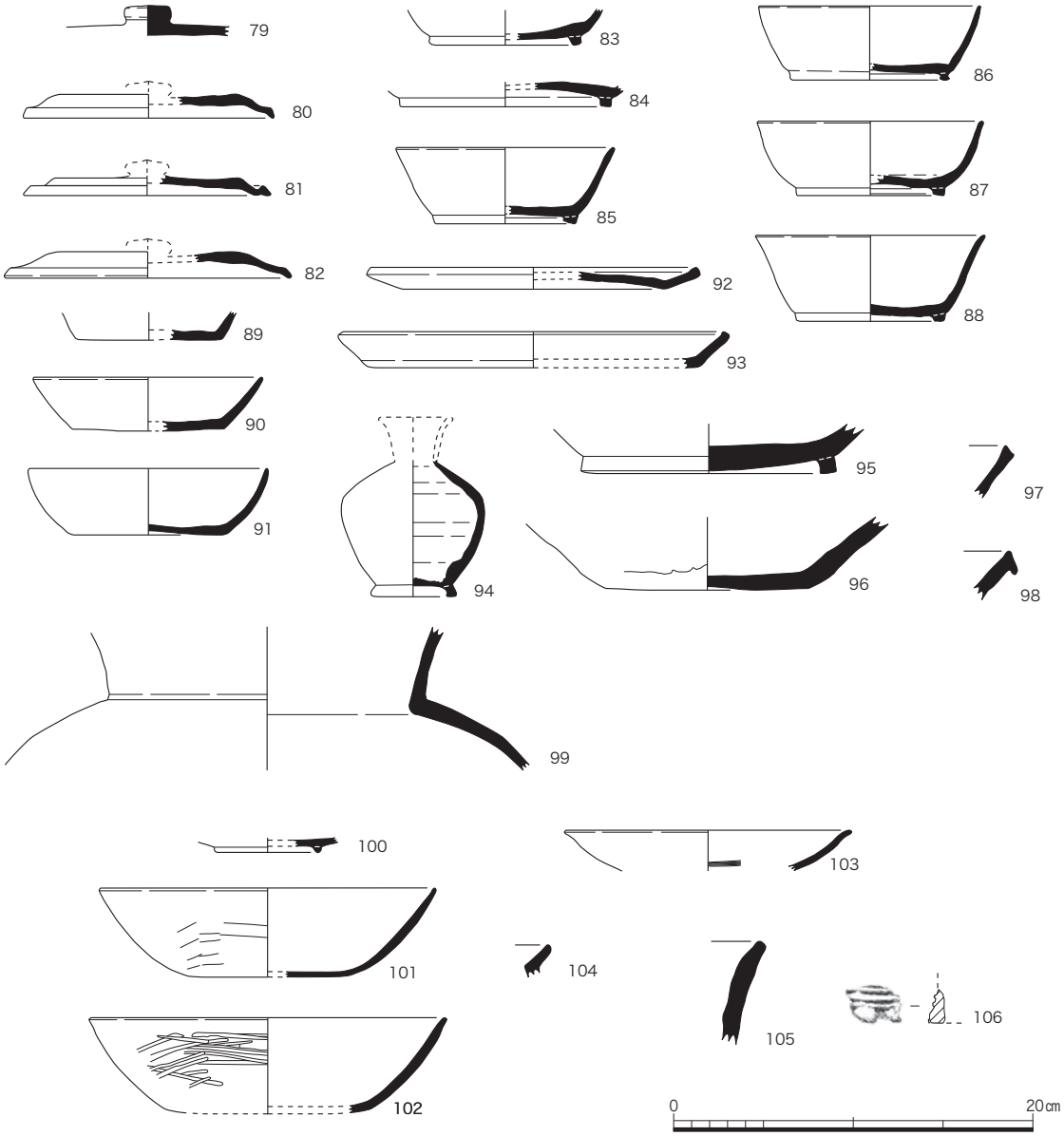
第３－８図　土坑 SK14 実測図（1/50）



第３－９図　土坑 SK12 出土遺物実測図（1/4・1/2）



第 3 –10 図　土坑 SK13 出土遺物実測図– 1 （1/4）



第３–11 図　土坑 SK13 出土遺物実測図–２（1/4）

須恵器では杯Ｂ蓋、杯Ｂ、杯Ａ、壺、甕類などが出土している。100 ～ 104 は黒色土器、105 は製塩土器である。106 は軒平瓦の瓦当部片である。

土坑 SK14（第３－ 12 図）からは土師器のみが出土している。杯Ａと杯Ｂ、皿Ａ、甕である。

他に、掘立柱建物 SB16 からは 121 の須恵器壺の把手部分が出土している。

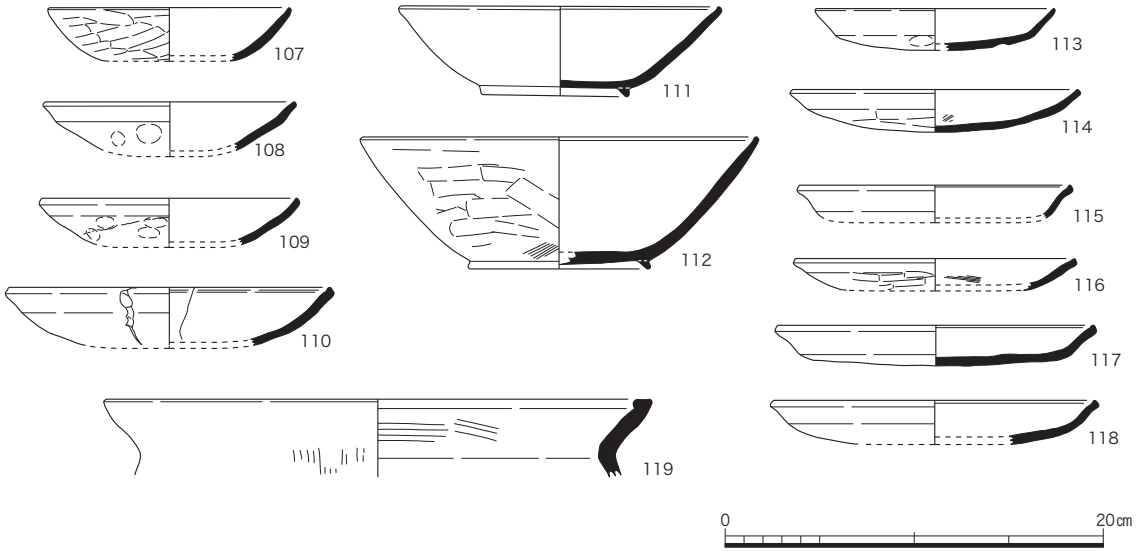
これらの遺物の時期は９世紀第２四半期前後と考えられる。

小　　結

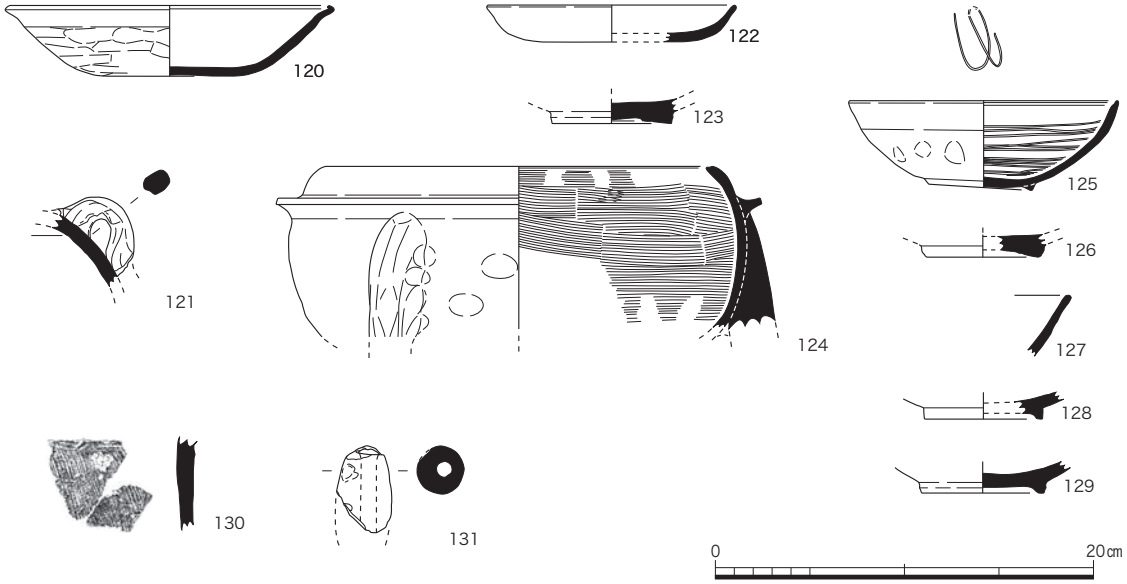
以上のように、今回の調査では平安時代・南栗ヶ塚遺跡の良好な資料を得ることができた。

当地は、長岡京跡では西一坊大路と八条条間南小路の交差点が想定される場所であり、その確認が期待されていた。しかし、長岡京に関する遺構は検出されず、長岡京廃都後間もない頃の建物などが検出された。

この平安時代前期の南栗ヶ塚遺跡は、２間×５間という通常より大型の建物であり、また遺物



第３–12 図　土坑 SK14 出土遺物実測図（1/4）



第３–13 図　その他の遺構出土遺物実測図（1/4）

的には供膳形態を主とする内容であるが、施釉陶器や海老錠の鍵など特殊な遺物を含んでいる。

この調査後も周辺部からは大型建物や大量の施釉陶器などが検出されており[注１]、近年では、延暦16（797）年、「長岡京南」に移された第３次山城国府の候補地として注目されている。

（小田桐　淳）

注１）　右京第 419 次調査、右京第 597 次調査などでは９世紀代の掘立柱建物が確認されており、また右京第 812 次調査で検出された落ち込みからは、緑釉陶器などを含む９世紀後半～末頃の遺物が大量に出土している。

木村泰彦「右京第 419 次調査概報」『長岡京市センター年報　平成４年度』1994 年

木村泰彦「右京第 597 次調査概報」『長岡京市センター年報　平成９年度』1999 年

木村泰彦「右京第 812 次調査概報」『長岡京市センター年報　平成 16 年度』2006 年

付表３－１　出土遺物観察表

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	杯B蓋	1	つまみ径 2.3	(1.3)	-	橙茶色	外面：ナデ	SK12 D区	
		2	つまみ径 2.0	(1.45)	-	淡赤茶色	外面：ナデ	SK12 D区畦	
	杯B	3	-	(0.65)	9.1	淡橙茶色 外面：赤茶色	内外面：ナデ、貼り付け高台	SK12 E区	
		4	-	(1.2)	10.4	橙茶色	内外面：ナデ、貼り付け高台	SK12 H区	
		5	-	(1.9)	9.0	橙茶色(高台：淡黄茶色)	内外面：ナデ、貼り付け高台	SK12 E区	
	皿A	6	22.0	(2.6)	-	淡桃茶色 (断面一部灰色)	内面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（c 手法）	SK12 D区畦	
	高杯	7	27.4	(2.35)	-	淡黄渇色	内外面：ナデ (粘土紐の繋ぎ目痕残る)	SK12 E区	
		8	-	(2.1)	-	淡橙褐色	内面：ミガキかナデ、外面：粗いミガキ	SK12 H区	
	甕	9	10.6	(3.3)	-	橙茶色	内外面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ (口縁部内面に煤付着)	SK12 D区	
		10	-	(3.3)	-	淡黄灰色	内外面：ナデ、外面：体部タテハケメ	SK12 B・C 区上面	
須恵器	杯B蓋	11	14.8	(1.25)	-	灰白色	内外面：ナデ、外面：天井部ヘラオコシ（内面に墨付着）	SK12 C区	転用硯
		12	15.0	(2.2)	-	灰色	内外面：ロクロナデ、外面：天井部ヘラオコシ（内面に墨付着、転用硯）	SK12 H区	
		13	15.8	(1.3)	-	灰色～暗灰色	内外面：ナデ、外面：天井部ヘラオコシ（内面に墨付着）	SK12 C区	転用硯
		14	19.0	(1.5)	-	灰色	内外面：ロクロナデ (口縁部に自然釉付着)	SK12 B区	
		15	つまみ径 2.3	(1.4)	-	灰色	外面：つまみ貼り付け時のナデ (内面に墨付着)	SK12 G・H 区上面	転用硯
	杯B	16	-	(1.2)	10.7	灰色	内面：ロクロナデ、外面：底部ヘラオコシ、高台貼り付け時のナデ	SK12 B区	
	杯A	17	12.6	3.3	9.0	灰色	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラオコシ	SK12 D・E 区畦	
	皿A	18	16.6	1.9	13.3	灰色～灰白色	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラオコシ	SK12 A区	
	杯	19	12.6	(2.6)	-	灰色	内外面：ロクロナデ (外面に自然釉付着)	SK12 B区畦	
	壺蓋	20	13.1	(1.7)	-	灰色～黄灰色	外面：天井部ヘラオコシ後ナデ（外面全体に自然釉付着）	SK12 C区	
	壺	21	-	(1.4)	6.4	灰色	内外面：ロクロナデ、外面：高台貼り付け時のナデ	SK12 G・H 区上面	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
須恵器	壺	22	-	(4.0)	5.1	外面：乳濁色 内面：黒色 断面：淡褐色	ロクロ成形	SK12 A区	
	杯A	23	-	-	-	灰色	内面：ナデ、外面：ヘラオコシ (内面に墨書)	SK12 E区	
灰釉陶器	椀	24	18.8	6.5	7.7	灰白色 釉：淡緑黄色	内外面:全面施釉、内面:底部ナデ、外面:体部ケズリ、削り出し高台後ナデ	SK12 E区・ SD11 C区	
緑釉陶器	椀	25	10.6	3.35	5.0	淡橙灰～灰色 釉：淡黄緑色	内面：底部に沈線、外面：ロクロナデ後粗いミガキ、削り出し高台	SK12 B・ E－2区	
		26	-	(2.45)	7.2	暗黄褐色 釉：淡黄緑色	内外面：ミガキ、内面：体部ロクロナデ後ミガキ、底部に沈線	SK12 E区	
無釉陶器	－	27	-	(1.1)	6.6	淡橙茶灰色	外面：底部ケズリ、糸切り	SK12 E区	
緑釉陶器	－	28	-	(0.95)	7.7	淡黄灰色 釉：淡黄緑色	内面:ロクロナデ後ミガキ、底部に沈線、削り出し高台	SK12 E－2区	
	皿	29	14.2	2.8	6.5	灰色 釉薬：緑黄色	内外面:粗いヘラミガキ、釉付着、外面:口縁部に沈線、削り出し高台	SK12 H区上面	
黒色土器	甕	30	17.2	(4.7)	-	内面：黒色 外面：黒色～橙茶色	内面：摩滅により調整不明、外面：ミガキか	SK12 E区	
鉄製品	釘	31	-	長 (7.9)	厚 0.55			SK12 E区	
		32	-	長 (6.0)	厚 0.7			SK12 F区	
	鍵	33	-	長 13.1	厚 0.7～ 1.0			SK12 E区	
土師器	椀	34	10.6	2.8	-	橙茶色 断面：黄灰色	内外面：ナデ（e 手法）	SK13 D区	
		35	11.9	(3.05)	-	淡橙茶色 断面：黄灰色	内外面:ナデ、外面:体部に指圧痕残る（e 手法）	SK13 D区	
		36	12.2	3.3	-	淡黄茶色	内外面：ナデ（e 手法）	SK13 D区	
		37	12.8	(3.0)	-	黄茶灰色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 D区	
		38	13.2	(3.5)	-	淡黄茶色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 A・D区	
		39	13.2	(3.1)	-	黄茶灰色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 D区	
		40	14.0	(3.25)	-	淡橙茶色～橙茶色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 D区	
		41	14.4	3.4	-	黄茶灰色 断面：黒灰色	内面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部に指圧痕残る（e 手法）	SK13 B区	
	杯A	42	16.6	(3.9)	-	橙茶色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 D区	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	杯B	43	-	(1.25)	8.7	橙茶色	内面：ナデ、外面：ヘラミガキ、貼り付け高台	SK13 D区	
		44	-	(1.1)	10.7	橙茶色～黄茶灰色	内外面：ナデ、貼り付け高台	SK13 A・B区	
		45	-	(2.75)	10.1	橙茶色	内面：ナデ、外面：ミガキ、貼り付け高台	SK13 A区	
	皿A	46	14.0	(1.85)	-	淡黄灰色 外面：橙茶色	内外面:ヨコナデ、内面:底部ナデ、外面:底部未調整（e 手法）	SK13 D区	
		47	14.6	1.9	-	橙茶色	内外面:ヨコナデ、内面:底部ナデ、外面:底部未調整、指圧痕残る（e 手法）	SK13 D区	
		48	14.2	1.8	-	黄灰色	内面：ナデ、外面：ヨコナデ、底部未調整（e 手法）	SK13 D区	
		49	15.4	(2.05)	-	淡橙茶色	内外面：ヨコナデ、外面：体部下半部～底部未調整、指圧痕残る（e 手法）	SK13 D区	
		50	15.0	1.8	-	黄茶色	内外面:ヨコナデ、内面:底部ナデ、外面:底部未調整（e 手法）	SK13 D区	
		51	15.6	2.15	-	淡黄褐色	内外面:ヨコナデ、内面:底部ナデ、外面:未調整、指圧痕残る（e 手法）	SK13 D区	
		52	15.3	1.95	-	橙茶色	内外面:ヨコナデ、内面:底部ナデ、外面:底部未調整（e 手法）	SK13 A区	
		53	15.6	1.8	-	橙茶色	内外面:ヨコナデ、内面:底部ナデ、外面:底部未調整（e 手法）	SK13 A区	
		54	15.4	2.0	-	橙茶色	内外面:ヨコナデ、内面:底部ナデ、外面:底部未調整（e 手法）	SK13 A・D区	
		55	15.4	2.2	-	橙茶色	内面：ナデ、外面：口縁部ナデ、体部～底部ヘラケズリ（c' 手法）	SK13 D区	
		56	16.0	1.8	-	淡黄茶灰色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 D区	
		57	16.0	2.05	-	橙茶色　断面中央：灰色	内外面：ヨコナデ、外面：体部下半部～底部未調整（e 手法）	SK13 A区	
		58	16.0	2.5	-	黄灰色	内面：ナデ、外面：体部下半～底部ケズリ（c' 手法）、底部に指圧痕残る	SK13 A・D区	
		59	16.6	1.6	-	淡橙茶色	内外面：ヨコナデ、外面：底部未調整、指圧痕残る（底部に粘土の繋ぎ目残る）	SK13 A区	
		60	16.8	1.8	-	橙褐色 内面：灰褐色	内面：ナデ、外面：ヨコナデ、部分的にケズリ、底部一部ヘラケズリ（b 手法）	SK13 A区	
		61	17.2	(2.25)	-	橙褐色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 A区	
		62	17.4	1.8	-	淡黄茶色	内外面:ヨコナデ、内面:底部ナデ、外面:底部未調整（e 手法）	SK13 D区	
		63	18.0	1.45	-	黄灰色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 D区	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	皿A	64	18.0	1.85	-	桃茶色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK13 A区	
		65	19.0	2.05	-	橙茶色～黄茶色	内外面：ヨコナデ、内面：底部ナデ、外面：底部未調整（e 手法）	SK13 A・D区	
		66	18.9	2.4	-	橙茶色	内外面：ヨコナデ、内面：底部ナデ、外面：底部未調整（e 手法）	SK13 D区	
		67	20.0	2.05	-	淡黄茶色	内外面：ヨコナデ、内面：底部ナデ、外面：体部下半部～底部未調整（e 手法）	SK13 D区	
	杯A	68	16.4	(3.3)	-	淡橙茶色	内面：ナデ、外面：ヨコナデ、体部下半部～底部ナデ、指圧痕残る（e 手法）	SK13 B区	
		69	18.0	3.6	-	黄茶色	内面：ナデ、外面：体部～底部ナデ、一部指圧痕残る（e 手法）	SK13 A区	
	皿B	70	21.6	2.65	15.6	黄灰色	内外面：ナデ、貼り付け高台	SK13 A区	
		71	19.8	2.05	14.7	黄茶灰色	内外面：ナデ、貼り付け高台	SK13 A区	
	高杯	72	-	(7.9)	-	淡橙茶色～淡黄灰色	杯部内面：ナデ、外面：ヘラミガキ、脚部七面	SK13 A区	
	甕	73	13.8	(5.2)	-	黄灰色	内外面：ナデ（粘土紐の継ぎ目残る）	SK13 D区	
		74	14.0	(5.05)	-	淡黄褐色	内面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	SK13 B・D区	
		75	23.0	(7.05)	-	黄茶褐色	内面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ強いナデ、体部タテハケメ	SK13 C区	
		76	25.0	(22.0)	-	黄茶褐色～淡褐色	体部上半ナデ、下半タタキ、内面に当て具痕（粘土紐の継ぎ目痕残る）	SK13 A・D区	
		77	-	(6.8)	-	橙茶色	内面：口頸部ヨコハケ後ナデ、体部ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部タテハケ	SK13 A・B区	
	椀	78	-	-	-	淡黄茶色	内面：ナデ、外面：ケズリか (内面に墨書)	SK13 C区	
須恵器	杯B蓋	79	つまみ径 2.6	(1.7)	-	暗灰色	内面：ナデ、外面：ヘラオコシ、つまみ貼り付け時のナデ（転用硯として使用か）	SK13 A区	
		80	14.0	(1.35)	-	灰色	内外面：ナデ、外面：天井部ヘラオコシ	SK13 C区	
		81	13.8	(1.1)	-	灰色	内外面：ロクロナデ、外面：天井部ヘラオコシ	SK13 C区	
		82	16.0	(1.5)	-	青灰色	内外面：ロクロナデ、外面：天井部ヘラオコシ	SK13 D区	
	杯B	83	-	(1.95)	8.5	淡灰色	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラオコシか、貼り付け高台	SK13 D区	
		84	-	(1.4)	11.6	灰色	内外面：ナデ、外面：底部ヘラオコシ後ナデ、貼り付け高台（自然釉付着）	SK13 A区	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
須恵器	杯B	85	12.2	4.25	7.7	灰色　自然釉：黒漆色	内外面：ロクロナデ、外面：底部貼り付け高台（外面体部に自然釉付着）	SK13 A区	
		86	12.4	4.15	8.9	灰色	内外面：ロクロナデ、外面：底部高台貼り付け時のナデ（外面に一部自然釉）	SK13 A・D区	
		87	12.6	4.15	8.2	灰色	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラオコシ、高台貼り付け時のナデ	SK13 A・D区	
		88	12.8	4.8	8.2	灰色	外面：底部ヘラオコシ、高台貼り付け時のナデ（外面に一部自然釉）	SK13 A・B・D区	
	杯A	89	-	(1.5)	7.9	淡灰色	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラオコシ	SK13 D区	
		90	12.8	3.0	-	灰色～灰白色	内外面：ナデ、外面：底部ヘラオコシ	SK13 A区	
		91	13.4	3.7	-	灰白色～淡桃褐色	内外面：ナデ（ロクロナデか）、外面：底部ヘラオコシ後粗いナデ	SK13 C区	
	皿A	92	18.6	1.2	-	灰白色	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラオコシ	SK13 A・D区	
		93	21.8	2.0	-	灰白色	内外面：ロクロナデ	SK13 A区	
	壺M	94	-	(7.6)	4.75	灰色～暗灰色	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラオコシ後ナデか、貼り付け高台	SK13 D区	
	壺	95	-	(2.5)	14.2	灰色～暗灰色	内外面：ナデ、貼り付け高台	SK13 A区	
	鉢	96	-	(3.7)	11.2	灰色	内面：ナデ	SK13 A区	
		97	-	(2.9)	-	灰色	内外面：ロクロナデ	SK13 A区	
		98	-	(2.7)	-	灰色 外面：暗灰色	内外面:ロクロナデ（外面に自然釉付着）	SK13 C区	
	甕	99	頸部径 17.8	(7.35)	-	内面：青灰色 外面：黄灰色	内面:頸部ロクロナデ、体部ナデ、外面:ロクロナデ	SK13 A・D区	
黒色土器	杯B	100	-	(0.8)	5.9	内面：黒色 外面：淡黄茶色	内面：ヘラミガキ、外面：摩滅、貼り付け高台	SK13 A区	
	杯A	101	18.8	4.95	-	内面：黒色 外面：橙茶色	(摩耗により調整不明)	SK13 A・D区	
		102	19.9	(5.3)	-	内面：黒色 外面：灰褐色	内面:密な横方向のミガキ後暗文、外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	SK13 D区	
	皿	103	16.0	(2.25)	-	内面：黒色 外面：淡黄茶色	内面：ヘラミガキか、外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	SK13 A区	
	甕	104	-	(1.55)	-	黒色	内面：ヘラミガキ、外面：ナデ	SK13 D区	
製塩土器	-	105	-	(5.8)	-	黄茶色	内外面：ナデ	SK13 C区	

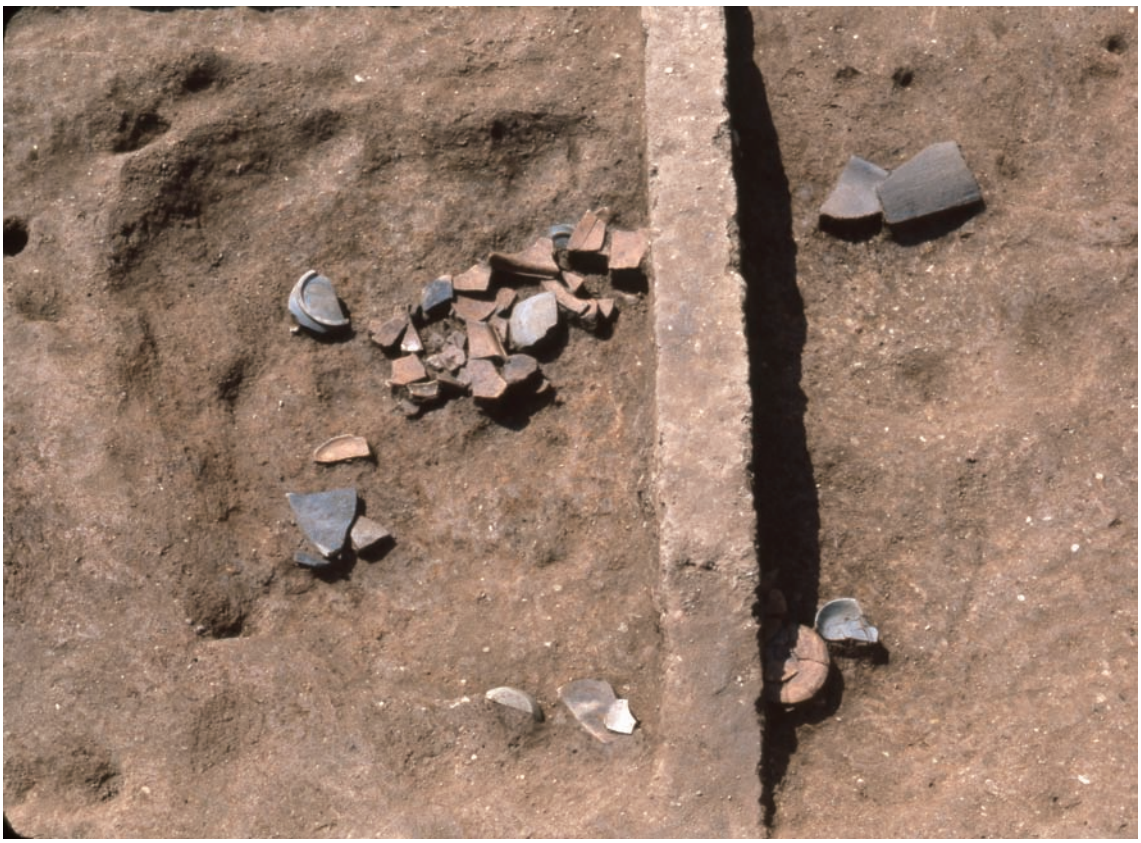
種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
瓦	軒平瓦	106	-	-	-	灰色		SK13 A区	
土師器	椀	107	12.8	(2.8)	-	橙茶色	内面：ナデ、外面：ヘラケズリ（c 手法）	SK14	
		108	13.4	(2.55)	-	橙褐色	内面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部未調整、指圧痕残る（e 手法）	SK14	
		109	13.8	(2.5)	-	黄茶色	内面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部未調整、指圧痕残る（e 手法）	SK14	
	杯A	110	17.4	(3.1)	-	橙茶色	内面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部未調整(e 手法)(粘土継ぎ目痕残る)	SK14	
	杯B	111	17.1	4.8	-	淡橙茶色	内面：ヨコナデ、外面：ナデ、貼り付け高台（e 手法）	SK14	
		112	21.1	7.0	-	橙茶色～黄茶灰色	内面：ナデ、外面：ナデ、一部にケズリ、底部一部ハケメ、貼り付け高台（c 手法）	SK14 上面	
	皿A	113	12.7	2.2	-	橙茶色	内面：ヨコナデ後ナデ、外面：ヨコナデ、底部未調整、指圧痕残る（e 手法）	SK14 上面	
		114	15.4	2.25	-	淡橙茶色	内面：ナデ、底部ハケメ、外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ（c' 手法）	SK14	
		115	14.6	(1.75)	-	黄茶色 一部淡黒色	内面：ナデ、外面：ヨコナデ、底部ナデか（e 手法）	SK14	
		116	15.0	(1.7)	-	橙茶色	内面：ハケメ後ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（c' 手法）	SK14	
		117	17.0	2.15	-	淡橙茶色	内面：ナデ、外面：ヨコナデ、底部未調整、指圧痕残る（e 手法）	SK14	
		118	17.4	(2.3)	-	橙茶色	内面：ナデ、外面：ヨコナデ、底部未調整、指圧痕残る（e 手法）	SK14	
	甕	119	29.0	(4.0)	-	淡黄茶色	内面：口縁部ハケメ、体部ナデか、外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ後ナデ	SK14 上面	
	杯A	120	17.4	3.75	-	淡黄茶色	内面：ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後ケズリ	SD09 B区	
須恵器	壺	121	-	-	-	灰色	内面：ロクロナデ、外面：ナデ	SB16 P30	
土師器	皿	122	13.2	1.95	-	淡黄茶色	口縁部ヨコナデ、内面：底部ナデ、外面：底部未調整（e 手法）	SD10 A区	
緑釉陶器	–	123	-	(1.3)	6.3	黄灰色 釉薬：淡緑黄色	内外面：施釉、削り出し高台	SD10 B区	
瓦質	三脚羽釜	124	20.5	(9.0)	-	黒灰色 一部黄灰白色	内面：ハケメ、外面：鍔上面ヨコナデ、体部指圧痕残る	SD10 B区	
瓦器	椀	125	14.3	4.75	5.5	黒色 断面：白灰色	内面：粗いミガキ、底部に暗文、外面：体部指圧痕残る、貼り付け高台	SD11 C区	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区 層位	備考
			口径	器高	底径				
無釉陶器	–	126	-	(1.2)	5.9	灰色	内面：ナデ、外面：ケズリ	SD11・ SK12 上面	
緑釉陶器	椀	127	-	(3.25)	-	灰色 釉：緑黄色～暗緑濁色	内外面：ロクロナデ、施釉	SD11 B区	
	–	128	-	(1.1)	6.3	灰色 釉：淡緑黄色	内面:ナデ、施釉、外面:ケズリ、施釉、削り出し高台	SD11 B区	
	–	129	-	(1.35)	6.5	灰色～橙灰色 釉：明黄緑色	内面:ナデ、施釉、外面:ケズリ、施釉、削り出し高台	SD11 C区	
埴輪	-	130	-	-	-	橙茶色 断面：暗橙褐色	内面：ナデ、外面：突帯貼り付け時のナデ、斜め方向にハケメ	SK15	
土製品	土錘	131	幅 2.9	長 4.6	厚 2.55	灰色～淡黄茶色		SK25	

第３–14 図　調査地全景（西から）

第３–15 図　掘立柱建物 SB16（西から）

第３–16 図　１トレンチ全景（西から）



第３–17 図　土坑 SK13（南から）

第 3 –18 図　出土遺物 －1

第 3 –19 図　出土遺物 －2

4．長岡京跡右京第 407 次調査

～ 平安時代　今里遺跡、掘立柱建物等出土資料 ～

調 査 地　長岡京市今里畔町 23　　**地 区 名**　7ANIAC － 3 地区

調査期間　1992（平成４）年７月 10 日～８月 12 日　　**調査面積**　280㎡

時　　期　平安時代前期　　**出土遺物**　41 箱

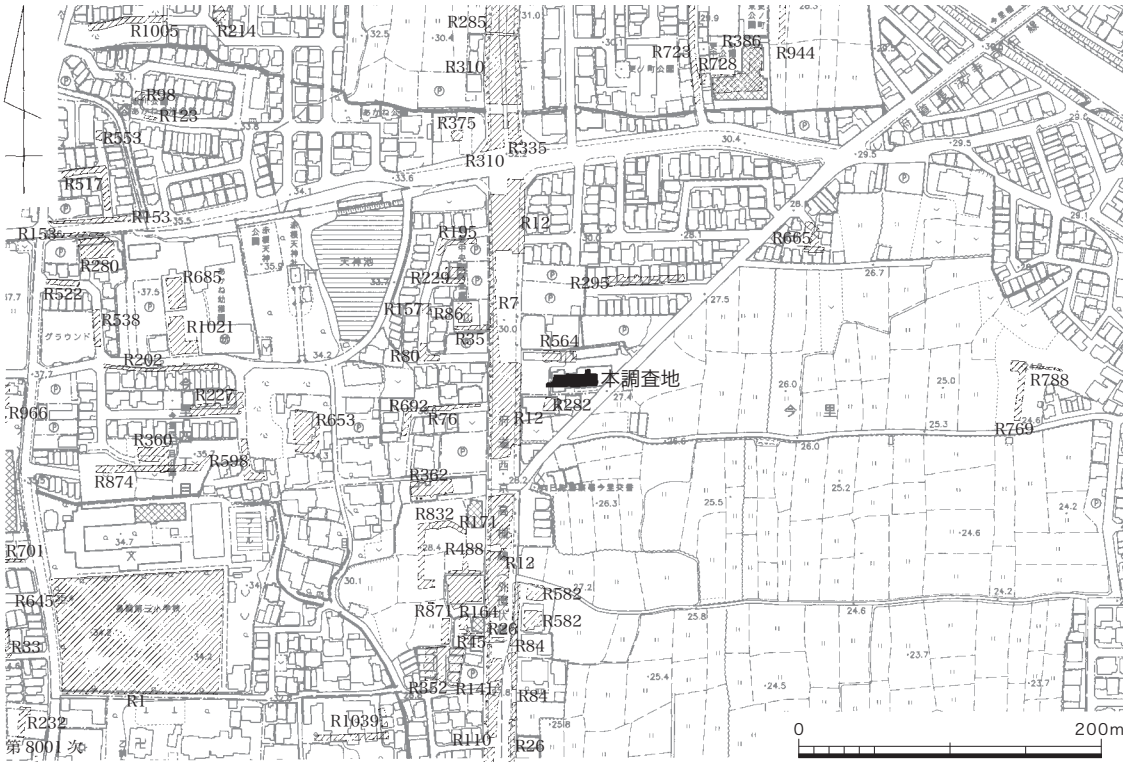
立　　地　氾濫原Ⅰ　　標高 27.7 m

参考文献　中島皆夫「右京第 407 次調査略報」『長岡京市センター年報』平成４年度 1994 年

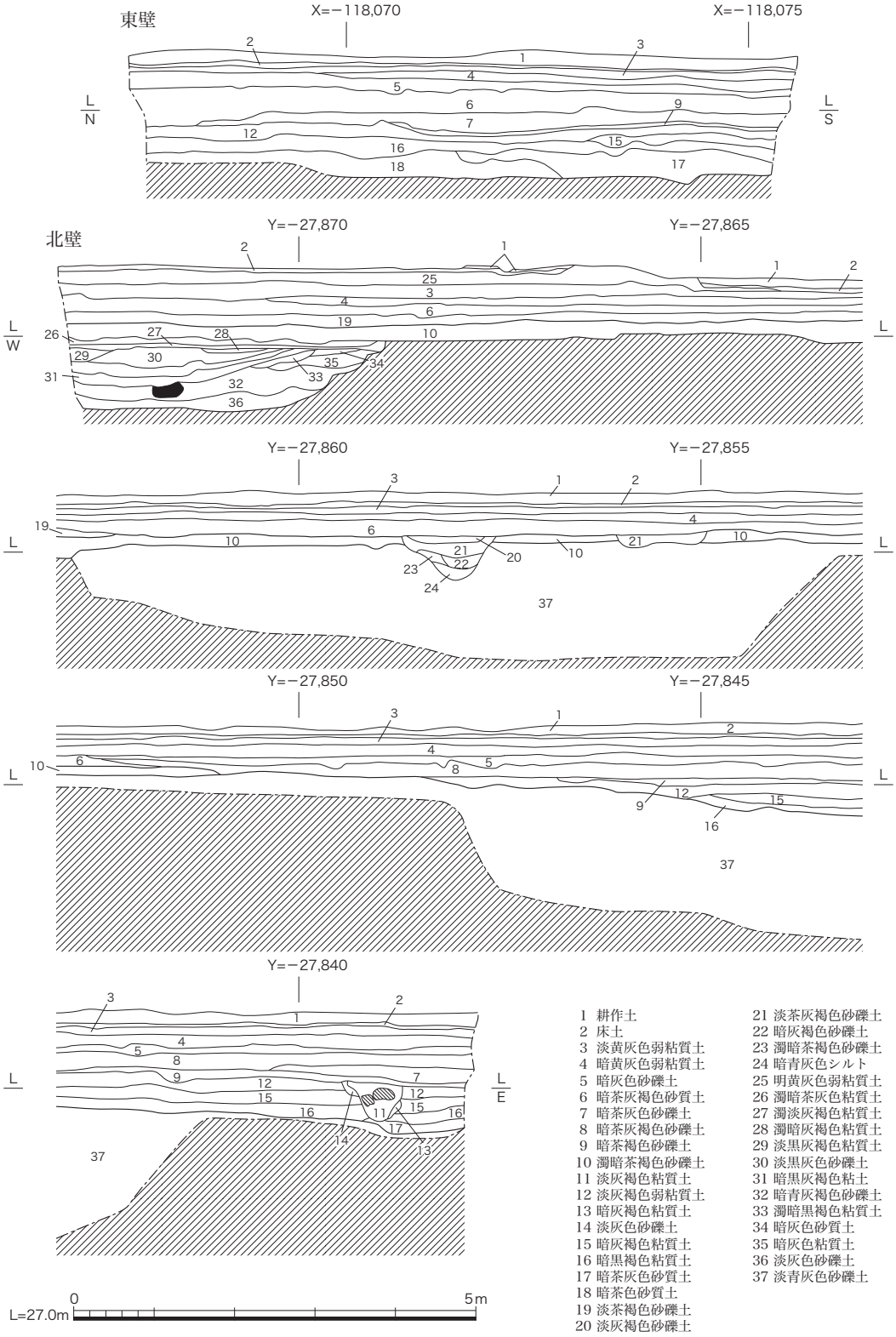
調査の概要

調査地は、飛鳥時代より法灯を伝える乙訓寺の北東約 300 mに位置し、旧石器時代以降の複合遺跡である今里遺跡の北東部にあたる。調査地周辺では、数十回もの調査が行われており、長岡京期を始め、弥生・古墳・平安時代の重要な成果が収められている。

本調査は、共同住宅建設工事に伴って実施したものである。調査区は当初、南北約８m、東西約 31 mの範囲を設定し、調査期間の終盤に北辺２箇所、西辺１箇所で拡張作業を行った。このうち、西辺の拡張区は、掘立柱建物 SB06 西側の状況を確認するとともに、右京第 282 次調査[注1]で櫂状木製品が出土した弥生時代後期の流路を検出するために設けている。調査では、古墳時代前・後期と平安時代前期の遺構を検出し、平安時代前期を中心に大量の遺物が出土した。本報告では、平安時代前期の成果を報告する。

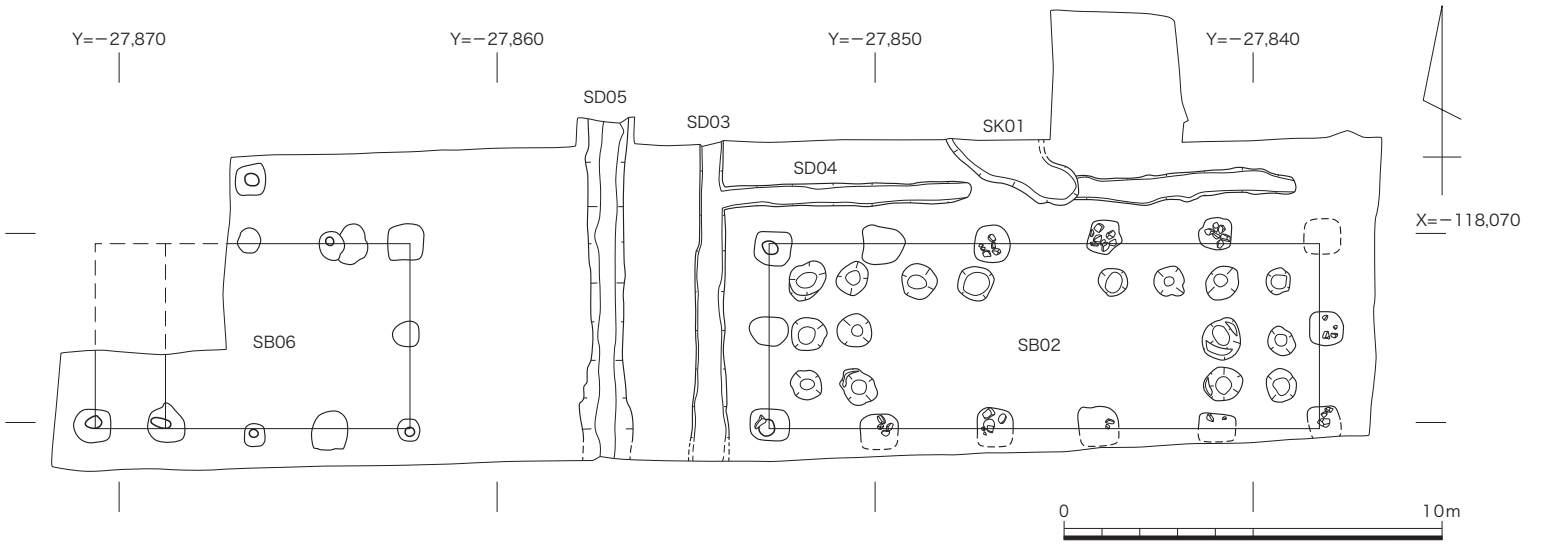


第４－１図　発掘調査地位置図（1/5000）

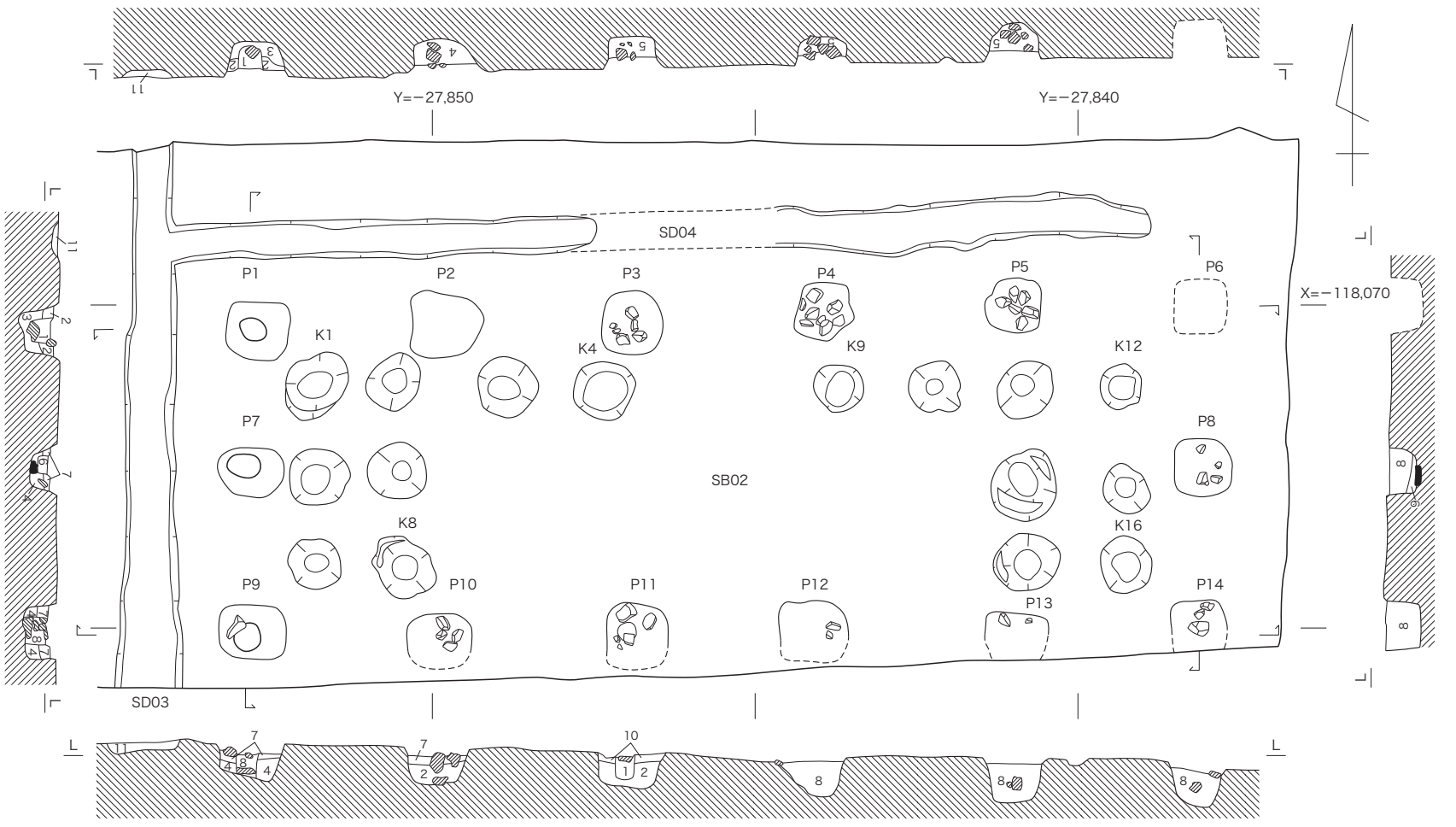


1 耕作土
2 床土
3 淡黄灰色弱粘質土
4 暗黄灰色弱粘質土
5 暗灰色砂礫土
6 暗茶灰褐色砂質土
7 暗茶灰色砂礫土
8 暗茶灰褐色砂礫土
9 暗茶褐色砂礫土
10 濁暗茶褐色砂礫土
11 淡灰褐色粘質土
12 淡灰褐色弱粘質土
13 暗灰褐色粘質土
14 淡灰色砂礫土
15 暗灰褐色粘質土
16 暗黒褐色粘質土
17 暗茶灰色砂質土
18 暗茶色砂質土
19 淡茶褐色砂礫土
20 淡灰褐色砂礫土
21 淡茶灰褐色砂礫土
22 暗灰褐色砂礫土
23 濁暗茶褐色砂礫土
24 暗青灰色シルト
25 明黄灰色弱粘質土
26 濁暗茶灰色粘質土
27 濁淡灰褐色粘質土
28 濁暗灰褐色粘質土
29 淡黒灰褐色粘質土
30 淡黒灰色砂礫土
31 暗黒灰褐色粘土
32 暗青灰褐色砂礫土
33 濁暗黒褐色粘質土
34 暗灰色砂質土
35 暗灰色粘質土
36 淡灰色砂礫土
37 淡青灰色砂礫土

第４－２図　調査区土層図（1/80）



第４－３図　平安時代前期検出遺構図（1/200）



1 暗灰色砂礫土
2 淡灰色砂礫土
3 暗黄灰色砂礫土
4 暗灰褐色砂礫土
5 暗灰色粘質土
6 淡灰褐色弱粘質土
7 暗茶褐色砂礫土
8 暗灰褐色粘質土（砂礫土混じり）
9 暗黒褐色粘質土（砂礫土混じり）
10 淡茶褐色砂礫土
11 淡茶灰褐色砂礫土

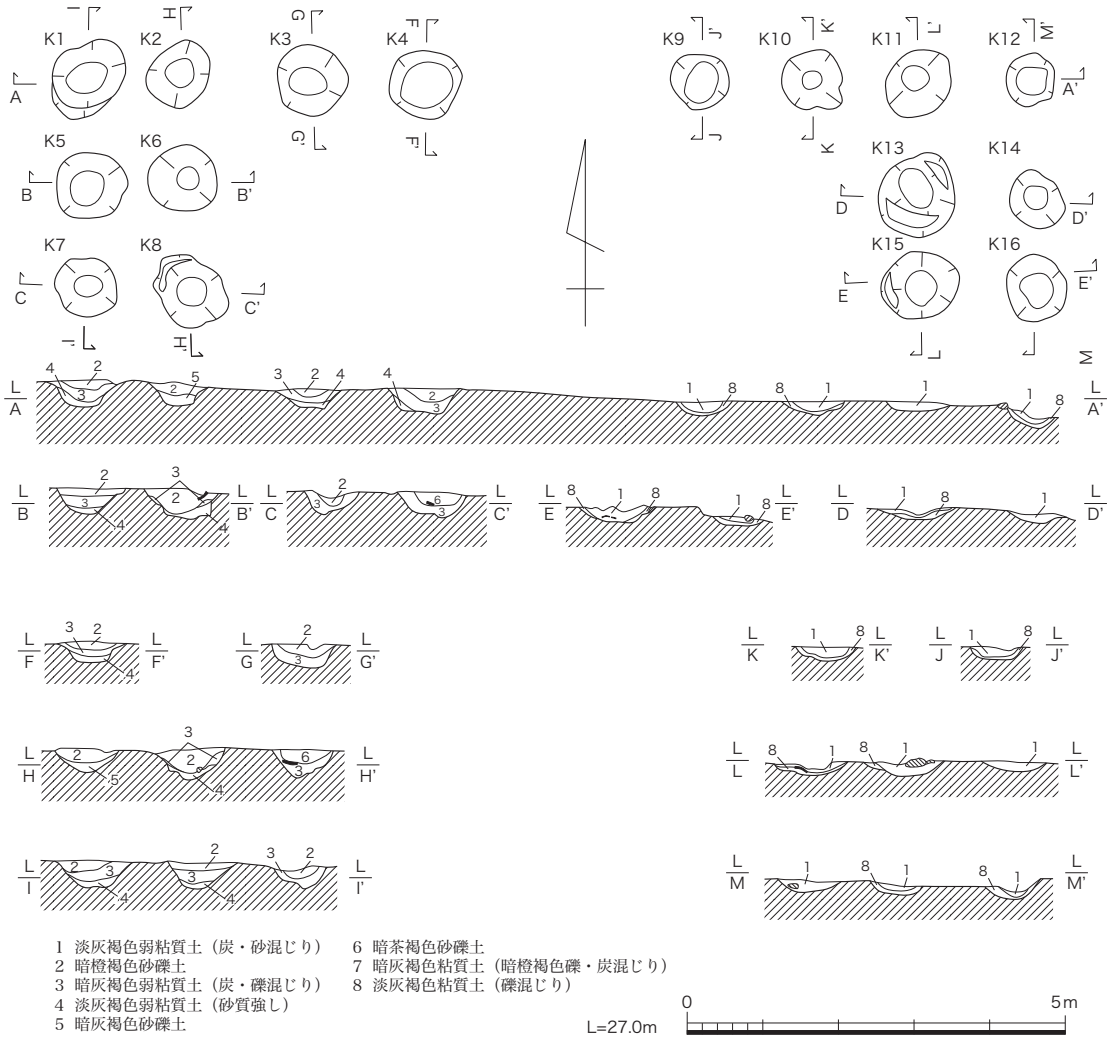
第４－４図　掘立柱建物 SB02 実測図（1/100）

検出遺構

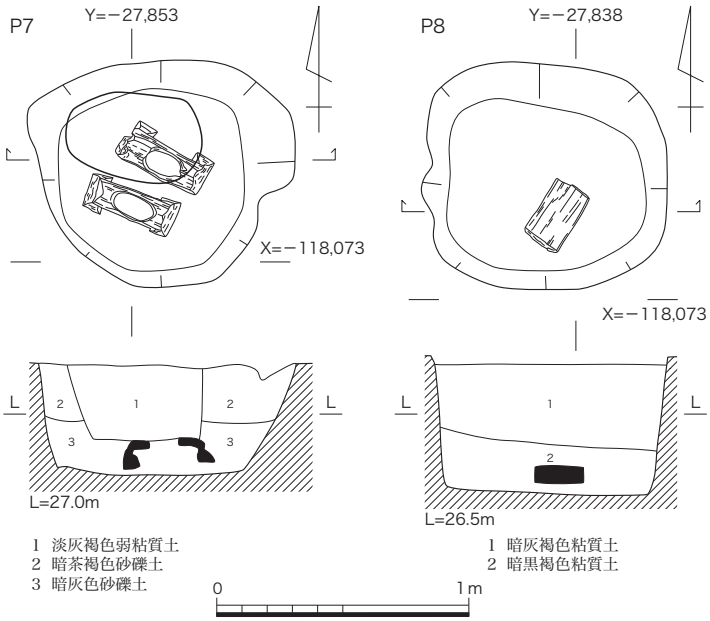
平安時代前期の検出遺構には、土坑１基、掘立柱建物２棟、区画溝３条、小柱穴がある。これらは、古墳時代の流路を覆う茶褐色砂礫層（第４－２図第10層）の上面で確認された。また、古墳時代後期の流路としたSD09最上層出土遺物についても対象に含めた。

平安時代の遺構群は、掘立柱建物SB06と甕据え付け穴を持つ掘立柱建物SB02が東西に並び建ち、掘立柱建物SB02・06の間に区画溝SD05、掘立柱建物SB02の周囲には溝SD03・04が巡らされており、極めて計画的に配置されていたことが分かる（第４－３図）。

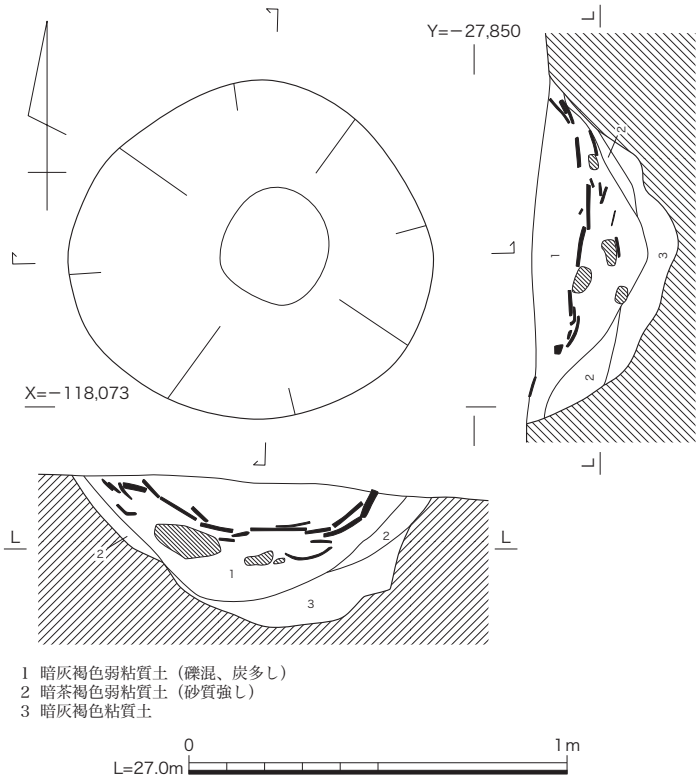
掘立柱建物SB02（第４－４～12図）　掘立柱建物SB02は、梁間２間、桁行５間の東西棟で、北側と西側に溝SD03・04が巡らされている。調査範囲外のため確認できなかったが、南側に廂が、また、東側と南側には溝の存在が想定できる。掘立柱建物は、柱間が桁行方向３m、梁間方向が2.4 mであり、その規模は南北６m、東西12 mを測る。柱掘形は概ね隅円方形で、一辺が0.8～1.1 m、深さ0.4～0.7 mを測る。西側梁方向の柱掘形では、直径0.3 m前後の柱当たりを確認することができた。軟弱な地盤を克服するために、棟持柱である柱掘形P7・8では木



第４－５図　掘立柱建物SB02甕据え付け穴実測図（1/100）



第４－６図　掘立柱建物 SB02 柱掘形 P7・8 実測図（1/30）



第４－７図　掘立柱建物 SB02 甕据え付け穴 K6 実測図（1/20）

第４－８図　掘立柱建物 SB02 柱掘形 P7 礎板出土状況（西から）

第４－９図　掘立柱建物 SB02 柱掘形 P8 礎板出土状況（東から）

第４－10 図　掘立柱建物 SB02 柱掘形 P2（北から）

第４－11 図　掘立柱建物 SB02 柱掘形 P5（北から）

第４－12 図　掘立柱建物 SB02 柱掘形 P10（南から）

製の礎板が据え置かれていた。特に、柱掘形 P7 の礎板２点は建物部材を転用したものと考えられる。また、木製の礎板こそ出土していないものの、その他の柱掘形では大小の礫が根固めのために用いられていた。

掘立柱建物 SB02 の内部からは、整然と配置された円形土坑 16 基を検出した。土坑は、直径 0.7 ～ 1.2 m、深さ 0.2 ～ 0.5 mを測る。これらは、須恵器の大甕を据え付けるための穴と考えられ、西側区画中央部の K6 では須恵器大甕の破片が出土している。甕据え付け穴は、東西の各８基を矩形に配することで、建物中央部には南向きの作業空間が確保されていた。

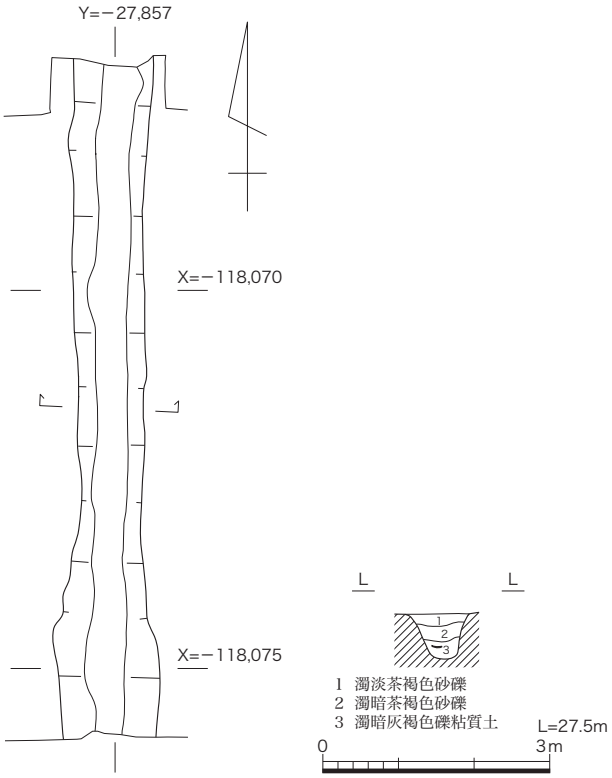
区画溝 SD03・04（第４－４図）　区画溝 SD03・04 は、掘立柱建物 SB02 の西辺と北辺を画する素掘り溝であり、掘立柱建物の北・西柱筋から１m程度離れた位置にある。南北方向の区画溝 SD03 は調査区の北側から延びており、途中で東西方向の区画溝 SD04 と分岐している。また、区画溝 SD04 は一旦途切れており、より新しい時期の土坑 SK01 と重複している。溝の規模は、幅約 0.7 m、深さ約 0.1 mを測る。溝は、倉庫である掘立柱建物 SB02 と外部を区画し、さらには、雨水の流入を防ぐために設けられたものと考えられる。前述したように、区画溝は掘立柱建物の東辺と南辺にも設けられていたと考えられるが、確認することができなかった。

区画溝 SD05（第４－ 13 図）　南北方向の区画溝 SD05 は、掘立柱建物 SB02 と掘立柱建物 SB06 を隔てている。溝の中心は、掘立柱建物 SB02 から 2.1 m西、掘立柱建物 SB06 から約 2.7 m東の位置にある。溝の断面形状は逆台形で、幅 0.9 ～ 1.3 m、深さ 0.5 ～ 0.7 mを測る。

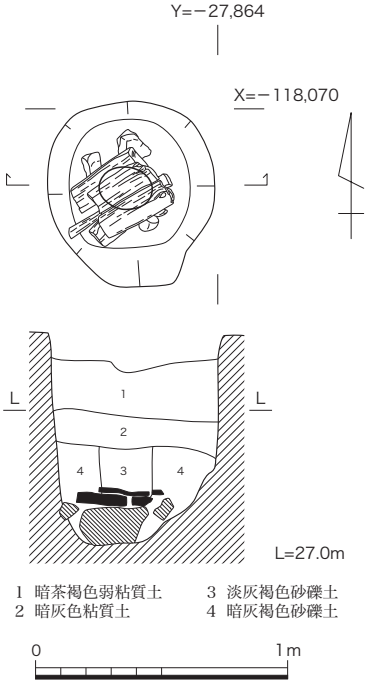
掘立柱建物 SB06（第４－ 14・15 図）　掘立柱建物 SB06 は、区画溝 SD05 を隔てて掘立柱建物 SB02 と棟方向を揃える建物と考えた。柱間は桁行方向が約 2.1 m、梁行方向が約 2.4 mを測るが、西側の柱間（P5–6 間）が 1.8 m程度と若干狭い。このため、梁間２間、桁行３間の建物が東西に２棟並ぶか、西側に廂を設ける建物の可能性が考えられる。柱掘形は概ね隅円方形である。柱掘形の規模は一辺 0.5 ～ 1.0 mであり、掘立柱建物 SB02 に比べてやや小振りであった。また、柱当たりは直径 0.2 ～ 0.35 mを測る。掘立柱建物 SB06 の各柱掘形でも大小の礫が根固めのために用いられていた。特に、柱掘形 P2 では掘形の底部に人頭大の礫と木製の礎板が据え置かれていた。なお、掘立柱建物 SB06 の内部には、甕据え付け穴など特殊な構造は認められなかった。

第８層の落ち込み（土坑 SK01）（第４－２・３図）　調査区北辺中央部の不整形な落ち込みを土坑 SK01 として略報告時に記述した。しかし、調査区北壁の土層観察成果などとの整合性から、調査区の東半部に存在する暗茶灰褐色砂礫土層（第２図第８層）の形成による落ち込み堆積とするのが妥当である。この堆積層からは、緑釉陶器香炉など多くの土器が出土しているが、これらは第８層に二次的に包含されたものと考えられる。後述する第７～９層の落ち込み（流路 SD09）も同様な性格と考えられるが、遺物の出土地点が異なるため区別して記述した。

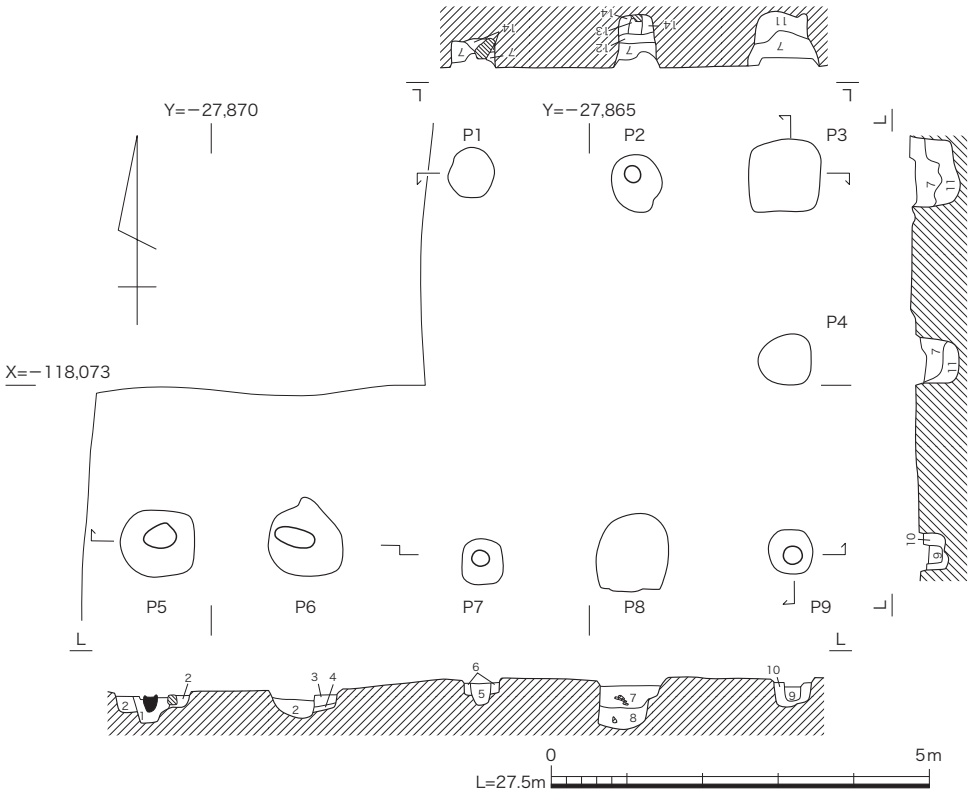
第７～９層の落ち込み（流路 SD09）（第４－２・19 図）　調査区の東辺では、調査着手時の排水溝掘削などで古墳時代後期、平安時代前期の遺物が比較的多く出土していた。このため、調査期間の終盤に調査区北東部を北へ拡張し、調査区東半部に広がる堆積層の性格解明を試みた。



第 4 − 13 図　区画溝 SD05 実測図（1/100）



第 4 − 14 図　掘立柱建物 SB06
柱掘形 P2 実測図（1/30）



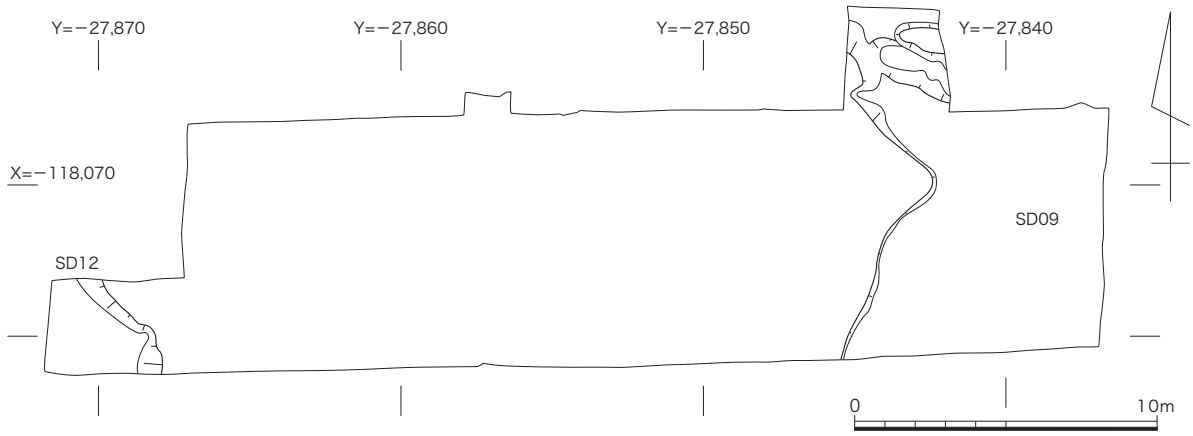
1 暗灰褐色粘質土
2 淡灰褐色粘質土
3 暗黄褐色砂質土
4 淡灰褐色砂質土
5 淡黄灰色弱粘質土（砂質強し）
6 淡茶褐色弱粘質土（砂質強し）
7 暗茶褐色弱粘質土
8 暗灰褐色弱粘質土（礫混じり）
9 暗灰褐色弱粘質土
10 暗黄褐色砂礫土
11 暗灰褐色粘質土（礫混じり）
12 暗灰色粘質土
13 淡灰褐色砂礫土
14 暗灰褐色砂礫土

第 4 − 15 図　掘立柱建物 SB06 実測図（1/100）

第４－16図　区画溝 SD05（南から）

第４－17図　第８層の遺物出土状況（東から）

第４－18図　流路 SD09（北西から）



第４－ 19 図　古墳時代検出遺構図（1/250）

拡張区の掘削状況からは、流路 SD09 の下層には古墳時代後期を主体とする遺物が含まれ、上層の堆積である第７～９層には平安時代前期の遺物が含まれていることが分かった。また、平安時代前期の遺構群との関係では、掘立柱建物 SB02 の東辺部が流路 SD09 の埋没による傾斜地に若干の整地を施したのち柱掘形を掘削していること、さらに、平安時代前期の遺物を多く含む第７～９層が、掘立柱建物 SB02 柱掘形や整地層を切って堆積していることが明らかとなった。

出土遺物

本調査では整理箱にして 41 箱の遺物が出土した。このうちの 20 箱弱が平安時代前期のものであり、次いで古墳時代前期～後期のものが多くを占める。平安時代前期の遺構群のなかでは、流路 SD09 の上面に堆積した第７～９層から最も多くの遺物が出土している。また、掘立柱建物 SB02 の柱掘形および甕据え付け穴、区画溝である溝 SD03 ～ 05、掘立柱建物 SB06 柱掘形などからも一定量の遺物が出土している。ここでは、各遺構の出土遺物について概略を述べる。

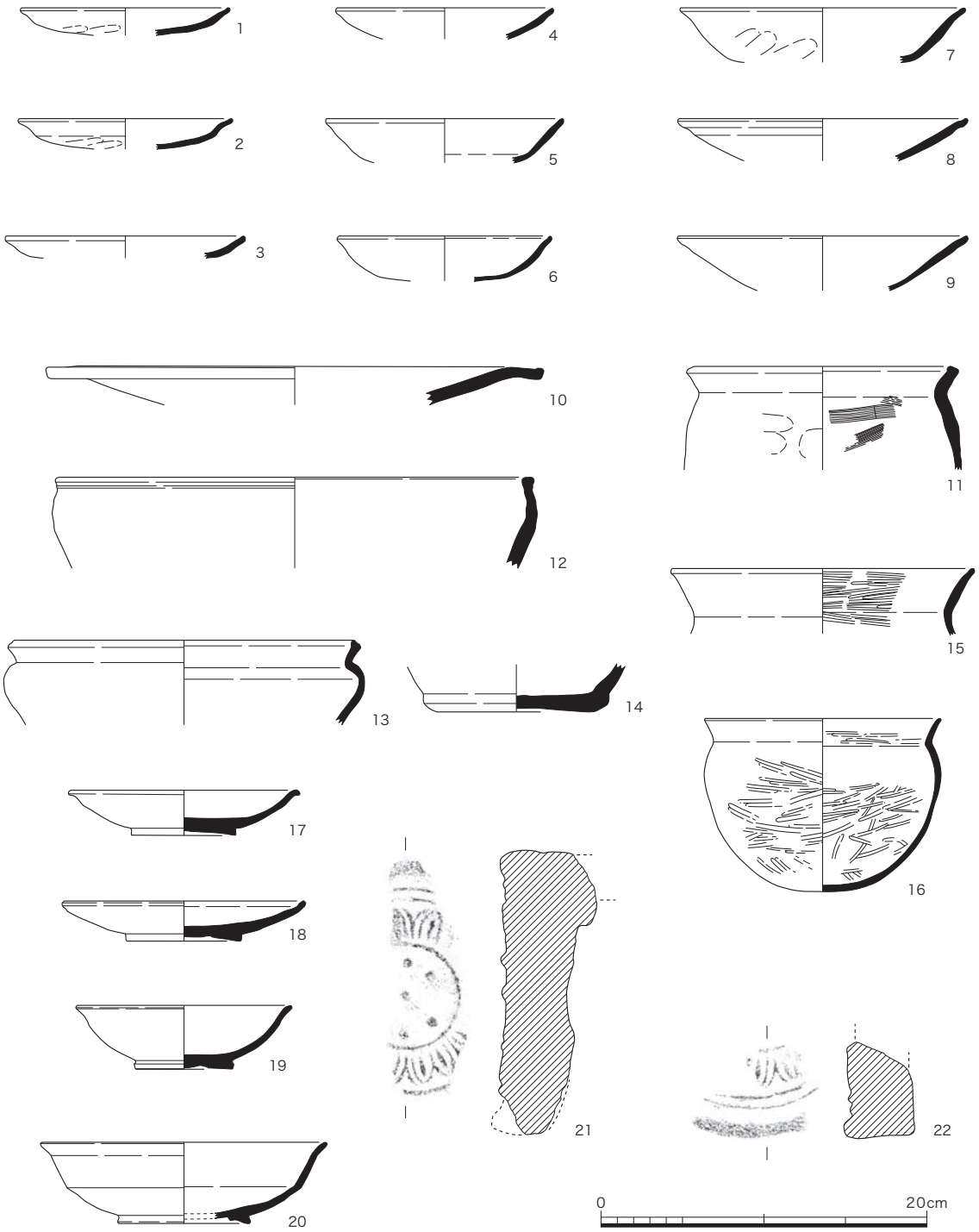
掘立柱建物 SB02 出土遺物（第４－ 20･21･35 図）　掘立柱建物 SB02 の出土遺物は、柱掘形、甕据え付け穴、そして、建物の周囲を巡る区画溝に分けることができるが、多くは甕据え付け穴から出土した。

柱掘形から出土した遺物には、土師器皿・甕、緑釉陶器の小片、平瓦、軒丸瓦（21・22）がある。軒丸瓦はいずれも東側の棟持柱である柱掘形 P8 から出土している。軒丸瓦の 21・22 は、中房に比べて花弁が短く、弁区と外縁の境界に２重の圏線を巡らせるもので、平城宮 6225A 型式と考えられる。

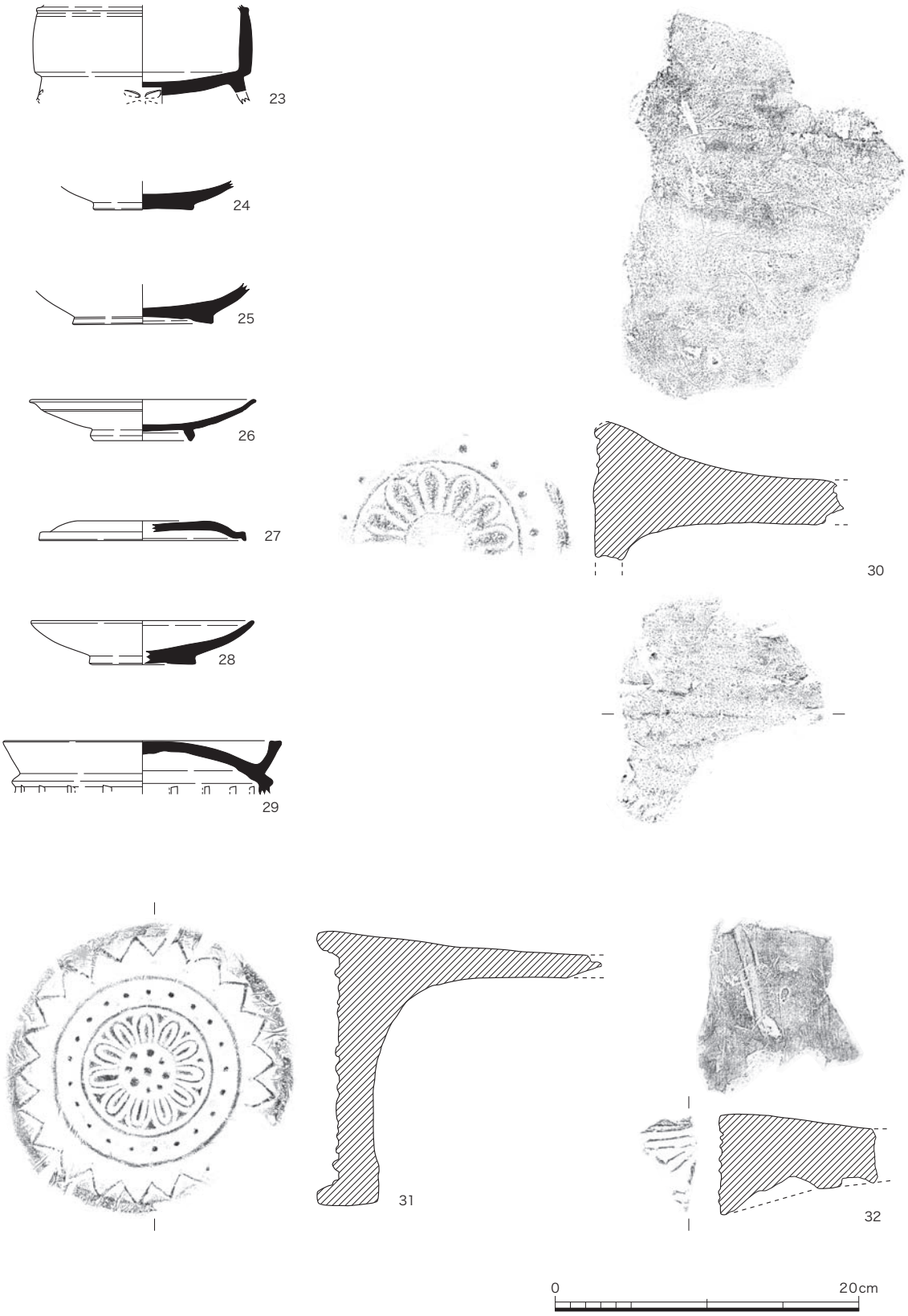
掘立柱建物 SB02 の周囲を巡る区画溝の出土遺物として、区画溝 SD04 から出土した須恵器杯 B 蓋（27）・皿（28）を図示した。区画溝 SD03・04 では土師器皿・甕、須恵器甕、緑釉陶器も出土しているが、細片が多く量的にも限られていた。

掘立柱建物 SB02 の甕据え付け穴からは比較的多くの遺物が出土しているが、各穴の出土量は一様ではない。しかし、須恵器甕（77）の破片が多く出土した甕据え付け穴 K6 や、土師器、須恵器、黒色土器など多種類の土器が含まれていた甕据え付け穴 K4 など、出土遺物の量は東側区画に比べて西側区画の甕据え付け穴の方が多い傾向にある。甕据え付け穴から出土した遺物には、

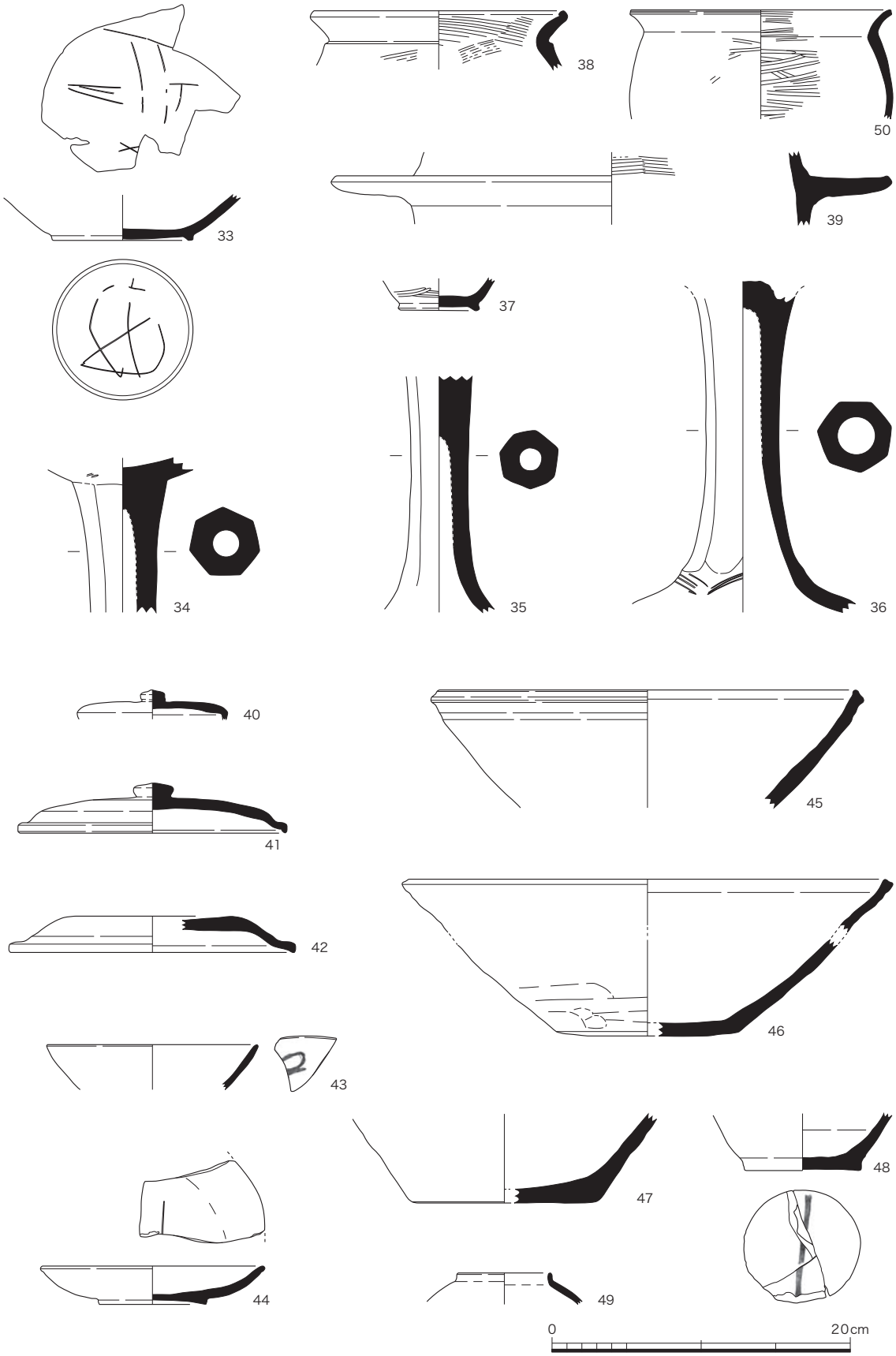
土師器の皿（１～３）・杯（４～９）・高杯（10）・甕（11）・羽釜、須恵器の皿・鉢（12～14）・甕（77）、黒色土器の甕（15・16）、緑釉陶器の皿（17・18）・椀（19・20）、灰釉陶器皿、平瓦などがある。77 の須恵器甕は、口縁部径が 50cm 程度に復元され、口縁部外面に３条の波状文が施されている。体部の器壁は比較的薄く、外面にタタキ、内面には丁寧なナデ調整が施されている。破片の出土状況などから、据え付け穴に配されていた甕である可能性が非常に高い。



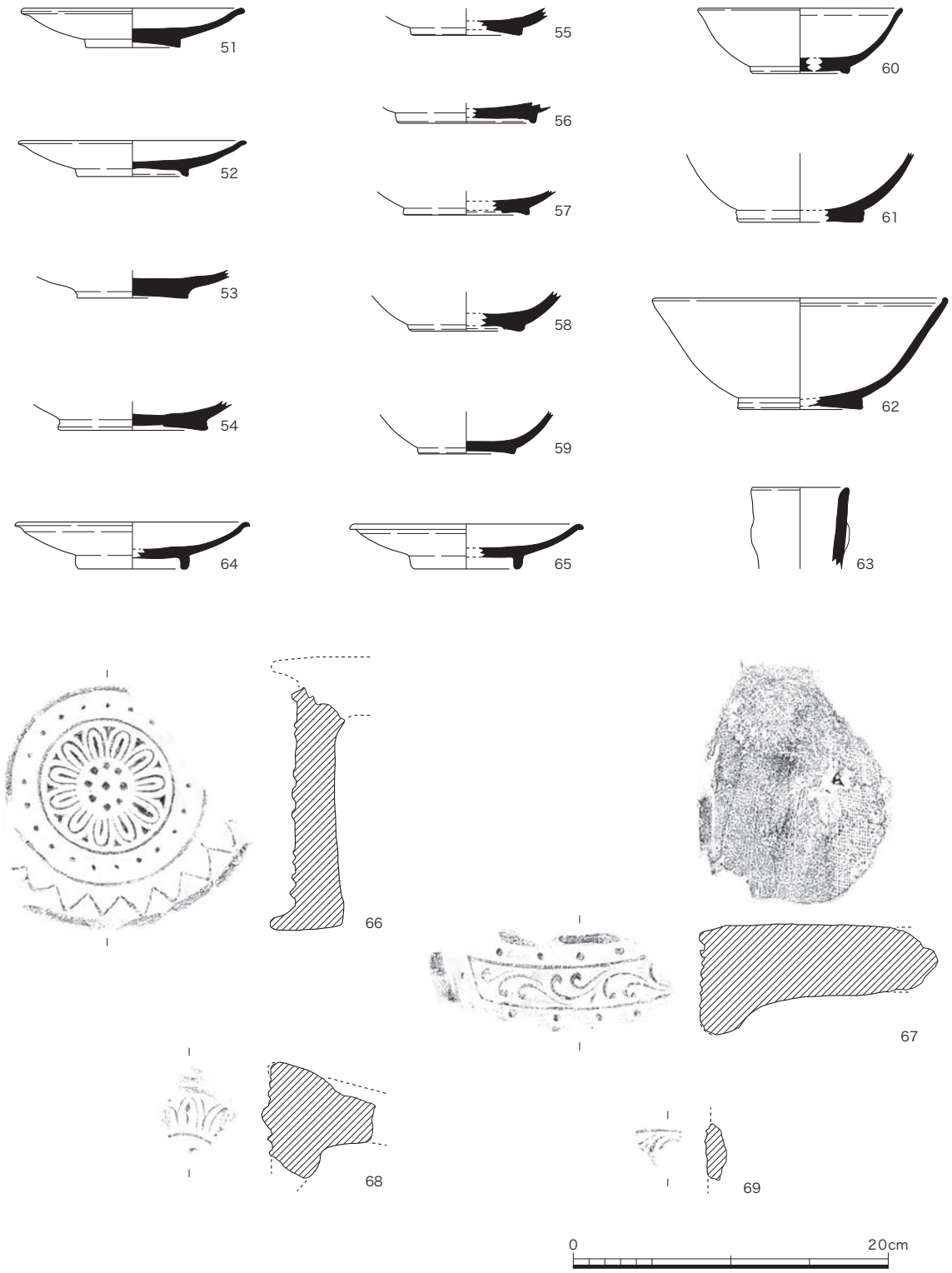
第４－20 図　出土遺物実測図－１（1/4）



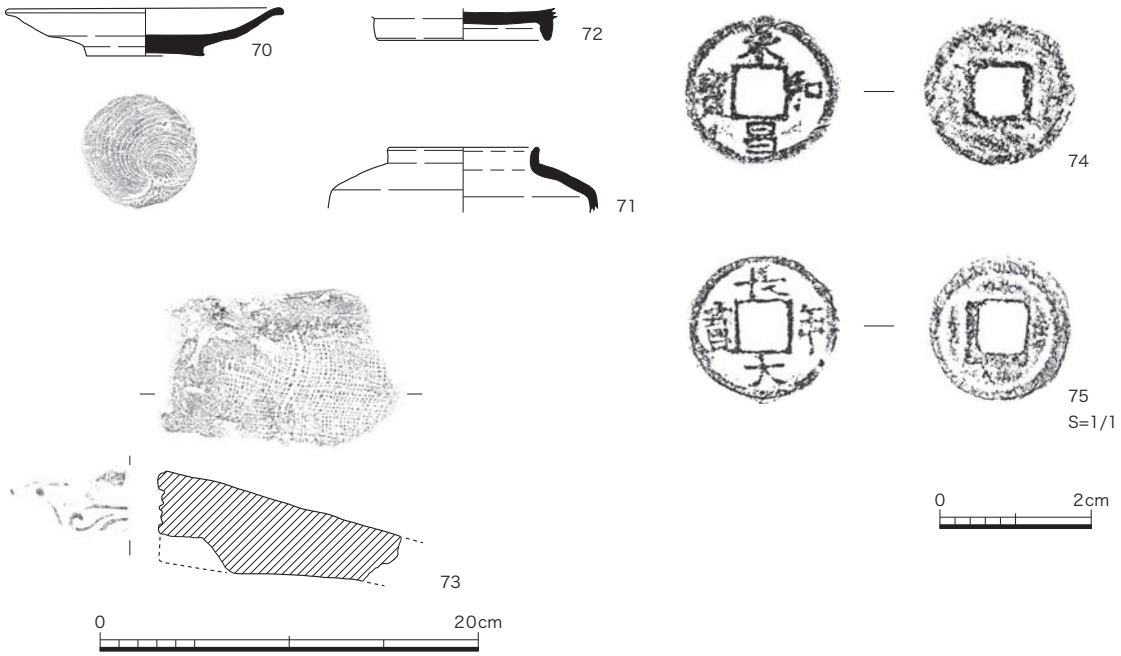
第４－21 図　出土遺物実測図－２（1/4）



第４－22図　出土遺物実測図－３（1/4）



第４－23 図　出土遺物実測図－４（1/4）



第４－24 図　出土遺物実測図－５（1/1・1/4）

区画溝 SD05 出土遺物（第４－21 図）　土師器の皿・甕、須恵器の鉢・甕・円面硯（29）、平瓦、軒丸瓦（30）がある。29 の円面硯は、半球状に大きく盛り上がった硯面を持つもので、脚部には長方形の透かし穴が 12 箇所穿たれている。30 の軒丸瓦は、盛り上がった花弁を配した長岡宮 7149 型式であり、谷田瓦窯の製品と考えられる。

掘立柱建物 SB06 出土遺物（第４－21 図）　掘立柱建物 SB06 の柱掘形にも、掘立柱建物 SB02 と同様な土師器皿・甕、緑釉陶器の小片、瓦類が含まれていた。しかし、小片が多く図示できたのは軒丸瓦（31）と軒平瓦（32）に限られる。31 の軒丸瓦は、外縁に明瞭な線鋸歯文を配したもので、平城宮 6134C 型式と考えられる。後述する第７～９層の落ち込み（流路 SD09）出土遺物にも同型式の軒丸瓦が含まれていた。

第８層の落ち込み（土坑 SK01）出土遺物（第４－21 図）　調査区東半部の暗茶灰褐色砂礫土層からは、土師器の皿･高杯･甕、須恵器の鉢･甕、黒色土器甕、緑釉陶器の香炉（23）･皿（24･25）・灰釉陶器皿（26）、平瓦などが出土している。23 の緑釉陶器香炉は、口縁端部及び脚部下半が失われている。体部外面の最上部には１条の沈線が、脚部には七宝状に穿たれた４孔が４方向に配される。

第７～９層の落ち込み（流路 SD09）出土遺物（第４－22・23 図）　本調査において最も多くの平安時代遺物が出土したのが、落ち込みに堆積した第７～９層である。出土遺物の種類は多様であり、また、残存状態の良好な個体が比較的多く認められた。出土遺物には土師器の皿・杯（33）・高杯（34～36）・壺（37）・甕（38）・羽釜（39）、須恵器の壺蓋（40）・杯蓋（41・42）・椀（43・44）・鉢（45～48）・壺（49）・甕、黒色土器甕（50）、緑釉陶器皿（51）・椀（52～62）・壺（63）、灰釉陶器皿（64・65）、平瓦、丸瓦、軒丸瓦（66）、軒平瓦（67）がある。

付表４－１　出土遺物観察表

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区層位	備考
			口径	器高	底径				
土師器	皿A	1	(1.7)	12.8	–	灰黄色〈2.5Y7/2〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ	SB02 K4	
		2	(1.9)	13.2	–	黄灰色〈2.5Y5/1〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ	SB02 K4	
		3	(1.4)	14.7	–	にぶい黄橙色〈10YR7/2〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	SB02 K4	
	杯A	4	(1.9)	13.4	–	にぶい黄橙色〈10YR7/2〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデか	SB02 K4	
		5	(2.7)	14.6	–	にぶい黄橙色〈10YR7/3〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	SB02 K4	
		6	(2.8)	13.2	–	にぶい黄橙色〈10YR7/2〉	内面：口縁端部ヨコナデ、体部ナデ、外面：口縁部ヨコナデ、摩滅により不明	SB02 K4	
		7	(3.3)	17.5	–	にぶい黄橙色〈10YR7/3〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ	SB02 K4	
		8	(2.6)	17.8	–	にぶい黄橙色〈10YR6/3〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリか	SB02 K5	
		9	(3.4)	17.8	–	にぶい黄橙色〈10YR7/3〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	SB02 K5	
	高杯	10	(2.3)	30.6	–	にぶい橙色〈7.5YR7/4〉	内面：ヨコナデ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	SB02 K4	
	甕	11	(6.3)	16.6	–	橙色〈5YR6/6〉	内面：ハケメ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ	SB02 K4	口縁部スス付着
須恵器	鉢	12	(5.6)	29.4	–	灰白色〈2.5Y7/1〉	内外面：ロクロナデ	SB02 K4	
		13	(5.2)	21.6	–	灰色〈N5/0〉	内外面：ロクロナデ	SB02 K4	
		14	(2.9)	–	11.2	灰白色〈2.5Y8/2〉	外面：下部ケズリ、底部ヘラ切り	SB02 K4	内面にスス付着
黒色土器	甕	15	(4.1)	18.6	–	内面：黒色 外面：にぶい黄橙色〈10YR5/3〉	内面：ミガキ、外面：ヨコナデ	SB02 K4	
		16	10.6	14.5	–	内面：黒色 外面：にぶい褐色〈7.5YR5/4〉	内面：ミガキ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ	SB02 K6	
緑釉陶器	皿	17	2.8	14.2	6.4	淡乳白色　釉：淡青緑色	内外面：釉薬・剥離の為調整不明、削り出し高台	SB02 K5	
		18	2.5	15.0	7.2	淡白黄色　釉：明黄緑色	削り出し蛇の目高台	SB02 K13	白色軟陶
	椀	19	3.9	13.3	5.9	内外面：淡青灰色、釉：淡緑色	内面：口縁部ナデ、体部ナデ後ヨコ方向のヘラミガキ、外面：口縁部ヘラミガキ、体部・高台ナデ、蛇の目高台	SB02 K2	
		20	5.0	17.7	8.1	明白灰色　釉：暗黄緑灰色	内外面：釉薬の為調整不明、内外面に重ね焼き台の痕	SB02 K3	
瓦類	軒丸瓦	21	(6.0)	(7.5)	17.4	橙色〈7.5YR7/6〉		SB02 P8	スス付着
		22	(4.3)	(11.4)	(5.9)	にぶい黄橙色〈10YR7/3〉	内面：ケズリ	SB02 P8	平城宮6225A型式

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区層位	備考
			口径	器高	底径				
緑釉陶器	香炉	23	(6.45)	–	–	灰白色〈10Y7/1〉釉：浅黄色〈7.5Y7/3〉	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラ切り後ナデか、内外面：施釉	SK01 南・SD04 東	孔、推定4ヵ所
	皿	24	(1.9)	–	6.6	灰白色〈10Y7/1〉釉：浅黄色〈2.5Y8/3〉	内面：ロクロナデ、外面：ヘラケズリ、内外面：施釉、外面：底部釉ハギ	SK01 南・SD04 東	
		25	(2.7)	–	9.2	浅黄橙色〈10YR8/4〉釉：灰白色〈10Y7/2〉	内面：ロクロナデ、外面：ヘラケズリ、内外面：施釉	SK01	
灰釉陶器	皿	26	2.7	15.0	6.4	灰白色〈10Y8/1〉釉：オリーブ灰色〈10Y6/2〉	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラケズリ、内面：口縁部・体部施釉	SK01	
須恵器	杯B蓋	27	(1.3)	13.6	–	灰色〈N6/0〉	内外面：ロクロナデ、口縁部：自然釉剥離	SD04	
	皿	28	(2.9)	14.6	7.0	灰色〈N5/0〉	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラ切り	SD04 東	
	円面硯	29	(3.5)	18.4	–	灰白色〈N7/0〉	内外面：ロクロナデ	SD05 A区	内面：自然釉付着
瓦類	軒丸瓦	30	(16.4)	17.2	(9.1)	灰白色〈5Y7/1〉	内外面：ナデ	SD05 B区	長岡宮7149型式
		31	(18.7)	17.5	18.0	暗灰色〈N3/0〉	内外面：ケズリ	SB06 P6	平城宮6134C型式
	軒平瓦	32	(10.4)	(15.6)	6.5	暗灰色〈N3/0〉	内面：布目後ナデ	SB06 P9	
土師器	杯B	33	(3.0)	–	9.4	にぶい黄橙色〈10YR7/2〉	内面：ナデ、外面：体部ケズリか、底部ナデ、高台貼り付け時のナデ	SD09 7・8層	底部内外面に線刻
	高杯	34	(10.4)	–	–	浅黄色〈2.5Y7/3〉	外面：杯部ミガキ、脚部ケズリ	SD09 東部 7層	脚部7面
		35	(15.8)	–	–	浅黄色〈2.5Y7/3〉		SD09 北東拡 7層	脚部7面
		36	(22.2)	–	–	にぶい橙色〈7.5YR6/4〉	外面：脚部ケズリ、裾部ミガキ	SD09 7・8層	脚部7面
	壺	37	(2.3)	–	5.5	にぶい黄橙色〈10YR7/3〉	内面：ナデ、外面：体部ミガキ、底部：ナデ、高台貼り付け時のナデ	SD09 北東拡7層	
	甕	38	(3.9)	17.2	–	灰褐色〈7.5Y5/2〉	内面：ハケメ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	SD09 北東拡 7	全体にススス付着
	羽釜	39	(4.8)	–	–	にぶい黄橙色〈10YR7/3〉	内面：ハケメ、外面：鍔上部摩滅の為不明（ナデか）、鍔下部ケズリか	SD09 北東拡 7層	外面下部全体にススス付着
須恵器	壺蓋	40	(2.0)	–	–	内面：灰色〈N6/0〉、外面：灰色〈5Y5/1〉	内面：ロクロナデ、外面：施釉	SD09 7・9層	内面に少し釉
	杯B蓋	41	3.4	18.0	–	灰白色〈2.5Y7/1〉	内外面：ロクロナデ、外面：天井部ヘラ切り後ナデ、つまみ貼り付け時のナデ	SD09 北東拡 7層	
		42	(2.4)	19.2	–	灰白色〈N7/0〉	内外面：ロクロナデ、外面：天井部ヘラ切り後ナデ	SD09 北東拡 7層	外面にススス付着
	椀か	43	(3.0)	14.2	–	灰白色〈N7/0〉	内外面：ロクロナデ	SD09 北東7・8層	体部内面に墨書
	椀	44	(2.6)	15.0	7.2	灰色〈N6/0〉	内外面：ロクロナデ、外面：体部下半部・高台ヘラケズリ、底部ヘラ切り	SD09 北東7・8層	

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区層位	備考
			口径	器高	底径				
須恵器	鉢	45	(7.9)	29.0	–	灰色〈N6/1〉	内外面：ロクロナデ	SD09北東拡7･8層	
		46	(10.0)	32.5	12.4	灰色〈N5/0〉	内外面：ロクロナデ、外面：体部下半部ケズリ、底部ヘラ切り	SD09 北東拡 7 層	
	鉢か	47	(6.0)	–	12.4	内面：黒〈N2/0〉外面：灰白色〈5Y7/1〉	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラ切り	SD09北東拡7･8層	内面全体に墨痕
	鉢	48	(3.8)	–	7.8	灰色〈N6/0〉	内外面：ロクロナデ、外面：底部糸切り	SD09 北東7･8層	底部外面に墨書
	小壺	49	(2.1)	6.4	–	灰色〈N6/0〉	内外面：ロクロナデ	SD09 北東拡 7 層	
黒色土器	甕	50	(7.3)	17.5	–	外面：黒色〈N2/0〉、胎土：灰黄色〈2.5Y7/2〉	内面：ミガキ、外面：口縁部ヨコナデ、体部ミガキ	SD09 北東拡 7 層	
緑釉陶器	皿	51	2.5	14.2	6.0	内外面：暗青灰褐色、釉：暗深緑色	内外面：ナデ、口縁端部ヘラミガキ、底部時計回りのヘラケズリ、削り出し平高台	SD09北東拡7･8層	内面に重ね焼きの痕
	椀	52	2.25	14.5	7.1	灰白色〈N7/0〉釉：オリーブ灰色〈10Y5/2〉	内外面：ロクロナデ、内面：釉ハギ、外面：施釉	SD09北東拡7･8層	
		53	(1.8)	–	7.0	灰色〈N4/0〉	内外面：ロクロナデ、外面：底部ナデ、内外面：施釉	SD09 北東拡 7 層	（全面施釉）
		54	(1.9)	–	9.5	灰色〈10Y6/1〉	内外面：ロクロナデ	SD09 北東7･8層	転用硯
		55	(1.7)	–	7.0	灰黄色〈2.5Y7/2〉釉：オリーブ灰〈10Y6/2〉	内外面：ロクロナデ、内外面：施釉、外面：高台釉ハギ	SD09 北東7･8層	
		56	(1.3)	–	8.8	灰白色〈10Y8/1〉釉：浅黄色〈7.5Y7/3〉	内外面：ロクロナデ、内外面：施釉、外面：高台釉ハギ	SD09北東拡7･8層	
		57	(1.6)	–	7.9	灰白色〈N7/0〉釉：浅黄色〈7.5Y7/3〉	内外面：ロクロナデ	SD09 東7･8層	
		58	(2.5)	–	7.3	灰白色〈5Y7/1〉	内外面：ロクロナデ	SD09 北東7･8層	
		59	(2.7)	–	6.1	灰黄色〈2.5Y7/2〉	内外面：ロクロナデ	SD09 北東7･8層	
		60	4.2	13.0	6.3	釉：暗緑褐色	内外面：ナデ後ヘラミガキか、外面：体部下半部・底部ヘラケズリ、削り出し輪高台	SD09北東拡7･8層	
		61	(4.4)	–	8.0	灰白色〈2.5Y7/1〉釉：灰オリーブ色〈7.5Y6/2〉	内外面：ロクロナデ、内外面：施釉、外面：高台釉ハギ	SD09 北東拡 7層	
		62	7.1	18.8	7.9	淡白（乳）赤色～淡灰白色	内外面：ナデ後ヘラミガキ（単位不明）、外面：体部下部・底部時計回りのヘラケズリ、削り出し蛇の目高台	SD09北東拡 7 層	
	壺	63	(5.2)	6.2	–	浅黄色〈2.5Y7/4〉釉：オリーブ灰色	内外面：ロクロナデ、外面：天井部ヘラ切り後ナデ	SD09 北東拡 7 層	外面にス付着
灰釉陶器	皿	64	3.0	14.9	6.9	灰白色〈N8/0〉釉：オリーブ灰色〈10Y6/2〉	内外面：ロクロナデ、内面：口縁部・体部施釉	SD09 北東拡 7 層	
		65	2.9	14.8	6.8	灰白色〈10Y8/1〉釉：オリーブ灰色〈10Y6/2〉	内外面：ロクロナデ、内面：口縁部・体部施釉	SD09北東拡 7･8層	
瓦類	軒丸瓦	66	(5.1)	(17.3)	(15.3)	暗灰色〈N3/0〉	内外面：ケズリ	SD09東7･8層	平城宮6134C型式
	軒平瓦	67	(15.2)	(16.7)	6.9	暗灰色〈N3/0〉	内面：布目後ケズリ、外面：ケズリ	SD09北7･8層	長岡宮7757B型式

種類	器形	番号	法量（cm）			色調	調整	地区層位	備考
			口径	器高	底径				
瓦類	軒丸瓦	68	(7.2)	(9.3)	(7.3)	灰白色〈2.5Y6/1〉		SD09北東拡7･8層	平城宮6225A型式
	軒平瓦	69	(1.4)	(5.7)	(3.6)	灰色〈N4/0〉		SD09 北東部	
須恵器	皿	70	2.6	14.7	6.3	灰色〈N6/0〉	内外面：ロクロナデ、外面：底部一回転以上の回転糸切り	Ⅰ面精査	
	壺	71	(3.5)	8.0	–	灰白色〈N7/0〉	内外面：ロクロナデ	Ⅰ面精査北東	
灰釉陶器	椀	72	(1.7)	–	9.1	灰白色〈5Y7/1〉 釉：オリーブ灰色〈10Y6/2〉	内外面：ロクロナデ、外面：底部ヘラケズリ、内面：底部施釉	Ⅰ面精査南	
瓦類	軒平瓦	73	(13.2)	(9.9)	4.3	暗灰色〈N3/0〉 灰白色〈5Y7/1〉	内面：布目、外面：ケズリ	灰色腐植土層	
銭貨	承和昌寶	74	2.1	2.1	0.1			Ⅰ面精査北東	
	長年大寶	75	2.0	2.0	0.1			Ⅰ面精査北東	
緑釉陶器	壺	76	–	–	–		内外面：ナデ、外面：施釉	Ⅰ面精査北東	
須恵器	甕	77	–	–	–		内面：ナデ、外面：タタキ	SB02 K6	

土師器杯（33）の底部内外面には線刻が、須恵器の椀（43）・鉢（47・48）・壺（49）には墨痕が認められる。66 の軒丸瓦は、平城宮 6134C 型式と考えられる。同型式の軒丸瓦は、掘立柱建物 SB06 の柱掘形 P6 からも出土している。67 の軒平瓦は、３回半反転する主葉と１支葉からなるもので、中心飾りが失われているものの、長岡宮 7757B 型式と考えられる。

その他の出土遺物（第４－24・34 図）　茶褐色砂礫層（第４－２図第 10 層）上面における掘立柱建物などの遺構検出作業で、比較的多くの遺物が出土した。ここでは、須恵器皿(70)・壺(71)、緑釉陶器壺（76)、灰釉陶器椀（72)、軒平瓦（73)、銭貨（74・75）を示した。銭貨には、835（承和２）年初鋳の承和昌寳（74）と、848（嘉祥元）年初鋳の長年大寳（75）がある。いずれの銭貨も長岡京市域では、これまでほとんど出土例のないものである。前述した２点の銭貨など調査区北東部から出土した遺物は、本来、第７～９層に含まれていたものと考えられる。

小　　結

本調査では、２棟の掘立柱建物が区画溝を挟んで東西に並び建つ状況を確認した。特に、東側の掘立柱建物 SB02 には区画溝が巡らされており、内部に 16 基の甕据え付け穴を配することから、特殊な用途を持つ建物であることが分かる。このような状況は、長岡京廃都後の本地域において数少ない貴重な検出事例といえる。また、出土遺物に香炉を始めとした多くの緑釉陶器、そして、灰釉陶器や銭貨が含まれていたことも、一般的な集落の状況とは異なる点である。これらの遺構群は、出土遺物の特徴より９世紀後半期～ 10 世紀初頭の時期が想定される。

当地の西側では、これまでの発掘調査において同様な時期の遺構が多数確認されており、緑釉陶器、灰釉陶器のほか、越州窯系青磁や定窯系の白磁も出土している[(2)]。こうしたことから、当地を含む乙訓寺東側の低地部に、短期間ながらも乙訓寺に関連する特殊な施設が存在していたものと考えられる。時期的な限定性及び乙訓寺が仁和寺直末寺であった可能性などから、寛平法皇の御在所とする説もある[(3)]。さらに資料を蓄積する必要があるが、周辺調査の精査によって施設の範囲や存続期間、乙訓寺との関連などを検討することが、遺構群の性格を明らかにするため重要な事項と考えられる。

（中島　皆夫）

注１）　木村泰彦「右京第 282 次調査略報」『長岡京市センター年報』昭和 62 年度　1989 年
２）　原　秀樹「平安時代」『長岡京市史』資料編一　1991 年
３）　百瀬ちどり「まとめ」『長岡京市報告書』第 12 冊　1984 年

第４－25 図　調査地全景（北東から）

第４－26 図　掘立柱建物 SB02（北から）

第４－27 図　掘立柱建物 SB02（西から）

第 4 － 28 図　掘立柱建物 SB02 甕据え付け穴西群（西から）

第 4 － 29 図　掘立柱建物 SB02 甕据え付け穴 K6（北東から）

第４－30 図　掘立柱建物 SB02 柱掘形 P7 礎板出土状況（北西から）

第４－31 図　掘立柱建物 SB02 柱掘形 P8 礎板出土状況（東から）

第４－32 図　掘立柱建物 SB06 柱掘形 P2 礎板出土状況（北から）

第４－33 図　掘立柱建物 SB06 柱掘形 P6 遺物出土状況（東から）

第４－34図　出土遺物－１

第４－35 図　出土遺物－２

長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選（三）

平成 25 年 12 月 12 日　発行

編集発行　　公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

〒 617–0853　京都府長岡京市奥海印寺東条 10 番地の 1

電　話　075–955–3622
ＦＡＸ　075–951–0427

印　　刷　　ヨシダ印刷株式会社

〒 604–8277　京都府京都市中京区三坊西洞院町 572

電　話　075–252–5421
ＦＡＸ　075–252–5423